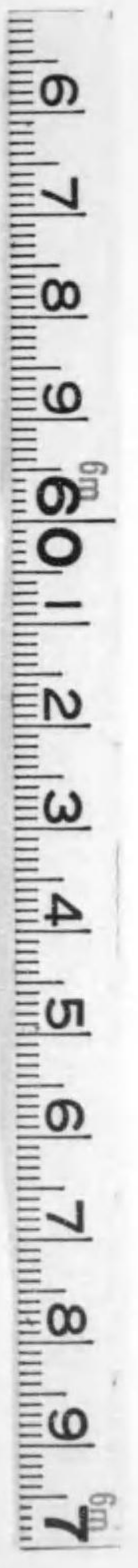


327
677

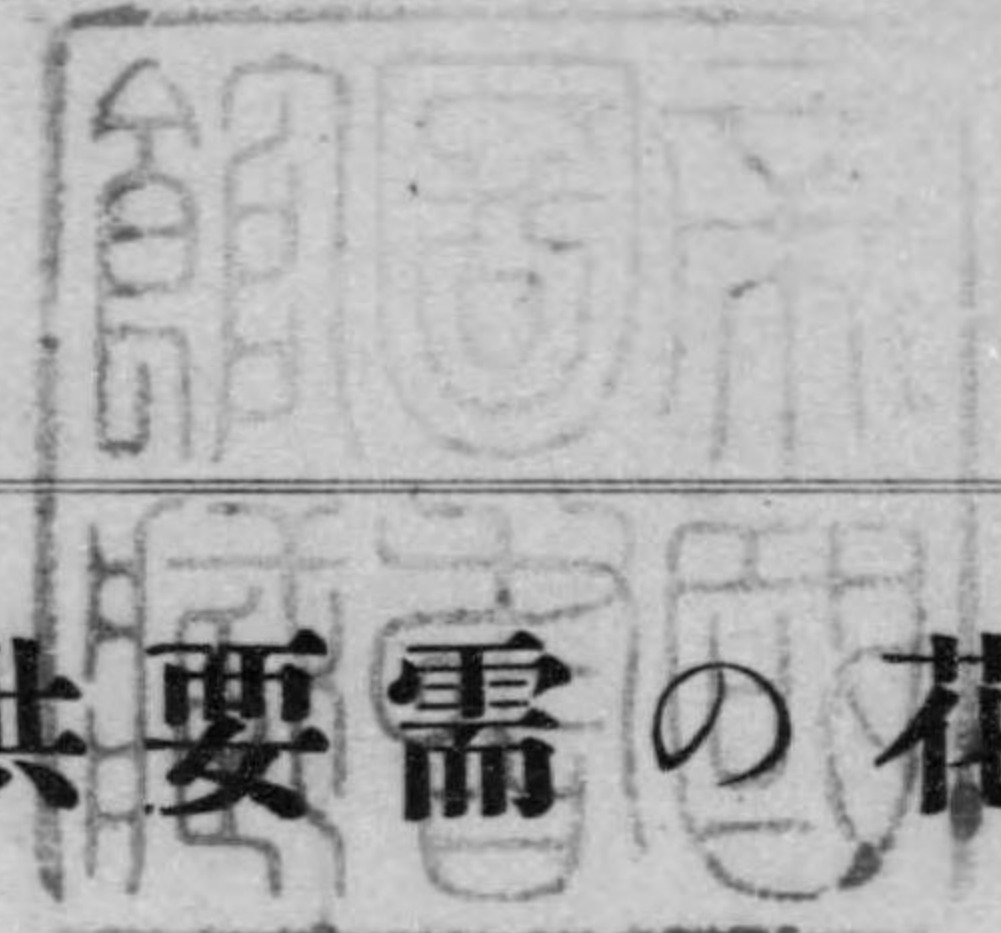


始



26 10 15

3/139
き



給供要需の花棉

農商務大臣 大浦男爵題辭

農商務省 岡商工局長序文

日清紡績株式會社 絹川工場長校閱

蜷川親志編著

大正
3. 11. 19
内交

棉花の需要供給

絹川太一校閱
蜷川親志編著

緒論

世界の工業界に於ける所要原料の供給は逐年不足を告げんとし其需給遂に相償はざるに至らんとす此時に當り各國は殖民地開發に熱中し其着眼點を世界の經濟上需要最多き生産品に置き國幣の疲弊を防禦せんとするに至れり是れ當然の事項にして機械原料就中棉花は其一なりとす方今棉花の購入容易ならざるは紡織業者の常に困苦する所にして歸する所連年需要の増加に外ならずと雖も今後尙ほ此狀況を持續するときは如何なる形勢に遭遇すべきや輓近棉花紡織業者棉花貿易業者及棉花商は極めて困憊の状態にあり是則各種製造工業家が原料需給の大觀をなさずして漫に規模の擴大を以て得たりとし遂に原料の供給は需要を充たす能はざるに至らんとするに起因する所少なからざるなり是等の事實は勢

二
 ひ原料生産費を増加し従て販賣を困難ならしめ結局企業心を阻喪せしむるに至る之を實際に徴するに最近八ヶ年間に於ける世界の紡錘は著しく増加し合衆國の一九〇〇年に於ける一千九百四十七萬二千錘は一九〇九年に至り二千八百一萬八千錘に増加し英國は同年次間に四千五百五十萬錘より五千三百三十一萬二千錘に獨國は同期間に八百萬錘より一千十六萬三千錘に日本は最近五ヶ年間に錘數四割を増加し明治四十二年十二月末調査によるに一九一五年四千八百九十二錘となれり然して棉花の消費額は其代用品なきため年一年増加して殆んど底止する所を知らざるの状態にあり近年北米合衆國及埃及の不作は印度の豐作を以て其缺を償ふに足らず此時に當り紡績業の悲境亦甚しく製品の販賣は棉花價格の昇騰に連れて手控へられ在荷は倉庫に充たんとし従て生産額を減するの不得止に至り或は夜業禁止一部休錘等と呼號し其結果純益金の減少亦免れざるは自然の趨勢なりとす然して將來棉花需給の關係上價格を低下せしむるを得るや否やは頗る難解の事項にして即ち生産編に揭ぐる如く一九〇九年に於ける世界棉花の減収は三百萬俵に達し剩へ棉花主要生産地には年來一定の顧客あり世界の需要額の百分の七十以上を供給する合衆國は自國棉花を消費すること一ヶ

年五百五十一萬畑に達し遂に米棉の不足を告ぐるに至り隨て各國は耕地改良の遅々たる印度に補給を仰がざる可らざるに至れり然して米國の紡績業も亦逐年増進するを以て従て列國に對する供給力益低減するは疑を要せざる而已ならず近き將來に於て米國の耕地は大に増加し棉花産額の激増すべしとも思惟すること能はず且つ現時の耕作法は多少の改良を加へられつゝありと雖も夫れがために棉花の價格を低落せしめ得べき程度の發達をなす事能はず又其勞役者は大部分黑人にして耕作法の改良を解せず此間各外國人の耕作に従事する者ありて多少收穫の増大を見ることあるも之亦價格を低廉ならしむる淵源としての見込なし其他害虫の發生は驅除法遠く及ばずして近年不作の大原因をなしつゝある而已ならず棉花販賣業者は此際協力して代價の上騰により暴利を貪らんとしつゝあるは消費者に取りては一大痛棒たるを免れず故に各國貿易業者は新に棉花供給地を發見するに力め英國貿易業者は南米に獨國人は、コンゴ、共和國に、佛國は印度支那に、露西亞は中央亞細亞に、日本は朝鮮に注視するに至れり方今以上各地に於ける棉花栽培の機運は彌相熟し成效の曙光益明確に赴きつゝあり
 棉業の發達は誠に悦ぶべき現象にして棉花耕作の一日も忽諸に附すべからざる

を知り各國工業家は原料の生産に力め其價を低廉ならしむるの急務を悟り近邇我領土朝鮮に於ても既設小栽培家の興起あり或は一大棉花栽培會社をすら企劃せんとするの機運を醸成するに至れり蓋し帝國のために其成效を祈る處たりと雖も前途尙ほ嶮嶺疊々たるを免れず土人の開墾拓地耕作の方法は甚だ幼稚なるのみならず剩へ未だ全く心服せずして形勢の不穩亦免れざる所あればなり唯百折不撓其成功を恃むにあり當業者夫れ奮起の機を逸することなからんことを以下逐次既往の工業上に於ける棉花を主とせる列國の需給關係及其他を陳述し以て將來の棉花研究に資せんとす

第一編 棉花の需要

第一章 概 說

世界に於ける棉花の需要總額中美術裝飾品原料として使用せらるゝ部分寢具内容品其他保温劑及び藥用綿等を除きたるものゝ殘餘は概ね工業用原棉として綿糸紡績に供せらるゝものと認め得べく其需要概數は紡績數及紡績工場需要額に

よりて略之を詳かにするを得べし即ち一九〇〇年より一九〇九年に亘る間に於ける列國の紡績數及各工場棉花需要額を比較すれば次表の如し

第一表

國 名	鐘 數		需 要 債 數	
	一九〇九年	一九〇〇年	一九〇九年	一九〇〇年
各 國 合 計	一三三,三七七,〇〇〇	一〇五,六六一,〇〇〇	一九三,九七〇,〇〇〇	一五,一八五,〇〇〇
北 米 合 衆 國	一〇四,九〇〇,〇〇〇	四,三三八,〇〇〇	二四七,六〇〇,〇〇〇	一五,三三〇,〇〇〇
棉 花 生 産 地 方	一七,五八九,〇〇〇	一五,一〇四,〇〇〇	二七,三三〇,〇〇〇	二,三三〇,〇〇〇
其 他	一七,五八九,〇〇〇	一五,一〇四,〇〇〇	二七,三三〇,〇〇〇	二,三三〇,〇〇〇
歐 洲	五三,三二二,〇〇〇	四五,〇〇〇,〇〇〇	三三,五二二,〇〇〇	二,三三〇,〇〇〇
英 吉 利 亞	一〇,一六三,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇	一七,七五〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
獨 逸	八,〇七六,〇〇〇	七,五〇〇,〇〇〇	一五,二四〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
露 西 亞	八,〇七六,〇〇〇	七,五〇〇,〇〇〇	一五,二四〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
佛 蘭 西	八,〇七六,〇〇〇	七,五〇〇,〇〇〇	一五,二四〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

給 供 要 需 の 花 棉

澳 國	四三三,000	三三〇,000	七九五,000	六七五,000
伊 太 利	五〇〇,000	一九四,000	九四一,000	四七五,000
西 班 牙	一九〇,000	二六二,五〇〇	三二七,〇〇〇	四〇〇,000
瑞 西	一四九,七〇〇	一五五,〇〇〇	一一〇,000	一二五,000
白 耳 義	一三三,〇〇〇	九〇,〇〇〇	二二〇,000	一七〇,000
葡 萄 牙	四五一,〇〇〇	三三〇,000	六二,〇〇〇	六〇,000
和 蘭	四二五,〇〇〇	三〇〇,000	八五,〇〇〇	七〇,000
瑞 典	四五〇,000	三〇〇,000	八五,〇〇〇	八五,000
那 威	七六,〇〇〇	三五,〇〇〇	一一,〇〇〇	一〇,000
丁 抹 威	七六,〇〇〇	四〇,000	三三,〇〇〇	一五,000
其 他	二二〇,000	一一〇,000	七〇,000	五〇,000
英 領 印 度	五八〇,000	四九五,〇〇〇	一,六二一,〇〇〇	一,一六一,〇〇〇
日 本	一七三,〇〇〇	一七五,〇〇〇	九一〇,000	九〇〇,000
支 那	八〇〇,000	五五〇,000	四〇〇,000	二〇〇,000
日 支 那	一,〇〇〇,000	四四〇,000	三三五,000	八五,000

六

要 需 の 花 棉 編 一 第

メ キ シ コ	七五〇,000	四七〇,000	一八五,000	二五〇,000
加 奈 太	八三二,000	五五〇,000	三二七,000	一一〇,966
其 他	二二五,000	五〇,000	五五,000	一五,000

(表中合衆國、露西亞、英領印度、日本、瑞西及ブラジルは一俵五百封度入計算なり)

本表記載の紡錘數は一千九百九年八月三十一日現在の調査に係り總計一億三千三百三十七萬七千錘消費棉花一千九百三十九萬七千俵にして一週日間に於ける世界の棉花需要高は三十七萬三千俵に達す

是を一千九百年に比するに錘數に於て二千七百七十一萬六千錘需要棉花量に於て四百二十一萬二千俵の増加を示し一ヶ年間平均四十六萬八千俵の増加を見たり隨て一週日に八萬一千俵の需要増加をなしたる割合なり然れども本計算は列國の報告委員及領事其他商事機關よりの報告を綜合したる迄にして未だ以て完全なりと云ふに至らず是南中央兩亞米利加の通報に接せざるのみならず棉花の需要總額に於ても亦之に伴ふ誤謬あるを免れず仍て尙ほ次表により棉花の生産及需要に付各國の關係狀況を百分比例を以て圖示したるを見て補足する所あり

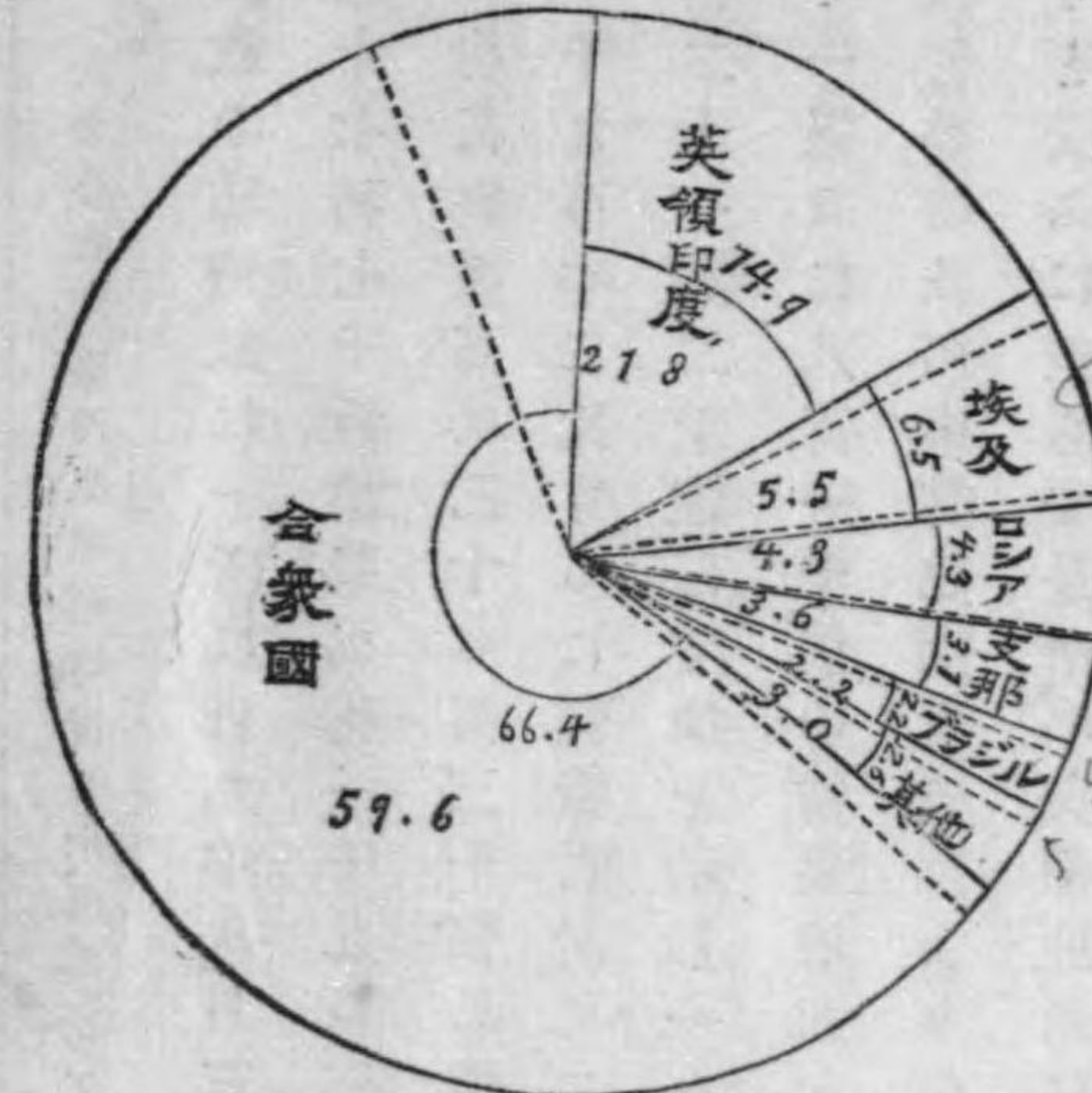
七

或は皆掛量にて通報せられたるものあり尙甚しきは其何れにて通報せられたるやを辨別し能はざりし點あるによる假りに米國は取引習慣上皆掛を使用するに
より皆掛報告として採用し他は全部正味報告として計算する時は恐くは世界の
消費額は正味五百封度入整俵に換算して一千八百八十二萬五千俵と付度せらる
大體に於て北米の産綿は世界の供給額の三分の二を下らざるは多年の供給額に
徴して明かなりと雖も合衆國に於ける毎年の生産額は天災地變及耕地の増減に
より一定不變なる能はざるを以つて自然世界の棉花供給に多大の波動を惹起す
るは世人の熟知する所なり加之世界の棉花消費量は逐年増加の傾向を示しつゝ
あるを以て棉花生産地にして毎年の需要に應ずべき完全なる方法を採るに非れ
ば將來到底低廉なる棉花の購入は得て望む可らざる事實なりとす即最近數千ヶ
年間に於ける米棉需要額の概數により逐年増加の割合を見るに大約二十二年を
一期として棉花の需要額は倍加しつゝあり一千九百十年八月三十一日調査によ
る世界の需要高は約一千三百萬俵にして其二十二年以前の一千八百八十八年八
月調査は六百萬俵強なり尙遡りて一千八百六十六年に於ては三百萬俵一千八百
四十四年に於ては百五十萬俵に近き數を示しつゝありき以上の傾向に則りて今

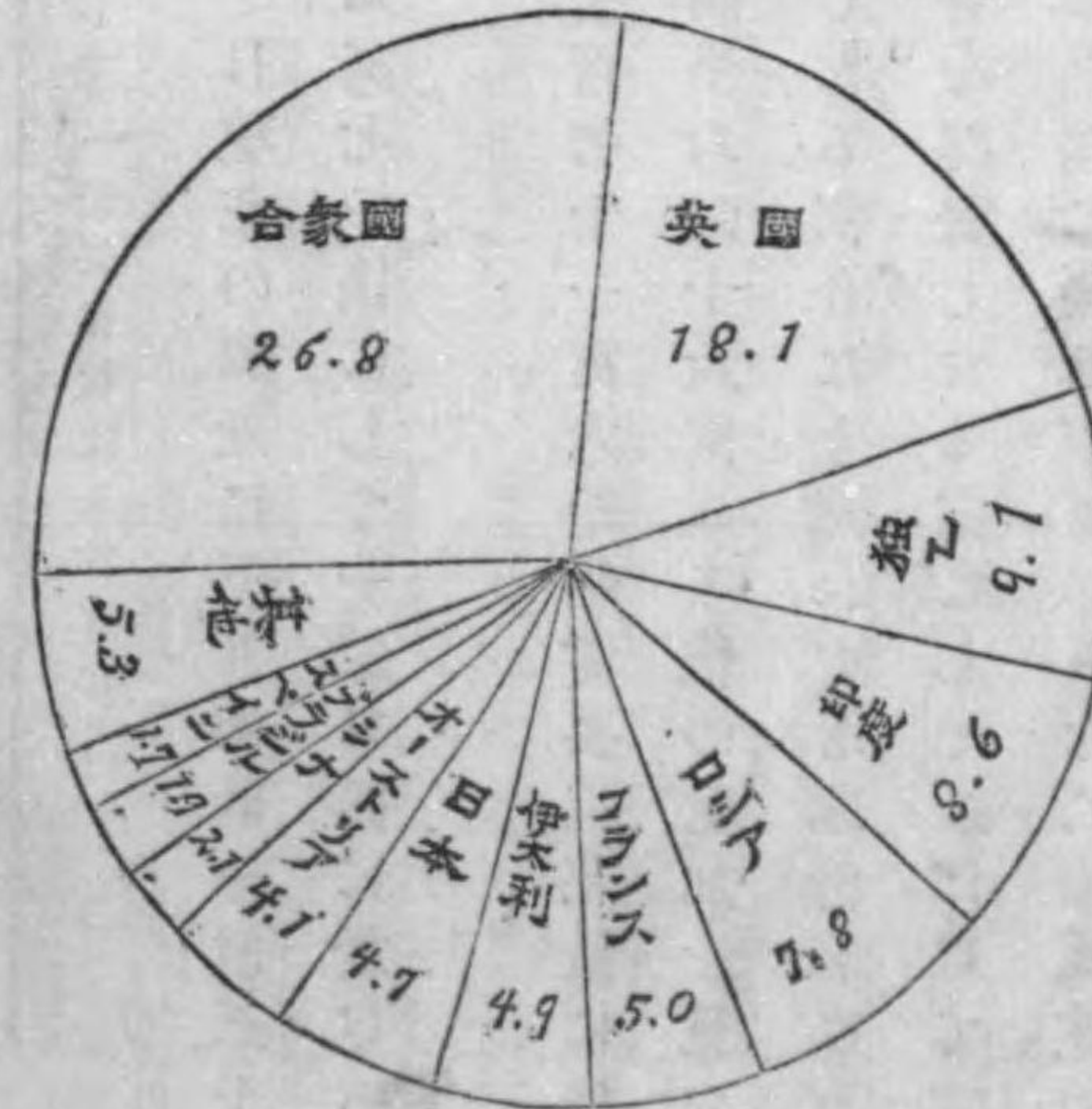
んとす、

第壹圖

世界に於ける棉花供給の割合
黒線は 1908. 點線は 1909.



各國棉花消費の割合 (1909)
(八月三十一日調)



一千九百八年世界の工場消費に充てたる棉花は正味五百封度入一千九百五十七
萬四千俵にして是を一千九百九年八月三十一日の調査使用高に比較するに非常
の差違を顯はせり之れ消費額統計の内或は正味量にて通報せられたるものあり

後の増加の割合を計るに一千九百三十二年に至るときは二千六百萬俵を要するに至り一千九百五十四年に至るときは五千二百萬俵を要するに至る割合なり故に一千九百十年に於ける米棉の收穫にして一千三百萬俵内外に止まるを現實にせば恐くは世界の棉花貿易商に向て注文拒絶書の發送を見るに至らんか否らざるも印度其他の生産額に非常の増大を見るに非ざれば價格に於ても異例の暴騰を來すのみならず現物の配附上に於ても亦斯界に一恐慌を惹起するに至るべし

第一節 合衆國に於ける需要

一千九百七年末頃歐米人の日常必需品たる毛織物の主要原料たる羊毛の使用制限なるもの織物業者間に於て創定せられ工業上に一頓挫を來たし財界の擾亂亦夥しきものありし結果は徐ろに然も確實に其影響を綿絲紡績業者に波及し逐次粗製品の濫造に陥りたることありと雖も然も此時に際し米國棉花の需要は財界の緩和劑として適當に使用量を増加されたるを明かにするを得べし即北米に於ける棉花の需要は一千九百九年に於て五百十九萬九千俵なりしなり然れども一千九百九年に於ける前記棉花の需要激増の源因として之を前年に比するときは

工業の發達したる事實は明瞭なるべきも尙ほ廻りて一千九百六年或は一千九百七年に比するときは決して發達したる形態を發見せず

第二節 歐羅巴の需要概説

一千九百九年歐洲の棉花商は棉價騰貴と共に新棉の先約を中止し成行買の方針を採れり然れども米棉不作の結果歐洲に於て迅速なる騰貴を呈したるを以て歐人をして米人に先んじて棉況不振を復活せしむる方法を講ずるの止むなきに至らしめたり是手持品の稀薄なりし結果にして當初新棉の買約をなさずして徐ろに低落を期待しつゝありし綿價は更に變動なく然も年來財界不振の結果回復の時機遅々として至らず止むなく棉花の遽か注文を見るに至り彼等の政略は全く晝餅に歸し終れり然れども彼等歐人は少しも躊躇するとなく高價なる原棉を買入れ且つ其の缺損の填補に關しては不景氣期間の終了を早からしむる新材料の發見に努めたるのみならず各製造家は互に粗製濫造を警め正當の形勢を持続して損害を回收するに専ら持久策を採りたるは眞に當を得たるものと言はざる可らず故に不景氣挽回の時機到達せば大不列顛の紡錘及歐洲大陸の此方面に投せ

られたる資金の大部は其出來得る限りの能力を以て一舉に大勢を挽回せんことを豫期しつゝ運轉を續行せり

此間製織工業家は紡績業者の忍耐したる期間を同一步調にて経過すること能はざりし結果遂に東洋市場に於て取引する商品の溢滞を來すに至り漸く原價に賣却せらるゝの悲運に遭遇し殊に英領印度及支那に於て最顯著なる現象を呈したり然も棉花收穫の減少及び商業不振を眼前に控へ居りしを以て時によりては歐洲内地賣買値段即歐洲内地の要求價格以下に低落せしことあり然れども此の狀況は一時の方策に過ぎずして到底永久に持續されたる手段にはあざりき何となれば彼等は金利倉敷料及逆輸運賃の計算上より割出したる利益の方法を實行したるに過ぎざればなり

一、英 國

第一表に於て英國の紡錘は一千九百九年に於て五千三百三十一萬二千錘の運轉をなしたる旨を掲げたり是を一千九百年の運轉錘數四千五百五十萬錘に比較するに此九年間に増加したる割合は百分の十七に相當す然して英國内に於ける紡

錘全部を世界の總紡錘數に比するときは大約其の百分の四十を獨占す

一千九百九年八月三十一日調査による消費棉花の總額は世界生産棉花總額の大約百分の十八に過ぎざりき是概説中に述べたるが如く歐洲財界の擾亂に基きし結果にして英人か此間専ら持久策を執りたりしを示す所の明鏡とす

尙ほ上記の形勢を説明せん一千九百九年に於て英國の各紡績業者は事實上可及的精製したる物品の製造に苦心したる結果技術上に於ける多大の經驗を重ね一般業者は此期間を利用して彼等の腦力を涵養し置くを得たりしこと更に大なりしが如し故に他の歐洲列國の生産額に比し紡錘數に正比例したる棉花量を消費せざりしとは雖も現實に獲得したる無形の利益は列國の遠く及ばざりし所なりき

一千九百八年中英國の輸入したる棉花の大部分は米國産棉にして其數量實に英國内需要棉花の百分の七十七を占む之に亞ぐものは埃及棉花の百分の十七にして殘餘は英領印度及其他よりせられたりし各少量づゝのものなりとす然れ共此輸入棉花の一部は再び轉賣せられたるものにして此回漕事業は各國の便船中優良の船艙を有するものを選択したり

二、獨逸

獨逸に於ける棉花の需要は紡錘數に殆んど正比例し英米兩國を除くときは世界の最上位にあり第一表に於て獨逸の綿紡錘數は一千九百年に於ては八百萬錘なりしも一千九百九年に至り一千十六萬三千錘に達し百分の二十七を増加したり又此九年間に於ける棉花需要増加の割合は百分の二十六にして相數に於て三十六萬五千俵の増加なりとす以て増錘數と消費棉花量が殆んど正比例せるを知るを得べし然して棉花の輸入は英領印度及埃及よりせられたるものを消費したる外米國より小部分の補給を仰ぎたるものなりと雖も是甚稀少なる額に限られたりき

元來獨逸に輸入する商品中最多額なるは工業用原棉なり然して其加工品は獨逸國輸出品中常に最上位に擧げらるが故に世界に於ける棉花輸入國中に於ては英國に亞ぎ實に第二位にあり從て綿製商品輸出額に於ても亦之に準ず一千九百八年に於ける獨逸の輸入棉花は一百九十八萬二千七百七十四俵にして此内二十二萬二千六百六俵を再輸出せり第二表参照此一ヶ年間に於ける棉花及綿製品の輸出入

金額は輸入に於て四千六百三萬七千二百九十二弗輸出に於て一億四百九十四萬五千八百六十二弗にして差引五千八百九十萬八千五百七十弗を利益したる割合なり

三、佛蘭西

一千九百年頃に於ける佛蘭西の運轉錘數は五百五十萬錘に過ぎざりしも一千九百九年八月末日の調査によれば七百萬錘に近逼し増設の割合實に百分の二十七に當れり從て原棉の需要も亦非常に迅速の増加をなし七十萬俵より九十七萬俵に達し百分の三十九の需要増加を見るに至り綿製輸出品の額亦是に伴ふて増加し歐洲に於ては第三に位し一千九百八年に於ける輸出價格は五千八百八十五萬九千四百三弗なりき同年中の輸入棉花は百二十三萬八千二十一俵にして輸出品は二十一萬四千八百七十三俵なりし輸入原棉の大部分は印度及其他の短纖維物にして米棉は其内漸く二三分を占むるのみに止まれり然れ共此外尙埃及棉の多量を使用し美術工藝品の製作に供せらる

露西亞の紡績業は前各國に比し頗る遅々として振はざる有様なり其鍾數に於て一千九百年の七百五十萬鍾より漸く一千九百九年八月末日に於ける百七萬六千鍾に増加したるのみにして此間最も世界の耳目を驚愕せしめたる極東の戦亂は工業の發展に非常の障害を與へたるは疑ふ可らざる事實なりとす故に大體に於て百分の八の増率をなしたるのみ然れ共原棉の需要に至りては一千九百年の百三十五萬俵より漸進して百五十一萬四千俵に増加し増鍾の割合に比すれば其消化力旺盛なりと言はざる可らず此割合は百分の十二なり露國に於ける所要の原棉は各產地より輸入するものにして途中英國又は獨國を経由するもの多く其大部は船舶又は汽車の搭載換へを要するものとす一千九百八年露西亞の原棉輸入總額は一百四萬八千六百四十三俵なり然して波斯國より輸出する棉花は多く露國の輸入額中に包含す故に露國內紡績工場所在地には特に取引商館を設置されあり其他亞細亞露西亞に於て栽培せらるゝ棉花の大部分も亦露國內各工場に於て消費せらる然して一千九百九年中に於ける露西亞の

四、露西亞

工業の趨勢は甚順潮を缺きたる時期に遭遇せし事ありしも各商館はあらゆる方法を講じて之に抵抗を試み好機の到來を待つて漸く一旭光を認めたるに至れり然れ共向後收穫期に締結さるゝ賣買契約は紡鍾増設と共に或期間を経過するときは得意先より原料の缺乏を訴へられ到底波斯商館より棉花の需要を満足せしむること能はざるに至るべく従て漸次に増加する要求に向ては羊毛を以て補填するの止むを得ざる時機に到着する或は近きにあらんとす

五、奧洪國

九年以前漸く三百三十萬鍾を運轉したりし奧太利、洪牙利國の紡鍾は一千九百九年下半年期に於て長足の進歩を爲し四百三十五萬二千鍾の全運轉を見るに至り其増加率は百分の三十二に當れり然れども消費棉花は漸く百分の十八の増率に止まり六十七萬五千俵より七十九萬五千俵に達したるのみ一千九百八年に於ける同國輸入棉花は七十八萬二千二百二十三俵にして此内極めて少數は印度國が輸入したる米國棉花を購入したるものなり

此國に於ける織布工業の發展は一千九百年以來非常の勢を以て進行し近年迄は

自國用品の供給のみにして殘餘を見ることなかりしに一千九百八年に至り特別の注意を拂ひて綿製品の輸出を開始し一ヶ年一千二百九十八萬三千六百十四弗を利益したり此利潤中大約二分の一は土耳其及バルガン半島諸國に輸出したるものにて獲得することを得たりしも一千九百九年に至りてはバルカン半島に於て棉製商品市場の間に前記利潤に對する障害突發したるを以て爾後引續き好結果を收むること能はざるに至れり

六、白耳義

一千九百九年中九十二萬鍾を運轉せし白耳義國の紡鍾數は一千九百九年に至り百二十三萬壹千鍾に近接しつゝありき然して此九年年間に於ける増加率は百分の三十四にして鍾數三十一萬一千に達す該期間棉花の需要は逐年増加し十七萬俵より二十一萬俵に漸進し其増加率は百分の二十四を算す
白耳義は千九百〇八年中原棉四十六萬七千四百七十七俵を輸入し輸出二十五萬一千二百四十九俵あり而して棉花加工品の輸出入額に至りては殆んど大差なきが如し

七、伊太利

歐洲各國を通じ伊太利の棉花工業は最も感すべき發達をなしたるものと言はざるべからず其紡鍾數は一千九百九年の百九十四萬鍾より急進して一千九百九年八月末日調査によれば五百萬鍾に達し棉花の需要も亦四十七萬五千俵より九十一萬一千俵に増加したり一千九百八年伊太利の輸入したる棉花は九十一萬一千五百七十三俵にして輸出四萬六千六百六十四俵此間輸入棉花の總價格は七百六十一萬五千五百五十八弗なり
伊太利に於ける棉花は全部英領印度及び亞米利加に仰ぐ

八、前記以外の歐洲各國

前記諸國の棉花工業は歐洲各國中最も主要なるものにして之に次ぐものは第一表に記載したる順位によりて低下す則ち西班牙、瑞西、葡萄牙、和蘭、瑞典、丁抹、那威、希臘等にして西班牙及び瑞西を除くの外は何れも多少の増鍾及原棉輸入の増額を見たりしも未だ以て時機に伴ふ發達をなしたるものと認むるを得ず

第一表に於て英領印度の綿紡業は九年間に百分の十七の發達をなしたるを明にしたり即一千九百年の四百九十四萬五千鍾は一千九百九年に至り五百八十萬鍾に増加したり而して消費されたる原棉總額は百十六萬二千俵より百六十六萬一千俵に遞加し大約百分の四十三の増率とす然して消費棉花量に於ては全世界中第五に位す斯く突飛なる消費棉花増加額中民家の内職となる手紡原料として約六十萬俵を含有するものなることを記憶せざる可らず然して固有棉花の多量を生産する印度にして外國綿の輸入を仰ぎつゝあるは一般熟知せらるゝ如く印度固有棉花は織緯短大にして製品に巧技を加ふること能はざるにより織細なる製作品の製造に充てんか爲め約二萬八千俵の外國棉花は一千九百九年中國内各紡績工場に搬入せられたり

第二表に示すが如く一千九百九年三月三十一日調査に係る印度棉の輸出額は百五十二萬二千七百五十二俵にして綿製商品價格は輸入金額一億二千三百三十三萬一千七百一十一弗輸出價格三千七百四十二萬八千二百五十二弗なり

第三節 英領印度に於ける需要

第四節 日本に於ける需要

日本に於ける綿糸紡績鍾數は百七十三萬二千鍾にして之を一千九百年に於ける百二十七萬四千鍾に比するに四十五萬八千鍾を増加せり此間棉花の消費額は七十萬俵より九十一萬俵に達せり然して印度棉花の輸入は逐年非常の増加を來し尙米國棉花の輸入額に於ても多量の増加をなしたるは鍾數に比し激増せる消費量と言はざるべからず是恐らくは紡績工業が晝夜間斷なく續行さるゝこと及び「ミユール」に比し約百分の五十即ち五割方だけ多量に棉花を消費する能力を有する構造の然も回轉數の最も多き紡鍾を増設されたる結果に外ならず然して一千九百八年輸入綿の豊富なる時代に於て各紡績會社の一ヶ年平均綿糸の産額は六千俵宛なりき一千九百八年に輸入したる原棉八十五萬九百四十五俵中其輸出先を細別すれば印度より四十萬二千七百二十五俵米國より二十一萬三千二百九十俵支那より十七萬四千六百三俵を主とし殘餘は統計表第十一、第十二、第十三により其俵數輸入先及各輸入港別等を知るを得べし

支那に於ける紡績錘数は別表記載の如く五十五萬錘より八十萬錘に累加し従て消費棉花は二十萬俵より四十萬俵に増加せり然れども表示の數量を列國のものに比するに錘數増加の割合に消費棉花の増量せざるは勿論なりと雖も國民の家庭に於て使用する棉花の計數は工場以外に莫大なるものあり
清國に於ける紡錘の大約二分の一は上海に据付けられ従て輸入棉花商及棉花工業業者の大半は此地に居住するも世人の熟知する所なり第二表に示す如く清國は棉製品輸入額に於て實に世界の第二位にありて清國を凌駕するものは唯英領印度あるのみ其一千九百八年に於ける輸入額は七千五百三十萬三千二十四俵に達す然して此多數の内三千萬俵乃至總額の三分の二は衣服の材料製造のために手織機械の經緯に供用せられし綿糸なりとす剩へ綿織物輸入價格は四千三百四十一萬一千七百七十八弗を計上されあるを見れば如何に清國が世界に於ける棉花消費國なるかを知るに足るべし

第五節 支那に於ける需要

第六節 「アラジル」に於ける需要

從來伯刺西爾に於ける綿製工業は一般に非常の注意を牽引しつゝ發展し一千九百年漸く四十五萬錘の運轉を見しより年を経るに従ひ逐次に増加の傾向を示し一千九百九年に至り操業一百萬錘と公言するに至れり此順序正しき進歩の行程は工場の發達と製造の進歩とに外ならずと雖も一方に於ては將來に於ける國富の養成を企圖せんため非常に嚴格に營業者相互間に於て粗製品の濫造及廉價多賣主義に自制を加へられたりし結果に外ならず斯の如く注意せられたる此國の製造家ありて尙一千九百七年に於ける綿糸の輸入は二千三百二十七萬九千八百九十七弗に達し綿布の輸入額一千四百七十萬八千四百五十三弗を超過せんとせし事實に徴すれば此國に於ける棉花の需要は自國綿の多數を消費する以外に將來外國綿の輸入亦多額に昇るならんと推測せらる

第七節 墨西哥に於ける需要

墨西哥に於ける綿糸工業は頗る遅々として振はざるものあり第一表に記載せし

如く紡錘數に於て約二十八萬棉花消費額に於て六萬俵の増加を明かにせり是未だ原棉を他國に仰ぎ加工するの機運に達せざる狀況にあるものにして恐くは自國內生産棉花の消費に止まり従て工場に多大の進化を現はさざりし所以なりと信ず去り乍ら一千九百九年に於ける綿製品の輸入價格は四百六十四萬四千六百二弗にして過去兩三年間に殆んど倍加したるを見る

第八節 加奈太に於ける需要

加奈太に於ては綿工業は比較的重要な部に屬するものなれども其概況稍墨西哥に似たるものあり即ち統計の示す如く一千九百年の五十五萬鍾は一千九百九年に至り八十三萬一千鍾の運轉を見るに至れり需要棉花も亦此各年次間漸を以て増加したりと雖ども然も一萬七千俵の増加供給を仰ぎしに止まるのみ是製作者の一般傾向が逐年細糸の生産に留意するに至りし結果にして従て紡錘數に比し原棉の需要額は反比例を示さんとするに至れり一千九百九年三月三十一日調査に係る過去一ヶ年間の輸入綿製品の價格は一千一百四十六萬九千九十五弗なりき

第九節 前記以外の各國

以上各國につきて棉花の需要に注意を要すべき概況を列記したり右調査は未だ以て完全なるものにあらず殊に年次に於て多少の相違あるは寔に止むを得ざる事柄なるが今日其精確なる事實を探究するの餘力なきを遺憾とす更に上記以外の各國につき一言するの必要あり即ち大體に於ては各國共多少の發達をなしたる形跡ありと雖も未だ以て世界の工業界に列し一般の評論を蒙るべき價值を具へたるものなし唯向後の趨勢に鑑み其發達期の到來するを待つべきのみ強て工業用として棉花を輸入する諸國を擧ぐれば亞細亞土耳其印度支那秘露アルゼンチン等に過ぎざるべし

列國中注目に値する原棉及其加工品の輸出入關係を列記すれば第二表の如し讀者斯表を見て或は感慨措く能はざるものあらん本表は棉花關係商業を説明せんが爲めには年次に於て多少不同の嫌なきに非ずと雖も各國統計中最新のものに屬す然して英國は綿製商品の輸出額に於ては最上位にあり次に獨逸佛蘭西白耳義瑞西及び英領印度を推さざる可らざるは數字の示す所の如し輸入貿易に於て

は英領印度の一億二千三百三十三萬一千七百十一弗を世界の最高位とし次に支那の七千五百三十萬餘弗にして合衆國は第三位にあり

輸入の部

國名	年次	原棉 (五百英斤入)	綿製品			
			合計	綿布	綿糸	其他
埃甸國	一九〇八	七八〇、三三三	一四、九三五、九七	一、八八一、二七二	七、五四七、八八九	五、五〇六、七五七
白耳義	一九〇八	四六七、四七	四六、四四九、〇五七	一三、九八七、九〇二	九、一〇一、六〇二	二三、三五八、五五四
ブルガリア	一九〇八	五、三四	三、八七五、九〇二	一、八二六、三〇三	一、八〇一、八六六	二五七、七三三
丁抹	一九〇七	三八、七二〇	七、九八一、〇四〇	五、四九九、三六〇	一、一五五、〇八〇	一、三二六、六〇〇
佛蘭西	一九〇八	一、二三八、二二	一六、九三二、二一八	二、一〇〇、四一九	五、四七一、五五〇	九、三五九、一四九
獨逸	一九〇八	一、九〇、二七四	四六、〇三七、二九二	一〇、〇三八、三六八	二二、一八三、三四二	一三、八二五、五八二
希臘	一九〇八	一〇、七八七	二、〇六一、二八三	一、七三三、八三七	二四七、七二六	九、九七、七二〇
伊太利	一九〇八	九二、五七三	七、六五、五五八	二、一九〇、八七〇	一、三二一、九二五	四、一〇二、七七三
和蘭	一九〇八	三五、四七四	二六、九二五、九三二	六、六一、三三	一五、六八四、四三二	四、六三〇、一八八

諾威	一九〇七	一五、四八九	三、八四三、四六九	二、五三二、四七〇	九三、六九七	三九八、三〇三
葡萄牙	一九〇七	七五、六二〇	三、六六、三六	二、四六六、二六	五四五、二八四	六六六、九二六
ルーマニア	一九〇六	三、一六五	一三、八三、七二八	八、一七五、七九一	三、九九八、三六九	一、六三九、五五八
露西亞	一九〇八	一、〇四八、六四三	八、九六三、五七五	四、三四〇、九三五	四、一三〇、八二五	四九一、八二五
セルグイア	一九〇八	一、三四二	二、七三二、〇〇八	一、一一九、〇三七	一、二五二、九四九	三六〇、〇三三
西班牙	一九〇八	四三、六四五	三、一九六、二六四	八〇九、四六四	五四六、七二八	一、八四〇、〇七二
瑞典	一九〇七	九、〇一七	六、一九九、五六一	二、九三三、〇九八	一、五三七、七九二	一、七三八、六七二
瑞典	一九〇八	二、三九、九四二	二〇、三六一、八五三	一一、九四六、〇二二	四、二七六、六〇五	四、一三九、二二六
英吉利	一九〇八	四、二二、三三三	四六、一一、八〇九	九、三三八、二八三	一、九八八、九五九	三四、八四四、五六七
加奈太	一九〇九	一、〇、六三三	一一、四六九、〇九五	五、四八六、二六二	一、一七七、四六二	四、八〇五、三七二
キユバ	一九〇七	二、六二二	九、二八、四〇九	七、一六五、三七五	三四五、七二八	一、七〇七、三〇六
墨西哥	一九〇九	六、八九二	四、六四四、六〇二	二、四三三、二二三	一、一一一、五五〇	一、一〇九、八二九
北米合衆國	一九〇九	一七三、〇三六	六二、〇一〇、二八六	一〇、一九〇、一三七	三、三〇六、一七二	四八、五二三、九七七
亞爾然丁	一九〇八	一、六二五	二七、〇二六、八〇二	二〇、四六九、四九三	二、四三三、六九二	四、一一三、六二七
伯刺西爾	一九〇七	一一三	二二、二七九、八九七	一四、七〇八、四五三	二、六〇七、八二五	五、九六三、六一九

國名	年次	原棉 (五百英斤入)	綿製品				其他
			合計	製造	布	糸	
埃甸國	一九〇八	五、九六一	一一、九三、六四	七、一六五、〇六三	二、七二一、八九三	三、一〇六、六九八	
白耳義	一九〇八	二五、二四九	五〇、八六〇、一四五	一一、五二八、七七二	一〇、〇四三、九五	二八、二九七、四五八	
佛蘭西	一九〇八	二四、八七三	五八、八五九、四〇三	二八、三五四、五九五	二、〇七六、八七三	二八、四二七、九三五	
獨逸	一九〇八	二二、六〇六	一〇四、九四五、八六二	三三、六九一、五二八	九、二八二、〇〇〇	六、九七二、三四四	
伊太利	一九〇八	四六、一六四	二二、四三七、五八三	一六、〇三二、〇九四	三、〇九八、七三一	二、三〇六、七五八	
和蘭	一九〇八	二四、八六二	二五、六七一、六三六	二、四五九、〇〇一	三、四四五、〇五五	七六七、五八〇	
露西亞	一九〇八	—	一〇、四八〇、七六五	一〇、四五六、五六〇	二四、二〇五	—	
瑞西	一九〇八	一三七、三五五	四七、〇九七、八四九	一一、〇〇五、一四六	三、八四二、六二八	三三、二五〇、〇八五	

輸出の部

其他の佛領 亞非利加	一九〇七	四九	九、六四七、〇六八	八、六五一、四八一	二九八、五三二	六九七、〇五六
英領南亞非利加	一九〇八	—	九、二七二、六八三	五、一五〇、二六六	—	四、二二、四一七
其他の英領 亞非利加	一九〇七	—	九、〇六〇、五三二	—	—	九、〇六〇、五三二
獨領亞非利加	一九〇七	—	四、四三二、二七四	二、六九九、一七四	四二、二二六	一、七三〇、九七四

智利	一九〇八	七七	九、六六六、八一〇	四、五四一、五七八	一、〇六七、二二三	四、〇〇七、〇〇九
秘露	一九〇七	—	三、四〇九、九七二	三、一六五、三三三	三四四、六九九	—
支那	一九〇八	二六、七八	七五、三〇三、〇二四	四三、四二一、七七八	二九、九五七、六四七	一、九三三、五九九
日本	一九〇八	八五〇、九四五	九、九七七、八九三	八、九三三、九五六	九〇六、一九七	一五七、七四〇
朝鮮	一九〇七	一、四〇〇	六、一三三、九四六	三、七三三、三〇九	一、三〇七、四四八	一、〇八三、一八九
暹羅	一九〇八	一、三三二	四、三三六、六五五	二、三三八、一九二	四三二、四七八	一、五八五、九五五
英領印度	一九〇九	二八、一〇九	二三、三三二、七一一	一〇四、五三七、五五四	一一、八四〇、一九五	六、九六三、九六二
佛領印度支那	一九〇七	二〇、二八六	六、四七七、九一〇	四、五二六、八五一	一、五四三、一九〇	三六七、八六九
葡領東印度	一九〇七	—	二三、九九九、七五八	二〇、四〇八、九〇六	二、一三七、二九九	一、三十三、五五三
比律賓	一九〇八	一、二二六	七、一三八、六七二	四、七五四、九九三	一、二八七、五四九	一、〇九六、一三〇
濠州	一九〇七	三、〇五七	三三、二五八、八九	一七、六四九、一三一	一、七四〇、五三四	一三、七三六、一五四
ニュージラランド	一九〇七	三六八	六、八三九、四〇四	三、五三三、一一三	FOI、二六〇	二、九二四、〇二二
埃及	一九〇八	—	一八、〇五四、五七〇	一六、一九四、四一五	一、四四五、五一	四一四、六四四
アルゼリア	一九〇七	一八五	二一、四六六、二九七	一〇、二二一、六五六	一六四、七九六	一、一八九、八四五
チュニス	一九〇六	—	二、四七七、八二五	一、八二〇、六六四	二五、九九五	二〇一、五六六

英 吉 利	一九〇八	五二、四〇	四七二、三三、五三	三四二、七七、五〇	八三、六九、八六八	四四、八四、一八五
北米合衆國	一九〇九	八、五二、六九	三、八七、五六	二、六九三、〇八〇	五五、〇六二	九、六三四、四四
英領 印度	一九〇九	一、五三、五三	三七、四八、二五二	五、五八、三四四	三、四〇八、三九一	四九一、五七七
日 本	一九〇八	—	二、四七、四二	七、二七、四六四	一〇、三九九、九五〇	三、八二七、九七七
フィンランド	一九〇八	—	五三、六一	四六四、七三二	三八、八四九	—

三〇

第二章 商工業上重要視さるゝ米棉に就て

米國棉花の生産に於ける勝利は南部合衆國に占有せらる如何となれば南部の地味及氣候は棉花耕作に頗る適當なるのみならず學識ある農場經營者及適當なる労働者の居住するあり其他最良の運輸機關を容易に利用するを得機械農具を用ひ其他あらゆる大農法の材料を包含せるに依る故に他地方に比し格段の進歩をなし多大の利益を收むるに至りしなり此結果は世界に於ける棉花需要の大約三分の二は合衆國より供給し得るの名譽を擔ふに至りし而已ならず此空言の如き生育の増大と品位の優劣如何は一般需要者の認むる所にして然も其特性は棉花工作品中の何れにも適合せざるものなきは眞に天賦と言ふべきなり

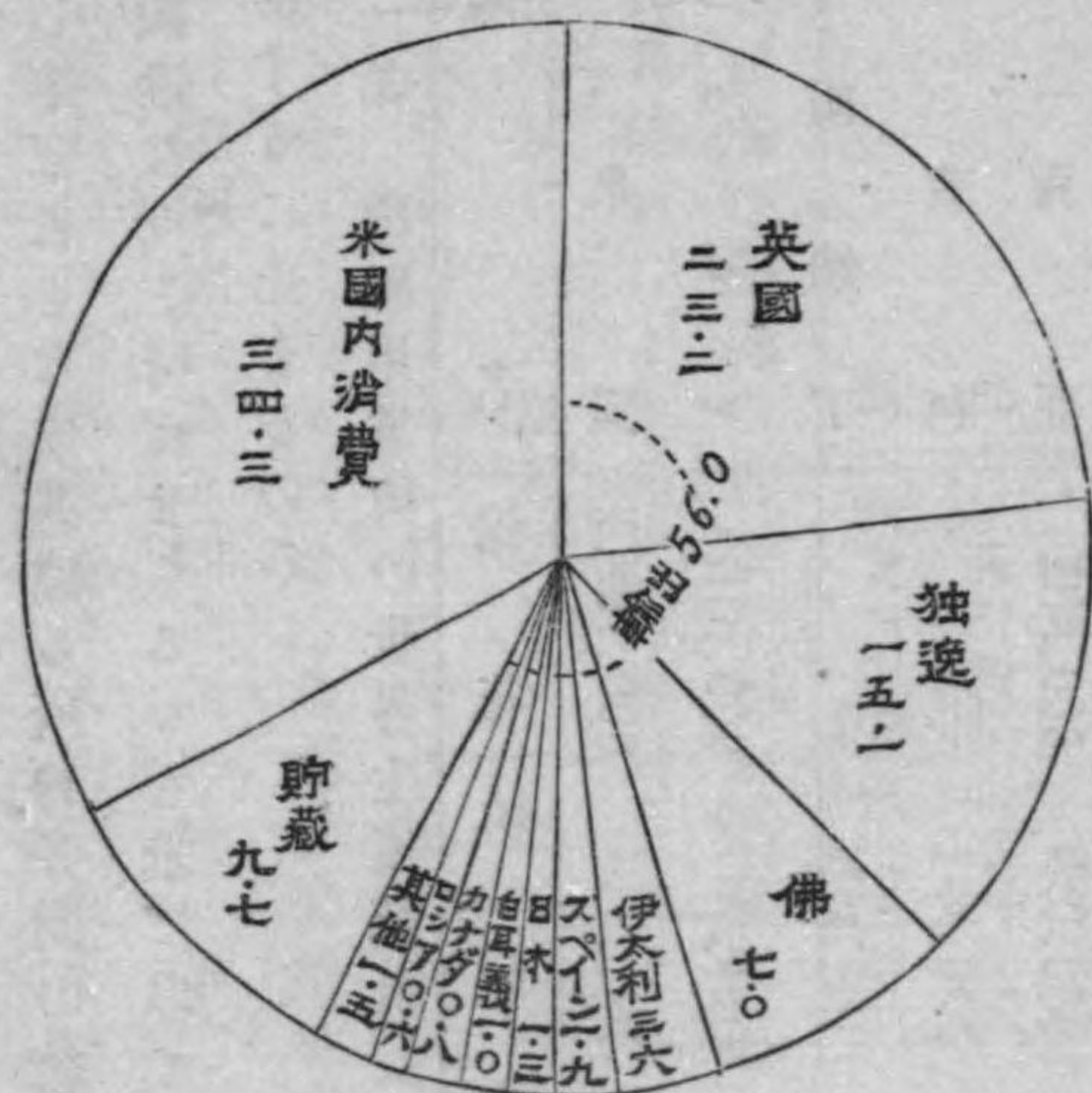
亞米利加合衆國に於ける棉花工業の重要關係は已に前章中に記載したり今同國農務局調査に係はる一千九百七年に於ける生産棉花の賣上高を検するに二十三億七千八百萬弗にして此一ヶ年間に於ける利潤は七億一百万弗の多額に上りたりき然して各種製造品の生産利益は一千九百五年國勢調査局調査の數字によれば百五十億弗の巨額に達し其内單に綿糸として計上されたる利益額四億五千萬弗を含む

列國に供給したる棉花の殘餘即ち總生産額の大約三分の一は合衆國內各商工業家の需要を充たす所の原料にして是れ丈の原料にて一ヶ年四億五千萬弗の利益を見るものなるが故に將來米國工業發達の程度が自國內生産棉花の全部を原料として消費するに至らば其利益は實に十三億五千萬弗たるべきは疑ふ可らざる事實なりとす現今外國に輸出しつゝある棉花は多く米國內地加工品より以上の美的商品の製造に熟練したる歐洲人の製作家に利用せられ居るを以て米人の收得すべき利益の約九億弗は毎年歐洲人によりて奪取せられつゝある割合なり然れども此輸出棉花が運貨諸掛り等多額の雜費を負擔したる後歐羅巴人の手によりて優に二十億弗餘の利益を産出されつゝあるを見れば米國內の工業は其發

達の餘地炳乎たるものにして各國に向ての供給が近き將來に於ては未だ停止さ
るゝが如き憂懼なきものと見て大過なかるべし
前記米國棉花の生産に供せられし勞力の如何を説明せんに全般の取扱手数を混
入し大約九百萬人を超越せんとす此内六百萬人は農夫及び農業勞働者手傳人に
して百萬人は特別に農場經營のために使用されたる雇人なり是等は皆合衆國に
於ける健全なる體軀を具備したるものなることを附記せざるべからず尙ほ殘餘
の二百萬人に限りては全部外國より移住したるもの及び勞働のために渡航した
る米人以外の人種に屬す

第二編に於て説明せんとする事項の内特に摘録を要するものあり即ち一千九百
九年に於ける米國棉花の總供給額は一千五百二十九萬八千三百二十八俵にして
其百分の四十三は合衆國內に於て消費されたるもの及合衆國內の生産者が貯藏
し置きたるものにして其數五百二十四萬七百十九俵なり然れども是に合衆國各
地生産者及需要者の不注意より起りたる各種罹災の額を合算すれば五百二十六
萬俵以上に達すべし殘餘の八百五十七萬四千二十四俵即全額の百分の五十六に
相當する棉花は悉く外地に輸出されたるものなりとす是一九〇九年に於ける合

第二圖



衆國以外の諸國の所要額なりしなり然して此以外に新棉産出迄の期間を維持せ
られし貯藏額は百四十八萬三千五百八十五俵ありき是即總額の百分の十に相當
せる俵數なりとす然して此豊富なる貯藏を現實にしたる理由として一千九百八
年に於ける生産過剩棉花は百九十五萬餘俵ありて頗る恩惠的に一千九百九年の
統計を見積りたるの結果なりとす

世界に於ける千九百九年米國棉花供
給の割合は第二圖の如し

第三章 機織用各種 の織緯

棉花の織物工業上に於ける比較上の
緊要事項を明かにせんとするに當り
機織用各種織緯との關係を説くの必
要を認む一千九百八年中に於ける國
別機織用織緯の種類及金額の概算を

國名	棉花	羊毛	生絲	亞麻	大麻(苧)	黃麻
合衆國	六、五〇一、〇〇〇	三二、一三六				二、二五〇
ブラジル	二二、〇〇〇	一、一三〇				
亞爾然丁		三三、七三三				
英吉利		一三、〇八八		二六、九四四		
露西亞	四三、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二、七〇〇	一、五〇七、一四四	七〇七、六六六	
佛蘭西		七八、〇〇〇	一、三三三	四六、一〇九	三六、六六二	
伊太利		二、五〇〇	一〇、四六一	四一、九七七	一六、八四三	
澳大利		四、六〇〇	七四	一六四、六七〇	一七、七八	
土耳古	四〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	二、八五			
英領印度	一、四七五、〇〇〇	五〇、〇〇〇	二、六五〇		七、七四	二、五二四、〇〇〇

計上し第三表となす其據る所皆各國の統計書中を抄録したるものなれば實際に近き數量なりと忖度せらるゝも未だ以て全然正確なる數量と認め難く即ち唯參考に供するに止まるのみ

第三表 機織用織緯の世界生産統計 (一九〇八年) (一千封度單位)

日支	支那	埃及	英領南亞	オーストラリア	ニュージールランド	其他	總計
	三〇〇、〇〇〇	六三八、〇〇〇				二六、〇〇〇	九、七七七、〇〇〇
	四二、二五三	三、〇〇〇	八九、七八三	五五、一五七	一四三、三三八	三三六、九三三	二、六六七、四二二
	三四、五〇〇					三、二七七	七六、五〇〇
						五九、五二一	一、八四八、二三五
						二、八五二	一、二八八、八九九
							二、五二四、〇〇〇

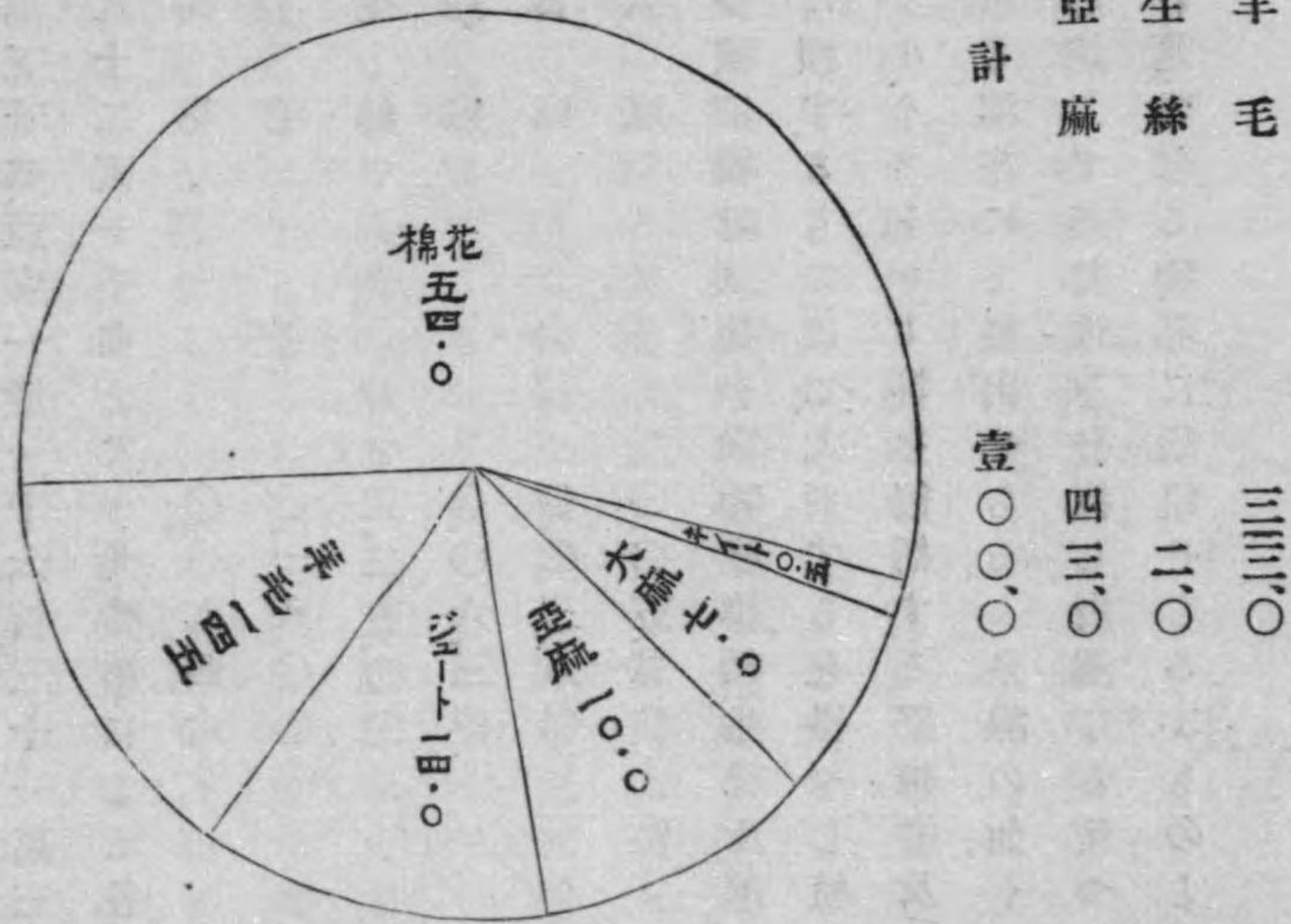
第三表記載の織緯の重要な需要關係として前世紀の内に漸次固有の思想を破壊され其銘柄により非常の偏頗を來たしたるは疑を容れず即ち亞麻織緯の如き十八世紀及び十九世紀の初めに於ては非常なる重要品として各地に優遇せられ他の織緯を壓倒するの勢ありき從て多額の生産を見たり然れども僅々百數十年を経たる今日に於ては全く過去の繁榮を夢みることを得ざる頽勢に陥り織緯需要品中の第四位にあり同期間に於て羊毛は大約五倍の増加をなし五億封度より二十五億封度に迄棉花も亦大約三倍の増加をなし三億封度より十億封度に累進

せり此外特に黄麻(ジュート)の生産は多量の増加を來たしたるを記憶せざるべからず即ち一千八百五十年六千萬封度より一千九百八年の二十五億封度に躍進し大約四十一倍の増加を見るに至れり而して是等各種織緯の生産總額は百八十億四千二百二十四萬五千封度にして之を各種類毎に百分比例を以て示すときは左の如し

棉花	五四、〇
羊毛	一四、五
生糸	〇、五
亞麻	一〇、〇
大麻	七、〇
黄麻	一四、〇
生産總額	壹〇〇、〇
棉花	二二、〇

如上織物用織緯の世界的な重要商品として商業水路の流域中に認識せらるゝに至りしは大約九十年以前にして僅かに十四億封度に過ぎざりき其當時に於ける各種の生産比例は左の如くなりき

圖 三 第



例比百分の緯織種六、産生年八〇九一

次に尙一千九百八年中に於ける前記各種の重要織緯の比例を圖示し以て如何に棉花が織緯の需要に貢献しつゝあるかを明瞭ならしむべし
第三表に計上したる純正機織原料織緯の總価格は十九億二千四百八十八千弗にして是を各種類に分割するときは棉花九億二千五百八十五萬弗、羊毛四億七千五百十七萬五千弗、生糸二億五千五百

十二萬五千弗、亞麻一億一千六百三十一萬三千弗、黃麻九千八十六萬四千弗、大麻六千八百八十二萬一千弗となり、此價格による各種一封度の平均單價は

三八

棉花	〇〇九、四六
羊毛	〇一八、〇〇
生絲	三、二五、〇〇
亞麻	〇〇六、三〇
黃麻	〇〇三、六〇
大麻	〇〇五、二〇

以上各種の織緯は是を動物織緯類生絲及羊毛等、植物織緯類棉花、亞麻、黃麻、大麻及是等に類するもの(一)に二大別するを得べし、植物織緯は更に進んで棉花、亞麻、大麻、黃麻、シサル、イストレー等を包括する堅纖維及根纖維に分割せられ、ものとす然して何れも棉花にて製出せらるゝ糸線の如く頗る迅速容易に一定の様式に基き他種を超越して其特性を發揮し廣潤なる且つ日々激増しつゝある各種の用途に充てられ適當なる物品に編組せらるゝものとす

一、羊 毛

本品は織料織緯の内にては加工最も困難なるに反して其工程は最も多趣味なる一原料なり

羊毛生産地に於ける牧場中には其規模上毛織物製造業を牧場主自身が兼業して利益を見ること容易なるべしと想像せらるゝ性質を備へ居るもの多し然れども古來牧畜經營者直接に此事業を企畫して進歩したることなく従て成效せるものなし故に此種の發達は多く羊毛輸出商人の手によりて經營指導せられたるものゝみにして現時牧場と接近して羊毛紡織工場の設置されあるを見るは牧場經營者の附帶事業にあらざるものと知るべし本工業は四時温暖なる衣服を使用せざる可らざる氣候の地方に於て而已ならず實際に於ては各國に於て製造し得るの餘地充分なりと雖ども惜むべきは民力貧富の程度が住民の衣服に適品を購入するを得ると得ざるとにより販路に苦心を要する點少しとせず之がため本工業の企圖は販賣容易にして資本の豊富なる地方に勃興する傾あるは論議を要せざる自然の趨勢なりとす

三九

國に於ける人口の増殖に伴ひ益々農地の利用増大せざる可らざること殆んど説明を要せざると共に羊牧増加の現象は恰も之と同一歩調を以て逐年整頓されつつあり然して近年歐米に於ける羊毛業が新進國に卓越せざる所以のものは則ち世界各地に供給する總額の大半は「アルゼンチン」「オーストラリア」「ニュージーランド」等より提供せられ將來益々増加の傾向を示しつつあるを以てなり然るに合衆國に於ける生産は向後各州が更に一層羊毛の生産に力を致すの期に達せざる以上現實に産額を増加することなかるべし

一、生 絲

過去一世紀間に於ける生絲生産は三千萬封度より六千萬封度迄増加し之が生産に必要な國名を指摘すれば支那、日本及伊太利とす然して生絲に向ての新要求は製品需要の増加に伴ひ種々なる注文を續發せられたり是他にあらず先年生絲代用品として世界に公表され着々使用されんとしつつある技工靈妙なる人造絹糸は漸次生糸の販路を蠶食せんとし之に具備すべき性能の要處を冒さんとしてつあること之なり然ども此工業の發見者は動物絹糸の化學元素の完全なる結合

に對し絹糸の主要なる學術的性質を告白すべき論據を作るに必要な公式を發見すること能はざりき則ち其研究に補足を要する點は生絲特有の柔軟性、光澤、彈力、純白及色染に適合するの數點なりとす然して此人造絹糸の近年に於る生産は八百萬封度に達したるを以て其要求を充たすべく稍生絲に匹敵するに至れり一千九百九年に於ける世界生絲の生産統計は里昂の絹商「シンジケート」によりて「埃甸國」「ハンデルスムセーウム」に載せられたり之に依れば其生産總額は二十四萬二千「クキントル」にして一千九百八年より一千二百「クキントル」即凡そ一千分の五に相當せる増加なり此統計は當業者の發表したるものなれば信頼するに足り而かも東洋の重なる生糸生産國が此統計以上の輸出數量を示せるに徴し其生産の佳良なりしを證すべし唯清國は一千九百九年に於て大減收を示し一千九百八年の八萬六十「クキントル」より七萬二千八百五十「クキントル」に退歩し又西歐羅巴は五萬五千五百十「クキントル」より五萬三千八百五十「クキントル」に減少せり然れども是等の不足額は日本、中央亞細亞及び「レヴァンテ」に於ける産出額の増進によりて填補せられたるが就中顯著なるは日本生糸の横濱輸出にして即ち七萬五千七百「クキントル」より八萬二千「クキントル」に増加せり更に世界に於ける蠶糸生産額

の歩合を見るに亞細亞諸國は十五萬七千二百「クインタル」にして即ち世界總生産額の約六割五分を占む殊に日本は一千九百九年に於て支那を凌駕して之を第二位に貶し尋て遙かの少數にて伊太利は第三に位し次に土耳其は第四位を占む其産出歩合は次に掲ぐる所の如し

日 本	三四、〇
支 那	三〇、〇
伊太利	一七、〇
土 耳 古	七、〇
佛 蘭 西	三、〇
波 斯 及 トルキスタン	二、八
其 他	六、二

西歐羅巴に於ては伊太利の生産額が一千九百八年の四萬四千八百六十より四萬二千五百十「クインタル」に減退したるに拘はらず佛蘭西は六千五百六十より六千七百四十「クインタル」に墮地利は三千三百四十より三千八百「クインタル」に西班牙は七百五十より八百「クインタル」に増加し其他著しき増加は「ブルガリア、セルビア」

及び「ルーマニア」にして即ち合計二千七十より三千百五十「クインタル」に上ほれり其他「クレタ」は六百五十より七百五十「クインタル」に「カウカシア」は三千六百より五千四百「クインタル」に波斯は「トスキスタン」を併せ五千二百六十より六千「クインタル」に増加せり

三、亞 麻

亞麻は織緯收穫上耕作せられし古き植物の一種なり然して其織緯は棉花の發達する迄は他の植物織緯に比し最も廣く使用せられたり故に他植物織緯の使用を創始するに至りし時代迄は世界を通じて一般的に耕作せられしものなり現在此織緯の生産は露西亞を第一とし全供給の四分の三を占有し之に亞ぐものは「オーストラリア」「フランス」「伊太利等」とす合衆國に於ける亞麻の製造は頗る等閑に附せられ唯僅かに搾油原料としての種子を採取せんため農家の邸宅附近に栽培せらるゝのみ而して一ヶ年間の種子の收穫は合衆國に於ては一億「ブツセル」「二」「ブツセル」は我二斗に當るにして世界總收穫の約四分の一に當り「アルゼンチン」は百分の三十、露西亞は百分の二十、英領印度は百分の二十を産し殘餘は各國に散在す

四、大 麻

四四

大麻は各世紀を通じ一般に耕作せられ且つ諸種の用途に充てられたり其供給力は第三表に記載したる如く露西亞、伊太利、オーストリー等大部分を占め米國に於ては頗る僅少なり米國農況を遡りて五十年前に於ける各州大麻の生産は一億四千九百萬封度ありき此大半は、ケンタッキー州の産出にして本州は合衆國に於ける各種農作物の收穫を代表的に持續せり尋で「カリフォルニア」、「イリノイス」、「ネブラスカ州」等其一半を負擔したるも逐年非常の衰頹を來たし各州の通産漸く千百二十五萬封度に過ぎず

五、黃 麻(ジュート)

黃麻は織布工業に使用さるゝ織緯の内最廉價のものにして棉花及羊毛を除きては使用量多額なり其價格は一封度二仙四分の三より三仙二分の一に過ぎず其用途は結束用燃繩、粗布、地氈、穀類の容囊等普通品の堪へ難き物品に製造せらる尙ほ黃麻の太き根部は大約一封度一、二仙の相場以内にて轉々し製紙原料及棉花の梱

包用材料の粗糞或は廉價の繩等に加工作製せらる此織緯の總額は支那及び「マレーシア」に産する少額を除き凡て印度に産す近來之を合衆國南部に移植し其栽培を實驗したるも高價なる勞働費及織緯を解體するに適當なる機械の準備に不足ありたるが故に遂に其生産を阻碍し爲めに未だ成効の域に達せざるなり
一千九百十年に於ける印度、ベンゴール州及び東、ベンゴール、アッサム州農務局長の發表したる黃麻の最終豫想によるに其播種面積二百九十三萬七千八百「エーカー」にして此等二州に於ける最近五ヶ年間の播種面積を比較すれば左の如し

一九〇六年	三、四八二、九〇〇 ^{エーカー}
一九〇七年	三、九七四、三〇〇
一九〇八年	二、八五六、七〇〇
一九〇九年	二、八七六、六〇〇
一九一〇年	二、九三七、八〇〇

右各年次の數字を比較したる結果一千九百十年に於ては前年に比し六萬一千二百「エーカー」を増加したるも此差違たる前年度の見積面積に誤謬ありしにあらざるか

千九百十年初期中は天候乾燥に過ぎたるを以て播種時機大に遷延せられたりしも漸次順調の氣候を迎へ重要産地皆多量の水分を得たり然るに六七兩月に入りては雨量過多に失し七月末には洪水各地に漲り作物の損害亦少からざりしとは雖も其被害は世人の想像せる程大なりしものにあらず故に收穫豫想は最初は平年に比し七割六分餘の見當なりしが其後各地方の調査報告を綜合したるに優に九割を占めたり此計算に依るときは播種面積二百九十三萬七千八百一十一其産額七百九十三萬二千俵なりとす然して一千九百九年産黄麻の在荷は其數量三十萬俵なりと言ふにより之を加算したる一千九百十年の供給高は八百二十三萬二千俵なりしなり然るに黄麻を産地より發送するに際し其大部は水分を含みしむるものなるを以て重量の増加は爲めに實量の五分又は一割五分に上る之を以て實際貿易統計表上に顯はるゝ數量と比較するに當り前記豫想收穫量の大部にも含水量を計上するの要ありとす今假りに此水量を平均實量の五分と見做すときは本年度の供給高八百二十三萬二千俵の外凡そ三十九萬六千六百俵の加算を要すべく即ち八百六十二萬八千六百俵を以て貿易統計上の數量に比較すべき一九一〇年度黄麻産額豫想量とするを至當なりとせんか

六、其他の織緯

第三表に記載せる織緯の外重に條繩の製作原料として多額の異種織緯を産出するを大別すれば「マニラ麻」「シサル」「ニュージールランド麻」「イストレ」二名タムピコ織緯及び「ラミー」とす
 一千九百八年比律賓に於て荷役したる船賃の受領書に依り調査したる處によれば繩製造のために同國中隈なく使用されたる「マニラ麻」の産出額は一百五萬二千二百二十七俵にして其重量二億九千五百萬封度に達せり此内「シサル」の少量を含有す又此外墨西哥港に於ける調査額は六十八萬七千二百六十二俵其重量二億五千萬封度ありき
 中央亞米利加及び其他諸州に於ける「シサル」の産額は何れも稀少に過ぎざる額なれども之等は凡て墨西哥に於て一度集積せられ然る後更に各地に搬出せらるゝものとする尙ほ第四表により合衆國に限りたる各種織緯の生産消費輸出入等を明かにし尙ほ輸出入に關係ある一封度の單價等を見れば需給關係の大體を推知するに難からざるべし

一千八百八十年に於ける北米合衆國の各種織緯の生産は通計二十九億七千七百三十萬九千四十六封度なりしが夫れより以降一千九百九年に至る二十八年間に於ける増加率は約十三割近くに達せんとしつゝあり而して輸入に於て十二割九分を増加し輸出に於て十一割の増加を示せり此間に於ける消費力に於ては三十億九千七百八十六萬五千六十九封度に達せり獨り米國のみならず世界的に「マニラ」、「シサル」、「イストレ」等の製作品使用の緊要を認められし以來其生産の増加は棉花生産の増加に跟随せるは眞に至當の事なりと雖も棉花容囊即ち「ペールス」、「カバ」の製造上逐年需要額多數に上り夥しき歡迎の度合と對抗して其耕作に付きても亦相當の處置を採ることあるにあらざれば向後數十年後に至りて現物の拂底を告げ現時の如き至廉なる賣買價格にて取引さるゝ事覺束なかる可く從て棉花の取引價格に影響を及ぼすことも亦なきにあらざるべし

第四表 此米合衆國に於ける各種織緯の生産、輸出入及消費額統計表 (一八八〇—一九〇八年)

名稱	年次	生 産		輸 入		輸 出 (再輸出を含む)		消費量(封度)
		總量(封度)	平均封度	總量(封度)	平均封度	總量(封度)	平均封度	

名稱	年次	生 産		輸 入		輸 出 (再輸出を含む)		消費量(封度)
		總量(封度)	平均封度	總量(封度)	平均封度	總量(封度)	平均封度	
棉花	一八八〇	六,五二〇,三〇〇	〇.一七九	三,八〇〇,五七五	〇.一七五	二,七一九,七二五	二,七一九,七二五	
	一九〇〇	四,七九〇,九六〇	〇.一八二	三,一〇一,九六四	〇.一八二	一,九三三,七〇五	一,九三三,七〇五	
羊毛	一八八〇	三,七三三,一五〇	〇.一六七	一,八三三,二四二	〇.一六七	一,九〇〇,九〇八	一,九〇〇,九〇八	
	一九〇〇	二,七三三,一五〇	〇.一六七	一,八三三,二四二	〇.一六七	一,九〇〇,九〇八	一,九〇〇,九〇八	
羊毛	一八八〇	三,一〇〇,〇〇〇	〇.一八八	一,五〇〇,〇〇〇	〇.一八八	一,六〇〇,〇〇〇	一,六〇〇,〇〇〇	
	一九〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	〇.一八八	一,五〇〇,〇〇〇	〇.一八八	一,六〇〇,〇〇〇	一,六〇〇,〇〇〇	
カール	一八八〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	
	一九〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	
生絲	一八八〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	
	一九〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	
蠶繭	一八八〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	
	一九〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	
亞麻	一八八〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	
	一九〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	
大麻	一八八〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	
	一九〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	〇.一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	

備考	黄麻			ラマニ			シサ			其他植物纖維		
	一八九〇	一九〇〇	一九〇八	一八九〇	一九〇〇	一九〇八	一八九〇	一九〇〇	一九〇八	一八九〇	一九〇〇	一九〇八
(イ) 羊毛業組合報告による(山羊の長毛を含まず)	10,050,000	10,050,000	10,050,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000
(ロ) 消費推定額	10,050,000	10,050,000	10,050,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000
(ハ) 「ヤニラ」を含む	10,050,000	10,050,000	10,050,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000
(ニ) 織緯質の草を含む	10,050,000	10,050,000	10,050,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000
(ホ) 大麻の中に含まる	10,050,000	10,050,000	10,050,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000
(ヘ) 其他の植物纖維中に含まる	10,050,000	10,050,000	10,050,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000
(ト) 「シサル」を含む	10,050,000	10,050,000	10,050,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000

(イ) 羊毛業組合報告による(山羊の長毛を含まず)
 (ロ) 消費推定額
 (ハ) 「ヤニラ」を含む
 (ニ) 織緯質の草を含む
 (ホ) 大麻の中に含まる
 (ヘ) 其他の植物纖維中に含まる
 (ト) 「シサル」を含む

五〇

第貳編 棉花の供給

第一章 概説

第一編に於て各種の需要統計を掲げ置きたる結果は供給に關する大要を明瞭ならしめたり然りと雖ども是僅に其一半に過ぎざるを以て更に枝葉に亘り棉花供給の實況を説かんとす故に或は重複に亘ること屢々あるも説明の順序として止むを得ざる次第なりとす

第一節 合衆國

既に第二圖に於て一千九百十年に對する合衆國の棉花供給實力を明記したり然れども茲に内國消費額に付き説かざる可らず合衆國全體に於ける棉花の所要總額は統計局の計算によれば一千九百九年八月三十一日調査にありては五百八萬五千三百八十俵にして是を前年の四百五十三萬九千九百九十俵に比すれば大約五十

五一

四萬六千俵即ち百分の十二の増加を示し其内南部諸州に於る消費額は二百四十八萬八千九百俵にして従て北部諸州の消費額は二百五十九萬六千四百俵に當れり即南部諸州言ひ替ゆれば棉花産出地方に於ける消費高は總産額の五分の一に過ぎず然も前記俵数の内南部諸州にありては一萬二千四百四十俵北部諸州にありては十二萬三千八百八十俵此合計十三萬六千三百俵の他國産棉花を使用せるにより之を差引くときは自國産棉花の消費額は四百九十四萬九千俵に止まれり合衆國に於ける棉糸紡績の運轉鍾數は千九百九年八月調査によるときは合計二千八百五十七萬三千四百四十五鍾にして本邦の約十七倍に相當す然して一千九百八年に超過すること百分の二即ち六十萬九千四十八鍾然りなれども尙ほ遡りて一千九百七年及び一千九百六年に比較するときは其増加率は毎年百分の一に過ぎず

「ニュー、オルレアンス棉花取引所の取調に係る南部諸州の紡績所數、紡鍾數及織機臺數等の運轉、休業及増設數等を掲ぐれば左表の如し然して本表によるときは南部諸州に於ける前記各種工場の總數は八百四十一ヶ所にして其紡鍾數は増設中のものを合算し一千百三十一萬七千鍾に達し織機數は同じく増設中のものを合

算し二十三萬四千九百臺を有せり其内一千九百八年より一千九百九年に亘り實際營業せし紡績所數は七百八十七にして運轉鍾數は一千六十一萬三千鍾織機臺數は二十一萬九千五百臺に達す

○南部諸州紡績所數及織機臺數表

州 名	紡 織 所 數			織 機 臺 數		
	營 業	休 業	新 設	運 轉	休 業	増 設
アラバマ	六七	四		一六、六二	七三	六〇
アルカンサス	二			二四〇		二四〇
ジョルジア	一四五	六	五	二六、六九〇	五〇	二、三九
ケンタッキー	八	一	一	一、三八七		一、三八七
ルキジアナ	五			二、二六六		二、二六六
ミシシッピ	二〇	三		四、五〇一	五〇	一三
ミッソリ	三			九九四		九九四
北カロリナ	三二	八	一三	五、四七九	一、四五七	三、五二〇
南カロリナ	一六	三	一	八九、二九五	六〇	四、二〇五
計	七	二	二	一六、六二	七三	六〇
計	一七、二九四	二四〇	二、三九	一七、二九四	二四〇	二、三九

給 供 要 需 の 花 棉

○紡績鍾數

州 名	運 轉	休 止	増 設 中	合 計
テネツシー	二	四	二六	三四
テキサス	一五	二	四、四八	一五
オクラハマ	一	一	二、五〇八	二、五八
ウアルジニア	二	一	九、四四三	九、九五
合 計	七、七	八、四	二九、五三三	四、八五一

州 名	運 轉	休 止	増 設 中	合 計
アラバマ	九三、八四	三〇、〇〇	一、三六	九九、二二
アルカンサス	一四、六四	一	一	一四、六四
ジョルジア	一、八一、三五四	二七、五六〇	一一、八八七	一、九五、八〇二
ケンタツキー	八七、七五二	一	二、〇〇〇	八九、七五二
ルキジアナ	八九、三五二	一	一	八九、三五三
ミシシッピ	一六、八七	一九、一七	四四八	一八、四四一
ミツソリー	三八、四五六	一	一	三八、四五六
北カロリナ	二、九四、二四九	六五、三四四	一八、六五二	三、二四八、二四四

給 供 の 花 棉 編 貳 第

以上は一千九百九年南部諸州に限れる統計にして之に北部を合したる全国内の
 休鍾數は五十五萬五千三百三十鍾にして其内十六萬七千九百七十五鍾は全休とし
 他は小部の棉花を消化せり然して前記各種の休鍾數中には來る可き新棉期より
 運轉を開始せんと企畫中なる南北南部の増設又は新設鍾數を含めるも其實數は
 南部は已に記載せる表示の如くなれども北部に至りては之を詳かにすること
 得ず全国中鍾數に於て第一に位するは「マツサチユセツ州」にして全體の百分の
 三十四を占め其數九百六十八萬八千六百三十七鍾なり第二は南部「カロリナ」の百
 分の十三にして第三は北部「カロリナ」の百分の十一なり其他は漸次梯下の姿にあ
 り

州 名	運 轉	休 止	増 設 中	合 計
南カロリナ	三、八〇、七四	一三、一三	一七、五四	三、九三、四一八
テンネツシー	二五三、〇六〇	一八、四〇四	九、三七	二八〇、八四〇
テキサス	九七、二六四	一一、〇七二	三、〇〇〇	一一一、三三六
オクラハマ	五、七〇〇	一	一	五、七〇〇
ウアルジニア	三、七、一六六	七、〇三三	一八、〇〇〇	三、四、一九九
合 計	一〇、六三、四一〇	一九一、七二〇	五二、二九四	一一、三三、四四四

棉花の消化力も亦錘數の増加の割合に對當し一千九百九年の増率は比較的大な
らざりしこと明なり今南部諸州に於ける「ニュー、オルレアンス」取引所の統計せる
紡錘一本に對する棉花消費額は左の如し

○紡錘一本に對する一年間棉花消費額表

一九〇三—四年	一一七 ^{封度} 七四	一九〇六—七年	一一六 ^{封度} 一六
一九〇四—五年	一二〇、八三	一九〇七—八年	九九、八八
一九〇五—六年	一二三、六九	一九〇八—九年	一一四、三八

錘數に於て記載せる如く棉花の消化力に於ても亦事實に於て筆頭たるは、マツサ
チユセツツ州にして一千九百九年中一百三十二萬一千五百七十二俵を消化し第
二は北部、カロリナの七十五萬六千六百七十七俵、第三は南部、カロリナの六十九萬
六千四百六十二俵とす此兩、カロリナ州に於ける技術上の進歩につき賞讃に値す
べき競争あり即南部、カロリナは北部以上の錘數あるに係はらず北部に於ける製
品の巧妙は到底冒し能はざる所たり其他諸般の設備上顯著なる異動多く北部は
常に棉花の秤量なる者は輸送し來る解艇の儘にて或は車送に際し搭載の儘にて
行はれ取引上の便宜至大なり此法に依る量目の誤謬亦大なるべしと雖も煩ひを

棉花の需要供給

後日に遺さざるを見れば一顧に値するものと云ふべし

(一) 米國內に供給されし棉花の内消化し終りたるものゝ分類

第五表は米棉及外國棉の兩様を含む統計にして一千九百九年米國內に於て消化
したる棉花を種別毎に分類し其供給額を明かにしたるものなり本表により棉花
に對する諸種の希望を洞察し得るものあり即ち棉花生産地に於ける製造家は專
ら内國產高地棉花を供給されんことを希望するものゝみ故に一千九百九年に於
ける低地棉消費の總額は僅かに二百五十二萬七千五百二十一封度に過ぎず其他
は實際に埃及棉の多くを混用せり其數量は三百四十九萬八千九百九十二封度に
して生産地外の各種に於ても高地棉の要求夥しく他種棉の混用されしは低地棉
の二千三百七十四萬六千七百五十二封度及び外國棉花七千六百六十八萬六千八
百十封度に過ぎず此一ヶ年間全國に亘れる外國棉の受給額は埃及棉花七千三百
一萬三千四百七十九封度秘露棉花三百七十五萬一千五百二十三封度印度棉花四
百四萬六百六十九封度を以て主要なる供給原料とし他は各國產棉花の少量宛に
過ぎざるなり

第五表 合衆國に於ける棉花の仕入、消費及び貯藏俵數一覽

棉花編貳第 供給

給 供 要 需 の 花 棉

種 類	各製造家の仕入俵數		紡績工場消費		貯藏俵數
	俵	數	封	度	
棉花生産地					
(内 國 棉)					
シ、ア、イ、ラ、ン、ド	七、八七	六、五五四	二、五七、五二	一、六九三	
(外 國 棉)					
其 他	二、六〇、〇六〇	二、五八、八六九	一、三三、一〇〇、六八六	一八二、一九三	
秘 露	五、六八六	四、七九	三、四九、九九二	一、五二	
印 他 度	一、八〇六	一、五八	六四、七五六	三六八	
其 他	二五	一五	六、四九	一〇	
生産地外の各州					
(内 國 棉)					
シ、ア、イ、ラ、ン、ド	七〇、七六六	六、一八五	三三、七六、七五三	二九、二九八	
(外 國 棉)					
其 他	二、六九、九七二	二、四七、三六三	一、二六、二七、四一八	六八、三五五	
秘 露	九三、〇〇三	一三、三九六	六九、五四、四八七	三八、八七三	
印 他 度	二、四七七	一八、五二五	三、七九、五二三	四、四八八	

給 供 の 花 棉 編 貳 第

米國工業家の使用する埃及棉花の大多數は帶齋色織緯にして學名を *Mitahin* と稱す其「ステープル」は平均一時八分の三の長さをも有し綿糸の製造上其力七十番手乃至八十番手に適す所謂「ブラウン」と稱する種類なりとす最良種「ガリニー」即ち其長さ一時二分の一より一時八分の五の長さを有する *Jamovitch, Abbasi* に至りては百番手以上の織細なる綿糸の製作上低地棉の少量を混交して使用せらるる要するに價格低廉にして優良の織緯を有する棉花の豊富なる供給は消費の結果に於て非常の關係を及ぼし製品の向上亦之に伴ふて助長さるゝ事偉大なるものなりとす茲に其實質は棉花にして紡績用に適せざる「リンスター」と稱する一項を附記せざる可らず是多くは寢具の材料として必要なるものにして米國に於ける一千九百九年の使用量は十二萬二千九百五十五俵に上れり其織緯は不揃にして短小なる事は贅言を要せず米國に於ては棉實油製造所に於て棉實に附着せる僅少の織緯を繰り取るものにして一千九百八年産額は五百封度入三十四萬五千五百七俵なりき此織緯は前記寢具内容の材料以外に於ては「コットン、ローブ」綿製帽子等に多く

印 他 度	二、一八二	八、七二八	三、三五、九二三	四、五六四
其 他	一〇八	一〇八	五、八八七	五

供用せられ何れも廢布破衣等より解體して製出せる綿狀物と混用す尙ほ爆發物の製造原料及裝飾用に供せらるゝ額も亦尠少ならず

六〇

第二節 米棉の輸出額

内國に於て需要を充たしたる殘餘は總て外國へ向け輸出せられ従て年の豊凶により其額も亦多少の相異ありと雖毎年總生産額の大約三分の二は諸外國に供給す其輸出先は英獨兩國を主とし佛國、伊太利、西班牙及び日本之に次ぐ其他白耳義加奈陀、露西亞等亦相當の得意先にして内英國への輸出額は一ヶ年二百八十九萬俵より三百九十萬俵に達し獨逸向輸出額は百七十八萬より二百四十萬俵にして佛國へは八九十萬乃至百萬俵伊國へは四五十萬俵西班牙へは二十六七萬俵本邦へは近年二十萬俵以上を輸出するに至り何れも幾分増加の傾向にあり然して米棉の總輸出額は一千九百九年にありては前年豊作の結果を享け巨額の輸出をなすことを得其額八百八十九萬五千九百七十俵此價格四億一千九百七十三萬三千一百三弗に達し之を前年に比すれば大約百二十五萬俵の増加なりと雖も更に一千九百七年に比するときは遙かに少額なりとす

第六表 米棉の輸出先總價格及び總俵數表(一九〇〇—一九〇九年間)

年	次	總俵數	總價格
—	九	六、二〇一、一六六	二四一、八三二、七三七
—	〇	六、六六一、七八一	三一三、六七三、四四三
—	一	七、〇〇一、五五八	二九〇、六五一、八一九
—	二	七、〇八六、〇八六	三一六、一八〇、四二九
—	三	六、一二六、三八六	三七〇、八一、二四六
—	四	八、六〇九、六九八	三七九、九六五、〇一四
—	五	七、二六八、〇〇〇	四〇一、〇〇五、九二一
—	六	九、〇三六、四三四	四八一、二七七、七九七
—	七	七、六三三、九九七	四三七、七八八、二〇二
—	八	八、八九五、九七〇	四一九、七三三、一〇三

〇五百封度俵の供給先

六一

給供要需の花棉

國名	年						次
	一九〇〇	一九〇一	一九〇二	一九〇三	一九〇四	一九〇五	
英	二,三〇二,二八	三,一〇六,八五七	三,一三三,三四	二,七九九,〇九六	二,四七五,七五二	三,九六七,二五四	三,六六五,三五五
獨	一,六九一,一七三	一,六八九,九三五	一,七〇五,八二五	一,九一五,〇五四	一,七九七,三五四	一,六九一,一七三	一,七九七,三五四
佛	七三六,〇九二	七五四,三三九	七五五,七七三	八〇六,六七三	七三四,二八六	二,〇一一,六七九	二,四三八,〇九〇
伊	四四三,九五二	三六五,三五九	四四五,四三七	四四四,九五〇	三六三,二九九	八八八,三〇四	一,〇九八,一七三
西	二九五,五三七	二四一,七四七	二七五,八六八	二六二,七四四	三〇一,七八九	二四六,六九二	一八四,八六二
白	一四八,三三九	一五四,六八二	一三二,三三三	一五七,三五二	一〇五,二二三	一四五,五六四	一〇五,二二三
露	五四,九五〇	五三,一七二	七三,四四六	一八一,九三八	一六八,五〇六	一一九,〇〇五	九六,六七五
和	七四,六三五	五三,一八〇	二二,四二八	四一,五四二	四六,〇五五	七四,六三五	四六,〇五五
埃	六二,五七二	五三,三七五	一一三,六三〇	九〇,〇四九	九四,七八二	六二,五七二	九四,七八二
歐洲	三三,二〇二	七三,五五八	二九,〇九二	二七,六八四	三〇,二一九	三三,二〇二	三〇,二一九
殘部	七二,九二一	四四,四八六	六五,〇八三	六一,二五	五八,一七四	七二,九二一	五八,一七四
日	三三六,五七五	一四七,二六九	二六二,二八三	一五二,八二六	二〇八,九四三	三三六,五七五	二〇八,九四三
加	一〇九,九八三	一〇二,九八〇	二一九,〇一六	二二七,六四〇	八八,七九五	一〇九,九八三	八八,七九五
墨	一八,五三三	一四一,九八	一五〇,三四三	一一三,九九七	一三二,四五三	一八,五三三	一三二,四五三
其他	七九,〇八二	二九,二八五	七三	四,七六七	四二,五七五	七九,〇八二	四二,五七五
其他	一三,〇四五	七二八	七,〇五四	二,九七八	五八〇	一三,〇四五	五八〇

給供の花棉編貳第

國名	年						次
	一九〇〇	一九〇一	一九〇二	一九〇三	一九〇四	一九〇五	
英	二,三〇二,二八	三,一〇六,八五七	三,一三三,三四	二,七九九,〇九六	二,四七五,七五二	三,九六七,二五四	三,六六五,三五五
獨	一,六九一,一七三	一,六八九,九三五	一,七〇五,八二五	一,九一五,〇五四	一,七九七,三五四	一,六九一,一七三	一,七九七,三五四
佛	七三六,〇九二	七五四,三三九	七五五,七七三	八〇六,六七三	七三四,二八六	二,〇一一,六七九	二,四三八,〇九〇
伊	四四三,九五二	三六五,三五九	四四五,四三七	四四四,九五〇	三六三,二九九	八八八,三〇四	一,〇九八,一七三
西	二九五,五三七	二四一,七四七	二七五,八六八	二六二,七四四	三〇一,七八九	二四六,六九二	一八四,八六二
白	一四八,三三九	一五四,六八二	一三二,三三三	一五七,三五二	一〇五,二二三	一四五,五六四	一〇五,二二三
露	五四,九五〇	五三,一七二	七三,四四六	一八一,九三八	一六八,五〇六	一一九,〇〇五	九六,六七五
和	七四,六三五	五三,一八〇	二二,四二八	四一,五四二	四六,〇五五	七四,六三五	四六,〇五五
埃	六二,五七二	五三,三七五	一一三,六三〇	九〇,〇四九	九四,七八二	六二,五七二	九四,七八二
歐洲	三三,二〇二	七三,五五八	二九,〇九二	二七,六八四	三〇,二一九	三三,二〇二	三〇,二一九
殘部	七二,九二一	四四,四八六	六五,〇八三	六一,二五	五八,一七四	七二,九二一	五八,一七四
日	三三六,五七五	一四七,二六九	二六二,二八三	一五二,八二六	二〇八,九四三	三三六,五七五	二〇八,九四三
加	一〇九,九八三	一〇二,九八〇	二一九,〇一六	二二七,六四〇	八八,七九五	一〇九,九八三	八八,七九五
墨	一八,五三三	一四一,九八	一五〇,三四三	一一三,九九七	一三二,四五三	一八,五三三	一三二,四五三
其他	七九,〇八二	二九,二八五	七三	四,七六七	四二,五七五	七九,〇八二	四二,五七五
其他	一三,〇四五	七二八	七,〇五四	二,九七八	五八〇	一三,〇四五	五八〇

各國

九、四〇五

四、六〇三

七、七七五

四、三七五

六、五〇六

六四

初めて日本へ輸出を開始したるは一千八百九十一年の四千八百十三俵にして一千八百九十五年には二萬二千百三十俵に至り爾後右表の状況に接続するものなり

前記の如く米國よりは年々七八百萬俵の棉花を諸外國へ向け輸出し居れるが米國何れの港灣より之れが輸出をなせしかを見るに第一は「テキサス」州の「ガルヴェストン」港にして一千九百八年にありては二百二十萬俵此價格一億三千三百九十九萬弗の輸出をなし第二は「ルキジアナ」州「ニュー・オルレアンス」にして百八十六萬三千俵此價格一億九百萬弗を輸出せり之に次ぐものは「ジョルジャ」州「サヴァナ」港にして低地棉を合せ八十九萬七千俵此價格五千六十九萬九千弗なりとす「ニューヨーク」、「ウキルミントン」、「モビル」、「ペンサコーラ」、「フランス」、「ウキツク」、「ポストン」、「ボルチモア」及び「シヤトル」、「タコマ」等を合したる「ビユーゼット」、「サウンド」港より並びに「テキサス」州「ポート・アーサー」より何れも十萬乃至六十萬俵の輸出あり以上は十萬以上の輸出港にして千九百八年に於ける輸出額左の如し

第七表 「アツフランス」棉輸出港別表(「リントア」を含む)

輸 出 港 名	俵 數	封 度	弗
ガルウエストン (テキサス州)	二、二〇一、二三六	一、一六一、二五五、三〇一	一、三三三、九〇〇、二六七
ニュー・オルレアンス (ルキジアナ)	一、八六三、二三三	九五八、九六二、五七三	一〇九、〇四二、〇七八
サヴァナ (ジョルジア)	八七九、三二七	四四三、一九八、七二二	四八、七四〇、一一八
紐 育	五八九、八五九	二九四、三〇一、一一三	三三、九四五、一九八
ウキルミントン (北カロリナ)	四八六、六三五	二二九、五八六、六五六	二九、九〇一、二〇〇
モビル (アラバマ)	二四七、四一五	一二九、〇二九、〇七四	一四、二一一、七四六
ペンサコーラ (フロリダ)	一七三、八七八	九〇、五三二、七五七	一〇、〇八一、五三一
フランス、ウキツク (ジョルジア)	一七六、〇一五	八九、五七七、九七三	九、八八三、五三八
ポ ス ト ン	一五〇、七二七	七五、〇九六、七八八	八、六四九、二〇八
ボルチモア (メリーランド)	一一八、一二二	五九、〇四四、三五九	六、七七八、八九五
ビユーゼット、サウンド 諸 港	一〇二、一七八	五三、五七四、六六〇	六、四六一、四五五
ポート、アーサー (テキサス)	一〇八、五〇〇	五六、一六一、八五一	六、四四一、二六一
アトロイト (ミシガン)	五五、二七九	二七、六二三、〇六五	三、一三六、〇六二
フアラアルヒヤ (ペンシルヴァニア)	五五、五九〇	二七、八四二、四九〇	三、〇四三、八一七

六五

桑	港	計	他
チャールストン (南カリナ)	五〇、四七五	七、四〇一、五三八	三、八〇四、二九九、一二六、四三四、四三七、〇七〇
ノール、フオルク (ツアツニア)	四四、五一八	七、四〇一、五三八	三、八〇四、二九九、一二六、四三四、四三七、〇七〇
ヒューロン (ミシガン)	四〇、二四三	七、四〇一、五三八	三、八〇四、二九九、一二六、四三四、四三七、〇七〇
其他	二二、六五二	七、四〇一、五三八	三、八〇四、二九九、一二六、四三四、四三七、〇七〇
合計	三三、六七七	七、四〇一、五三八	三、八〇四、二九九、一二六、四三四、四三七、〇七〇

第三節 低地棉の供給

低地棉花につき特に述ぶるの必要あり是低地棉が特有の性能を具備するを以てなり其用途は殊に埃及棉と混用し或は單獨に縫糸、レース其他長き纖維にあらざれば成し能はざる物品の製作に供せられ主要なる輸出先は第八表の如し然して何れも工業の發達著しき地方に集中せらる

第八表 (數量は俵數なり)

年次	英國	佛國	獨國	其他	合計
----	----	----	----	----	----

一八八	一六八、五三三	一、四二〇	一六九	一八、四四二
八九	二六、三五〇	三、七八三	三六	二五九、三〇、五二三
九〇	三〇、三三一	五、一九三	七九六	八〇、三六、四〇〇
九〇	二二、八七〇	六、七八七	八三八	九九七、三二、四九二
九〇	一一、〇五六	三、九二五	一八五	四六、一五、二二二
九〇	一七、八七四	七、一一二	四一三	二五、三九九
九〇	一三、五八九	五、〇七〇	四二六	三九七、一九、四八二

第二章 印度棉花、埃及並に支那棉花

第一節 印度棉花

一、孟買港に於ける輸出棉花

孟買港より輸出する棉花は孟買州、グラセット郡、デツカン郡、スラット郡、プロトチ郡、中央州、ナグポトル、ヒンガングット、ペーラル州、アムラオチ、アコラ、合併州及び

「ブンヂャブ州産」ベンゴール棉とす今之を細説すれば一千九百六年産棉花輸出額は七百四十萬八百三十九本(一本は「ハンドレッド、ウエート」と譯し英吉利の百十二封度に當る)にして此金額二億一千九百七十八萬四千六百九留比(一留比は我六十六錢)なり其内孟買港の輸出は五百二十四萬一千四百四十三本にして金額一億五千六百四十六萬九千七十四留比に當り總輸出額の百分の七十以上を占む其仕向先は第一日本、第二獨逸、第三伊太利、第四白耳義、第五佛國の順序にして英國は米、埃兩國棉花を使用すること多量なれども印度棉花の消費に至りては甚だ少量なりとす一千九百六年より一千九百七年に亘れる孟買港の棉花輸出額左の如し

第九表 孟買港輸出棉花國別表

國 名	數 量(本)	金 額(留比)
日 本	一、四四一、八〇〇	四五、八三八、〇〇五
獨 逸	八三六、四三七	二三、一一三、五七六
伊太利	七四八、三七四	二二、二八二、九三二
白耳義	六六九、二四七	一九、一四六、七二六
佛蘭西	四四七、七三八	一四、二五二、一一四

奧洪國	五三五、九一一	一六、四六七、七一九
英吉利	二三七、三六〇	六、五七七、五三二
西班牙	一二二、五〇三	三、七一五、九八一
香 港	七九、三一九	二、二三三、四四二
支 那	三六、七〇八	一、一四九、三五六
露 國	一二、七〇二	三九九、一九七
其 他	四三、三四四	一、二九二、四九七
合 計	五、二〇一、四四三	一五六、四六九、〇七七

孟買港に集積する棉花の種類を擧ぐれば左の如し

オームラ棉 「カンデツシユ」中央印度棉「バルシー」ナツリガール「ベラール」

中央州棉

ドレーラ棉
プローチ棉
クムプタ棉
ダルワール棉

ウエストタールン棉
 ベンゴール棉
 シンド棉
 彼斯棉
 米國棉
 埃及棉
 其他

然して孟買に於ける棉花相場は専ら作柄の豊凶によると雖も米國棉の作柄及相場の影響甚しく唯日本向棉花に限りては以上の外支那棉花の状況如何により更に多少の變動を來す場合尠しとせず

二、唐^{カラチ}知港に於ける輸出棉花

「シンド」に於ける埃及種棉花は近來官民の奮勵により發達夥しく纖維細長にして細糸紡績に適し内外の好評を受けつゝあり又固有棉花、パンジャツ州棉をも輸出す品質稍劣り世上に知らるゝ「ベンゴール」及び「シンド」棉即ち是なり其纖維亦粗大

日本 八、八二〇留比
 獨逸 一、二〇八一、五二七同
 白耳義 三、一三四、九〇一同
 澳洪國 八〇六、四三〇同
 英國 三六五、七八八同
 伊太利 二、〇九一、八九〇同
 其他 一七二、九三二同
 通計 一八、六六二、二八八同

三、馬^マ德^ド拉^ラ斯^ス及其他に於ける輸出棉花

「マドラス」港より輸出する棉花は同港附近各地の耕産棉及び内地、ベレイリイ以南の産なり「コナダ」港よりするものは「コダベリ」河灌漑地及びキストナ河、グルトール地方にて産出するものなり「チュチコリン」港輸出棉花は「チンネベリ」の稱ある「チンネベリ」郡より「コインパトール」郡に亘る地方の良種なりとす此棉は日本

棉 花 の 需 要 供 給

人及び獨逸人の好む所なれども當港棉花出盛期は風浪荒く屢解船を冒し爲めに潮水に浸さるゝことありて損害尠なからざる場合あり「コ、ナダ」及び「ガンツール」地方棉花は一般に「コ、ナダ」と稱し「ウエスタルーン」とは孟買州南部「シヨラプトル」「ビシャプール」及び「ミラージエ」地方「ハイデラバード國」「ライチヨール」附近「マドラス」州「ベラリ」附近に産するものを稱す其他北方「マドラス」州産棉は「ノーザルン」と稱へられ格別良種にあらず南方「チンネベリー」及び「コインバトール」地方の良種は「チンネベリー」と稱す

左に各港より輸出したる棉花總額及び其輸出年次を掲ぐ但し單位は本なり

「チユチコリン」港輸出額

	一九〇五—六年	一九〇六—七年
日本	二二七、八三一	一八五、九六五
獨逸	二八、六八六	三二、八七九
白耳義	二二八、七二〇	一七六、一八
英國	八八、六三〇	六七、七〇一
伊太利	一〇、三九五	四、五二三

第 二 編 棉 花 の 供 給

「マドラス」港輸出額(本)

	一九〇五—六年	一九〇六—七年
獨逸	三、八五九二	三、七、九二五
日本	四六、八四五	四一、八一二
白耳義	一一五、四三九	九〇、一〇一
英國	一三、八一四	一〇、四五九
伊太利	六、六〇六	八、九〇二
佛國	一四、〇六四	一〇、六八四
其他	一五、五八二	七、八九七
計	一九〇、五—六	一五七、七七一
其他	二、七、三八二	二、六、六一三

棉の需要供給

「コ、ナダ」港輸出額(本)		計	
日本	一九〇五—十六年 九、七三一	一九〇六—十七年 一六、七三六	二五八、二八四
獨逸	六、〇二一	八、八三四	二、三〇、一六三
白耳義	八三、〇三七	四九、八六八	
英國	一四、二三七	一六、五四一	
伊太利	〇	二、五七一	
埃洪國	二〇〇	〇	
佛國	二四、五七四	三一、八一七	
其他	一、四六五	五、九四六	
計	一三九、二六五	一三二、三一二	
「カルカッタ」港輸出額(留比)	一九〇五—十六年 二、三五八、八一八	一九〇六—十七年 二、二九七、五一七	
伊太利			

第貳編 棉花供給

白耳義	二、六二三、三六一	三、三三八、一四五
香港	一、三五五、六一一	一、〇六八、七一六
日本	五、三二、五七〇	一、一八五、五五六
獨逸	四、二〇二、八八二	四、四五二、八〇二
佛國	三二〇、六〇五	六七四、三九一
英國	四一九、八九〇	五八九、七五四
埃國	一、一六六、四八〇	八四三、二四一
其他	四三三、二六五	五四一、五九四
計	一、三、四一三、四九二	一〇、〇〇一、七一六

前述の如く各港より輸出する棉花の内、チエンネベリ棉の大約三分の二は日本へ輸出し、「ウエスタルン」、「コ、ナダ」等亦日本に仕向くるもの多額なりとす。日本に亞ぐ仕向先は白耳義なりとす。日本行「チエンネベリ」棉花は日本郵船會社船毎年積出季節即五月より九月頃迄の間、「チユチヨリン」港に碇船し荷役をなす。又古倫母へ一度輸送したる後同港にて船積みし神戸に揚陸す、「マドラス」及び「コ、ナダ」より輸出するものは皆古倫母にて日本行船舶に積換へ送荷するものとす。

第二節 埃及棉花

埃及棉花の織緯は長さ、強さ及び品位等に於て各種棉花中殆完全の性質を具備するものと言はざるを得ず世界に於て埃及棉の好んで使用せらるゝ所以は大約四ヶ條に亘れる主要の理由に基く即ち左の如し

- 一、絹製類似品として布帛の仕上げに良好の成績を與へ綿布商は勿論其他の取扱者に對しても亦最も適當の品位として快感を覚えしむ
- 二、本棉花の製品は外見特に清朝にして染色に適し且つ細嫻なる織緯は綿布に毛羽を立たしむること自由なるを以て能く空隙を充填し布目を密にす又絹と混用するに便利の織緯にして絹の光彩を損することなし
- 三、埃及棉花の内「アシユモニー」プラウンの兩種は其織緯美麗なる藍色なるを以て製品を別に染色するを要せずして生地色の儘使用することを得用途によりては染色質を除く利益あり例へば下着として又は「レース」「カトテン」窓の日覆ひ等の内特に藍色を帯ぶる注文品の製作上其價格の相當なる場合の使用原料に適す

四、絹物の縫糸を製するに當り生糸の代用品として遜色なく其他米棉の内低地棉を除き他の棉花の内適當の織緯なき場合特に堅牢を要する物品の製作に當り一般埃及棉を使用するを適當とすること等

なり然れども近來埃及棉の使用は畢竟非常の高價に歸するを以て絹物代用品として利益ある物品の製作を除く外妄りに各種の用途に充當するを困難とす左に一千九百七年より一千九百九年に亘る「アレキサンドリア」港輸出の埃及棉花仕向先を掲ぐ(數字は埃及貨なり)

第十表 「アレキサンドリア」港に於ける埃及棉花仕向先及數量三年對照表

國 名	一九〇七年	一九〇八年	一九〇九年
英 吉 利	一一、二〇六、六九九	八、四二八、八四七	一〇、五二一、七三六
英 領 埃 及	四三、三七一	八六、二六一	四四、一一三
合 衆 國	二、〇六三、五〇一	一、二〇一、二九六	一、八七一、四九二
埃 甸 國	一、一四七、六二〇	八三七、三五六	一、〇九一、九一五
白 耳 義	六九、七二二	六五、六八七	六三、〇六一
日本 清國 及其他 東洋 諸國	三四二、三四三	三三三、九六四	四三七、七七四

計	佛 蘭 西	獨 逸	伊 太 利	露 西 亞	西 牙 班	瑞 士	其 他
一、七九三、六〇八	一、四五四、八〇一	一、五二二、〇六四	七六八、二〇八	一、五七六、七二九	四九七、四七四	九七八、六六五	一一三、一七七
二、〇〇四、九八四	一、九〇六、二三七	六八三、四一一	一、三五六、八〇五	四一二、八四〇	七一一、二九五	九四、五七〇	一七、〇八九、一九七
一一、四六五、一九二	一、五〇〇、五〇五	三二七、五九四	八二三、七七八	一七二、四六五、一九二	一七二、四六五、一九二	一七二、四六五、一九二	一七二、四六五、一九二

七八

以上の如く埃及に於ける棉花は米國棉花及印度棉花に亞ぎて各國に供給せられ就中英國を以て其最とし毎年輸出總額の大約二分の一は英國に輸送せらる英國に次ぐは佛蘭西獨逸合衆國露西亞埃匈國を以て指を屈すべく日本に關しては輸入數量の知るべきものなし依て内閣統計局調査に係かる棉花輸入國別表を引用し一千九百九年に於ける埃及棉花の輸入高を録せんに

數量 一〇二、八一三、ピクル
價格 五四三二、六五四圓

なりとす

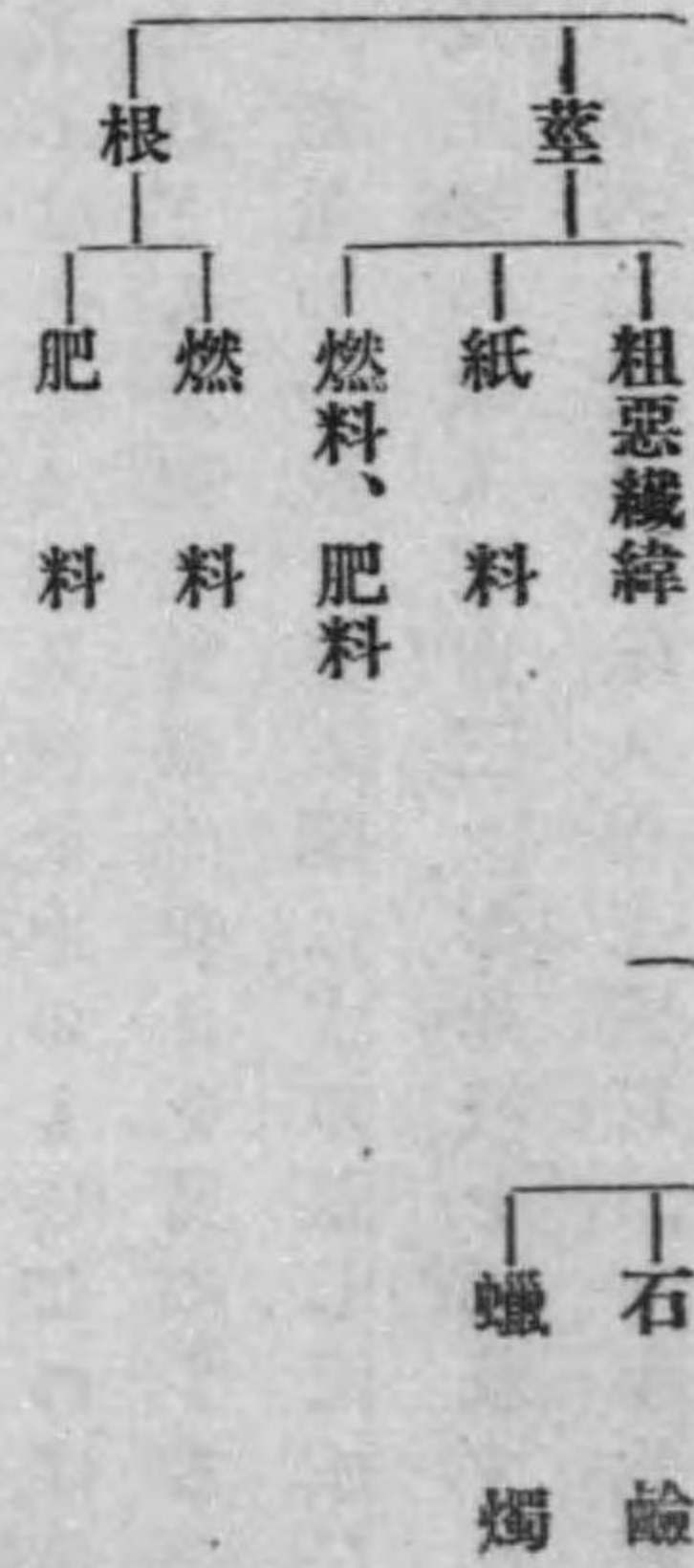
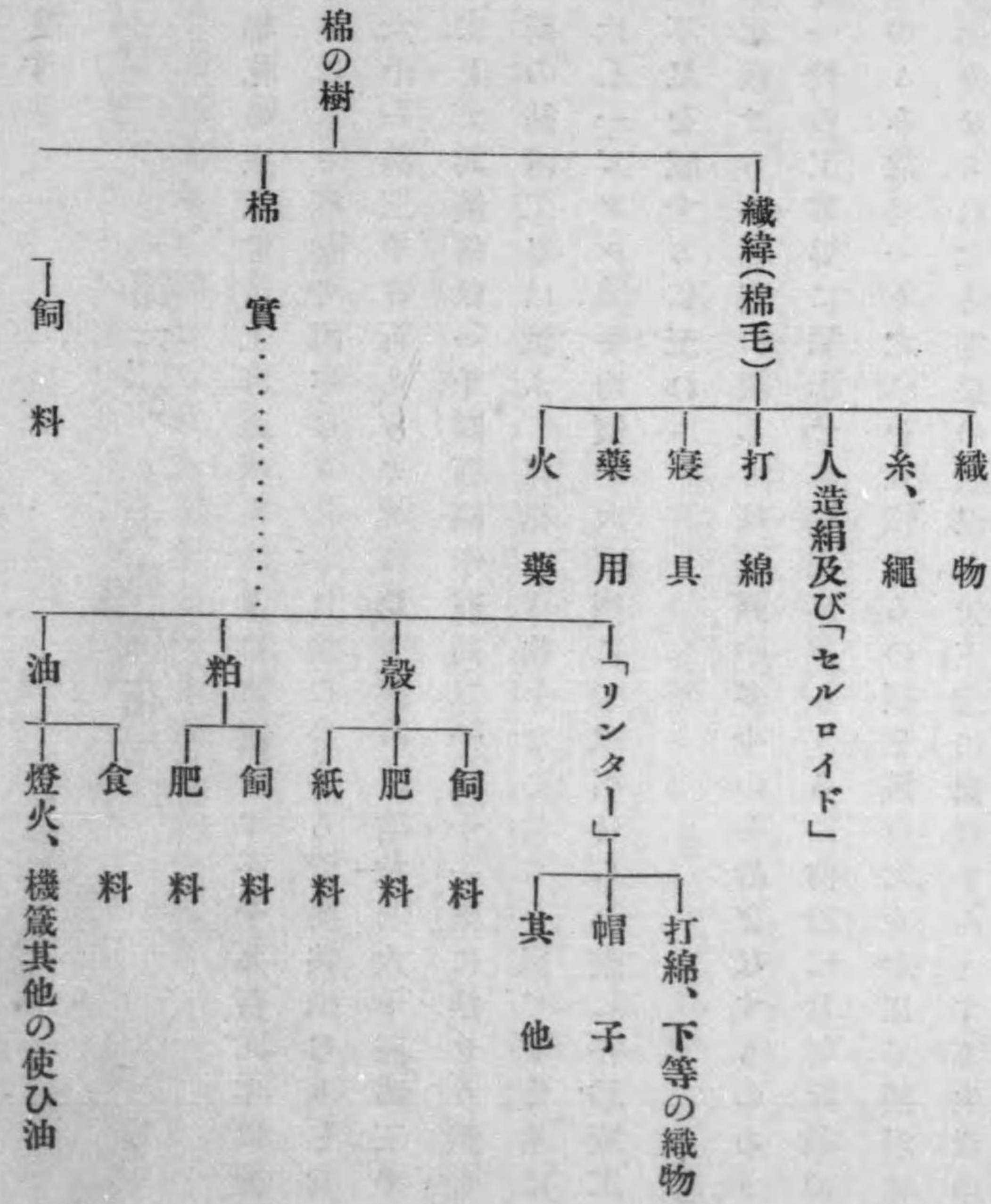
第三節 支那棉花

支那棉花の主産地は上海、通州、寧波、漢口方面とす一千九百九年に於ける棉花は作柄不良にして概して凶年なりしも日本に於ける需要甚熾なりし爲め輸出額は前年の六十一萬三千五百九、ピクルに比し遙かに増加し六十三萬三千六百八十七、ピクルにして其價格は一千四百四十五萬二千二十一兩に達せり然も上海附近十有餘ヶ所の紡績工場は競ふて棉花の買収をなしたるを以て其價格は從て騰貴し前年に比し一、ピクルの平均價格六兩高にて取引せられ遂に各紡績工場に於ては棉花の不足を感じるに至れり

以上記載せる外棉花に關しては各國中多少の供給をなすものありと雖も何れも世界一般の工業界に關聯せる棉花にあらざるは勿論にして記載の事項又單一なるものゝみ故に一々之れを載録するの煩を避けたるを以て讀者は既に第一篇に於て知得せられたる需要の狀況と第三篇に記載せんとする生産の趨勢とを併せて其概要を諒得されんことを冀ふ尙左に棉樹より生産する凡ての物資の種類を

七九

掲げ参考に供せんとす



第三章 日本に於ける各國棉花の供給

第一編に於て日本の棉花需要につき其大綱を録せるも尙ほ細別して其内容を解説し各國棉花の供給如何を明かにせんとす抑も棉花の需要如何は其製品たる紡績糸の商況如何によるは論を俟たざることなれども一は棉花相場の高下に關することも多し本邦に於ける輸入棉花の大半は英領印度よりせられ他の一半は米、清、埃及、佛領印度及び其他の諸國より輸入せらるゝものとす蓋し本邦は地理上の關係より一方の棉産地の作柄不良なるときは他方の産出地より之が輸入をなし得るの地位にあり従て棉花相場の如何によりても亦輸入先に變動を生ずるは勿論の事なりされば各産出國よりの輸入割合も年々其率を異にし去四十一年に於け

る本邦の繰綿輸入額は總計三百十一萬四千六百九十ビクル此價格八千八百七十一萬三千餘圓に達せり但し其前年四十年にありては四百萬ビクルの輸入あり其價格一億一千四百萬圓に達せしものなりしが綿糸の賣行不振の結果は紡績業者の操業短縮となり繰綿の輸入之に從て減少し四十一年の輸入額を見るの止むを得ざるに至りしものにして前年に比し八十九萬七千ビクル二千五百三十二萬圓の減少を示せり從て各國産棉花輸入額に影響を免れざりしが其輸入百分率を比較するときは四十年にありては總輸入量の五割三分七厘を占めたりし印度棉は四十一年にありては五割一厘に減じ之に反し米國棉は四十年には二割一分八厘なりしもの四十一年には二割五分七厘を占むるに至り清國棉は四十年には米棉と同額なりしも四十一年には減じて二割九厘となれり本章記す所の數量は本邦外國貿易年表によりたる輸入統計中のものなれば第一編に於ける米國側統計とは多少の差あれども是相互計算の時日を異にする又計算の基礎に錯誤あるとにより兩者の數量の一致を見る能はざる蓋し遺憾なりとす今參考のため本邦に於ける繰綿及生綿の輸入國別三ヶ年比較を記載すれば左の如し

第十一表 本邦に於ける輸入棉花國別三ヶ年比較表

國 名	一九〇九年		一九〇八年		一九〇七年	
	數 量	價 格	數 量	價 格	數 量	價 格
生 綿						
清 國	一七、四二	一三、七〇五	六、八三九	四九、九〇九	七、九六五	六、七六
朝 鮮	一九、三七	一五、四八九	八、〇五〇	六〇、六七二	五、一五八	三四、四六七
英 領 印 度			九三	七、六八八	二九、七九四	三三、二八二
英 領 海 峽 殖 民 地	六五、五七	四六、七四二	八七、六〇〇	五七六、〇二五	八四、四二二	六三、八一五
蘭 領 印 度	六、四三九	四六〇、九〇二	五九、六二二	三八四、一九六	五七、九三四	三五、四七一
佛 領 印 度	三三、二八七	二四〇、三三四	五、三三八	四〇七、三三五	三、四八八	二七、三三九
暹 羅	一〇、四三〇	八九、八八二	七、九六八	五七、〇〇一	七、四七七	五、七七四
其他 諸 國						
通 計	二四、五二	一、五四、〇五四	二二、三〇五	一、五四二、八九九	二四、一九八	一、六〇六、八七四
繰 綿						
清 國	五九四、六〇	一六、〇〇七、三七七	六五二、四八〇	一六、二八〇、七五	八七七、二四〇	二二、四〇三、五五八
朝 鮮	八、〇三	一八六、六三七	七、四二〇	一八七、三三	三、二四〇	七〇、七三九

英領印度	二、三、七、七二	六、〇、七、六、一六二	一、五、〇、二、九	三、九、六、四、二、〇、三	二、一、五、五、九	五、七、三、五、九、六、三
英領 海峽殖民地	一、三、四	三、一、五、四、九	六、六	一、一、〇、五、〇	四、一	一、一、〇、二、九
蘭領印度	二、二、八、九	四、四、五、八、八	三、九、三、三	八、七、二、九	四、四、五、六	九、六、一、〇、三
佛領印度	二、八、三、三	六、六、五、九、四、四	四、一、八、七、三	一、〇、一、八、一、三、八	二、六、一、三、四	六、五、八、四、九、二
暹羅	五、〇、〇	一、三、一、八、〇、七	九、〇、六	一、八、八、二、〇	六、三、三	一、三、六、一、一
北米合衆國	七、五、〇、四、一	二、三、三、八、四、五、〇	七、九、八、三、九	二、六、四、六、二、六、三、五	八、七、三、六、四	二、八、七、三、三、四、六、九
秘露	一	四			七、四、五、二	三、〇、七、〇、六
埃及	一、〇、一、八、三	五、四、三、一、六、四	九、七、三、八、四	五、〇、〇、四、四、五、九	六、二、九、三、三	三、三、六、九、七、八
其他諸國	二、七、六	五、五、二			三、七、三	一、五、〇、七、九
通計	三、七、〇、九、〇、一、〇、六、七、三、七、四	三、一、四、六、九、〇	八、八、七、三、四、〇	四、〇、一、二、一、四、三、一、四、〇、三、四、七、五		

八四

前表により本邦に於ける繰綿需要額を見るときは一ヶ年凡そ三百萬乃至四百萬「ピクル」にして之を封度に換算するときは四億封度乃至五億三千萬封度となり尙之を全部米國棉花と同じく一俵五百封度入に換算するときは八十萬俵乃至百六萬六千餘俵となるべし以上の内本邦へ輸入せらるる米國棉花は主として「テキサス州及び「オクラホマ州」の産出に係り棉種は凡て高地棉種(アツプランド)に屬せり

而して是等の輸出棉花は輸送日數の關係上多くは生産地より鐵道により太平洋沿岸輸出港即ち桑港「シアトル」タコマ「ホートランド」等へ輸送せられ是等の各港より日本又は外國汽船に積載して本邦へ輸送せらるるを常とす蓋し「ガルウエストン」「ニューオルレアンス」及紐育等の諸港より輸出せらるるものゝ内蘇西運河を経由し本邦へ向け輸出せらるるもの亦多少ありと雖も此航路を取るときは航海の爲め空しく日數を費し爲めに本邦着は遅延を來たし故に商路上甚不利たるを免れず殊に繰綿の取引は斤量を以て行はるるものなるが故に蘇西航路を取り赤道を経過するときは太平洋航路に比し稍多くの減量を來すを以て當業者は運賃の稍低廉なるに反し取引上の不利を叫ぶもの多し即ち「オクラホマ」及北部「テキサス」州より本邦迄の運賃は太平洋航路を取るときは百封度に付き一弗三十五仙(内九十五仙は鐵道運賃)四十仙は汽船運賃にして鐵道運賃中には棉花締直し賃十仙を(含む)にして之を蘇西航路運賃に比するときは百封度に付き二十仙乃至二十五仙の高値なりとす而して一千九百九年中本邦へ輸入したる生綿及繰綿の數量及價格を前二ヶ年分と比較すれば左の如し

第十二表 本邦に於ける輸入棉花額三年比較表

給 供 要 需 の 花 棉

生 綿		生 綿	
年 次	數 量	年 次	價 格
一九〇九年	二一四、五二一 <small>ピクル</small>	一九〇九年	一、五二四、〇五四 <small>円</small>
一九〇八年	二二九、三〇五	一九〇八年	一、五四二、八〇九
一九〇七年	二二四、一九八	一九〇七年	一、六〇六、八七四
一九〇九年	三、七七〇、九〇一	一九〇九年	一、〇六七、八三、七三四
一九〇八年	三、一一四、六九〇	一九〇八年	八八、七一三、四八〇
一九〇七年	四、〇一二、一四三	一九〇七年	一一四、〇三四、七二五

第十三表 一千九百九年本邦輸入棉花港別表

港 別	生 綿	生 綿
年 次	數 量	價 格
大 阪	一八、九二一	三二四、四〇五
神 戶	一三六、八一七五	六九、九五二、一九二
横 濱	一九五、一四〇	二、五一六、二九五
其 他	一、三六八、一七五	一八、〇〇六、四二三 <small>円</small>
合 計	一、五二四、〇五四	一、〇六七、八三、七三四

給 供 の 花 棉 編 貳 第

長 崎	門 司	函 館	其 他	合 計
價 格	價 格	價 格	價 格	價 格
八、六七八、八九七	五二〇、八〇九	一三五、六四五	三、五三九、一九一	一、〇六七、八三、七三四
一九、九三〇	六、〇八六、七二二	三、七七〇、九〇一	四、五七五	二、一四四、五二一
一、五二四、〇五四	二、三四、三三〇	四、六〇〇	四、五七五	一、五二四、〇五四
一、五二四、〇五四	二、三四、三三〇	四、六〇〇	四、五七五	一、五二四、〇五四

以上の内一千九百九年に於ける米國棉花の輸入額は七十一萬五千四十一ピクル、此價格二千三百三十一萬八千四百五十圓にして前年に比し數量に於て約八萬四千八百ピクル即約一割を減少し價格に於て三百十四萬圓即約一割二分の減少を示せり此減少の基く主因は四十一年の廉價なる棉花は上半期中に大部分の輸入

を了り下半年期に至りては四十二年即一千九百九年作の不良なりし結果は相場を激進し尋で輸入額の減少をなすに至りたるものにして之に反して印度棉は多大の増加をなしたり之れ本邦紡績業者は高價なる米棉を使用するときは收支相償なはざるが故に其用量を減じ印度支那及埃及産棉花の使用量を増加したる結果なりとす

第三編 棉花の生産

第一章 概説

世界に於ける棉花の生産は氣候風土の寒暖により栽培に適不適の地に分たる然して今日迄農本主義の國には多く適當し年々耕地の面積を増加するの傾向あり殊に同一地方に於ける栽培と雖ども年々同一の成績を得らるべきものに非るは普く了得せらるゝ而已ならず産地により播種收穫等其時期を異にするもの多きは専ら風土に關する棉樹發育の期節を利用するを以てなり此栽培に關しては本書費するの必要なきのみならず敢てなさしめば却て錯誤の虞あるにより之を農學者の著に待ち予は直ちに進んで生産力の状態を録述するに止めんとす即ち既

往三ヶ年間に於ける各國別繰綿の産額は大略左の如し

第十四表

國名	産額 (正味五百封度入換算)		
	一九〇九年	一九〇八年	一九〇七年
世界の總額	一六、五五八、〇〇〇	一九、六一三、〇〇〇	一六、五一二、〇〇〇
内譯			
合衆國	九、八六三、〇〇〇	一三、〇〇二、〇〇〇	一〇、八八二、〇〇〇
印度	三、六〇二、〇〇〇	二、九五三、〇〇〇	二、四九八、〇〇〇
埃及	九一、〇〇〇	一、二七五、〇〇〇	一、二九六、〇〇〇
露西亞	七二〇、〇〇〇	八四六、〇〇〇	六二〇、〇〇〇
支那	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	四二六、〇〇〇
ブラジル	三六〇、〇〇〇	四二五、〇〇〇	三七〇、〇〇〇
秘魯	六〇、〇〇〇	五七、〇〇〇	五五、〇〇〇
墨西哥	一二五、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇
土耳其	三二、〇〇〇	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇

一千九百九年の全體生産額は一千九百八年に比し大約三百萬俵の減収にして一千九百七年に大差なく各工業家は渴望して得る所尠なかりし時代なりとす而して減収額の甚大なりしは合衆國獨り之を占め特に不作に基きたるが如き形勢にして總減額の大約九割は合衆國の減収に基つき殘餘の一割は概ね埃及棉の減収なりとす此他多少づゝ減額せる國々ありと雖も以て大勢に影響する棉花産地にあらず

第一節 合衆國

一千九百九年より一千九百十年に亘れる合衆國に於ける棉花の生産は大約四十八億二千六百三十四萬四千封度にして皆掛五百封度柵り一千八萬八千俵に荷造りせられたり其各州に於ける量目及び俵數左の如し

州 名	量 目(封度)	俵 數
ビルジニア	四、七七〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

波 斯	其 他	九〇
九〇、〇〇〇	一九五、〇〇〇	五〇、〇〇〇
五〇、〇〇〇	一八五、〇〇〇	一六五、〇〇〇

北部カロリナ	二九三、二二二、〇〇〇	六一五、〇〇〇
南部カロリナ	五二二、六四四、〇〇〇	一〇、九五〇、〇〇〇
ジョルジア	八六〇、〇四〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
フロリダ	二七、四六三、〇〇〇	五七、〇〇〇
アラバマ	四八七、八六六、〇〇〇	一〇、二〇〇、〇〇〇
ミシシッピ	四八八、〇七〇、〇〇〇	一〇、二〇〇、〇〇〇
ルイシアナ	一三四、〇三六、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
テキサス	一、二三二、〇五八、〇〇〇	二、五七〇、〇〇〇
アルカンサス	三四二、四一四、〇〇〇	七、一五〇、〇〇〇
テンネツシ	一一四、九一二、〇〇〇	二四〇、〇〇〇
ミツソーリー	二三、四八一、〇〇〇	四九、〇〇〇
オクラホマ	二九五、三五八、〇〇〇	六一七、〇〇〇
通 計	四、八二六、三四四、〇〇〇	一〇、〇八八、〇〇〇

右調査額は合衆國農務局收穫調査統計に記録したる額にして一千九百十年産新棉花の繰上産開始迄の間の一ヶ年間に於て各工場に支配され全世界に於て消費

給 供 要 需 の 花 棉

州 名	年 次	十二月一日迄の繰上げ (三位略)		全收穫 (三位略)		十二月一日迄の繰上高	
		包	高	包	高	百分	比 例
合衆國		八、八七六	二、〇〇八	八、三四八	一、三〇八	八四、一	七五、五
内 譯							
アラバマ		九九	一、二七五	八五六	一、三三三	八八、三	七七、〇
アルカンサス		六三	七七六	四八四	九九六	七九、〇	六四、四
フロリダ		五五	五八	四〇	七〇	八三、〇	七、八
ジョルジア		一、六七七	一、七三九	一、五八	一、九七七	八八、〇	八一、六
ルイジアナ		二二七	三〇四	四二四	四六六	八四、六	六四、一
ミシシッピ		八六六	一、二九七	九五五	一、六二〇	八〇、一	六六、二
北部カリオナ		五三六	五五四	四六八	六八三	八一、一	七三、四

し又は消費されつゝある棉花なりとす
尙最近三ヶ年間毎年十二月一日迄の棉花繰上高左の如し
第十五表

産 生 の 花 棉 編 三 第

取 穫 年 次	毎「エーケル」の平均産額	一 封 度 の 平 均 價 格	
		包	高
一八六七	一八六八	一八九、八	一六、五
一八六八	一八六九	一九二、二	一六、五
一八六九	一八七〇	一九六、九	一六、五

オクラホマ	五〇四	四三二	五九八	六八九	八四八	六二、五	七〇、五	六五、八
南部カリオナ	九八八	一、〇五二	九四三	一、二二五	一、一六三	八六、五	八一、一	八四、四
テンネッシー	二〇六	二七九	一七七	三三四	二六六	八三、七	六六、五	六二、九
テキサス	二、二二二	三、一九三	一、八四九	三、六七〇	二、二〇八	八八、〇	八三、八	八二、三
其 他	四九	五八	二六	七三	四六	七六、六	五七、七	五九、一

前表に依りて観るときは毎年十二月一日には少くとも全收穫の百分の七十五六の繰上を終了するものとす
合衆國に於ける「エーケル」の棉花平均收穫高及び毎年平均値段概ね左の如し但し米國農務局統計により産出したるものにして一千九百二年より一千九百六年に至る間は高地棉花は「ニューオルレアンス」棉花取引所公定相場により低地棉花は「チャーレーンソン」及び「サバレナー」棉花取引所公定相場により算出せられ居れり

第三編 棉花の生産

一八八五
一八八六
一八八七
一八八八
一八八九
一八九〇
一八九一
一九九二
一八九三
一八九四
一八九五
一八九六
一八九七
一八九八
一八九九

一六三、九
一六九、五
一八二、八
一八〇、四
一五八、八
一八七、〇
一七九、四
二〇五、〇
一四八、八
一九一、七
一五五、六
一二四、一
一八一、九
二一九、〇
一八四、一

八、五
八、一
八、五
八、三
八、六
七、三
八、四
七、〇
四、六
七、六
六、六
六、六
五、七
七、二

棉花的需供

一八七〇
一八七一
一八七二
一八七三
一八七四
一八七五
一八七六
一八七七
一八七八
一八七九
一八八〇
一八八一
一八八二
一八八三
一八八四

一九八、九
一四八、二
一八八、七
一七九、七
一四七、五
一九〇、六
一六七、八
一六二、一
一九一、四
一八八、〇
一八四、五
一四九、八
一八五、七
一六四、八
一五三、八

一、二、一
一、七、九
一、六、五
一、四、一
一、三、〇
一、一、一
九、九
一、〇、五
八、二
一、〇、二
九、八
九、〇
九、〇
九、二

一九〇〇	一九〇一	一九〇二	一九〇三	一九〇四	一九〇五	一九〇六	一九〇七	一九〇八	一九〇九
一九四、四	一六九、〇	一八八、五	一七四、五	二〇四、九	一八六、一	二〇二、五	一七八、三	一九四、九	一五六、六
九、三	八、一	八、三	一一、二	八、七	一、〇	一、〇	一〇、四	八、七	一三、九

九六

以上各年次に於ける收穫の平均と一封度の價格により夫々對照するときは收穫に於ては漸次退歩の傾ありて價格に於ては往時に比し需要の増加したる割合に安價なるが如し

茲に低地棉につき記さざる可らず低地棉の産額は稀少なり然して高地棉に比し氣候の關係が繰上高に影響すること激甚なりとす其品質及價格は常に埃及棉以

上の地位にあるを以て高地棉の遠く及ばざる所たるは勿論なり今最近五ヶ年間に於ける生産額を列記すれば左の如し

年 次	俵 數	重 量(ポンド)	平均一俵の重量
一九〇五年	一一二、五三九	四四、七〇〇、〇〇〇	三九七、二
一九〇六年	五七、五五〇	二二、二八〇、〇〇〇	三八七、二
一九〇七年	八六、八九五	三四、〇三〇、〇〇〇	三九一、六
一九〇八年	九三、八五八	三六、五四〇、〇〇〇	三八九、三
一九〇九年	九四、七九一	三六、四四〇、〇〇〇	三八四、四

尙ほ本棉花一封度に對する毎年平均値段左の如し

一九〇〇年	一六、四
一九〇一年	二四、七
一九〇二年	三三、〇
一九〇三年	五三、七
一九〇四年	九八、五
一九〇五年	九八、五
一九〇六年	五三、七
一九〇七年	三三、〇
一九〇八年	二四、七
一九〇九年	一六、四

九七

一九〇一年	一九三
一九〇二年	二〇三
一九〇三年	二〇、八
一九〇四年	二二、七
一九〇五年	二〇、三
一九〇六年	二〇、五
一九〇七年	二七、三
一九〇八年	二六、三
一九〇九年	二〇、八

本棉花増收に必要な栽培順序として種子の撰擇に絶大の注意を支拂ふときは其効果著しきものありと云ふ近時、シー、アイランド地方に於ける耕地面積の増加により一層増收の顯著となれるあり尙ほ左の各項につき注意を拂はるゝに至りしを以て數年ならずして其實効の現實にさるゝ亦疑なかるべし

- 一、本棉花の栽培、收穫及び新地方に於ける凡ての取扱に注意の不足なること
- 二、栽培家が棉花に對する自重心を缺く即高地棉を摘採するには百封度五十仙

内外の賃銀にして本棉花は百封度一弗二十五仙の賃銀を受くるを得るに係はらず高地棉帯に於て熟練したる技術を適用せずして棉實の開花不充分的なる不熟絮を採取するの弊害あること

三、シー、アイランド棉(低地棉)に對しては、「ローラー」繰上機を用ゆるの緊要なること

四、事實に於て耕地に對する肥料の適當なるや否や或は施用する程度の過不足及び棉花買受人が棉花の外観上栽培法を鑑別するに不熟練なるため栽培家に研究の材料を與ふる能はざる事

等なり

「シー、アイランド」棉の最上品は、「サウスカロリナ」の諸島に栽培せらるる是多年種子の撰定に非常の注意を拂ひし所のものたり其上收穫上の保證として買受人が屢產地に出張して一部づゝ收納し織緯の美麗にして細長なるものを聚集することゝ斷定し居れり此收穫期に於ては棉樹の運命は幾分短縮せられ不熟の果實及不發達の果實等の殘留せるまゝ殺象虫と共に全部焼却する規定となり居れるを以て從て輸出さるゝ低地棉は殆んど美麗なるものとして通用し居れり本棉花は今西

印度諸島に於て栽培せられ生育の程度は米國に劣らず將來競争を開始するときあるは疑を容れざる所たり

以上合衆國に於ける高低兩地棉種生産の概要を述べたり其複雑なる學理上の問題に至りては已に「ワット」氏の詳述する所あるを以て茲に贅せず耕地面の一般狀況も亦第一編及第二編に述べたる需給の狀態により其大要を推知するを得べし以上の外米國內棉花生産各地方に於ては長纖維高地棉を發見され長さに於ては低地棉に比敵するものあり然れども此棉花の大部分は「ミシシッピ」地方に限局されて能く生育し長さ二百哩廣さ七十五哩に亘る「グイクスブルグ」より「メンピス」に至る間にあり其纖維の長さは一時四分の一より一時八分の七に達し「エーケル」の收穫は約一俵に近し本棉花は以前低地棉を使用したる縫糸及び組糸の原料に要求せられ目下殆んど全部の縫糸及組糸の製作に供せらる而して低地棉産地方より遙かに離隔して栽培せられ然も繰り上げには夫々最良の設備を有する地方に多し此棉産地方に於ける古き繰上狀況を察するに其纖維を損傷したること夥しかりしも一度び此棉花の纖維の良好なるを認められてより埃及棉或は低地棉の繰り上げと同様に「ローラー、ギン」によりて繰上ぐる事となれり

第二節 英領印度

英領印度商業通信によれば棉花に供する耕地面積は印度内地に於て逐年増加し一千六百九十九萬「エーケル」より一千八百七十二萬二千「エーケル」に増加し一千九百九年より一千九百十年に亘る一ケ年間優に一割を増加せり然れども之を一千九百七八年に比するに漸く六歩の増大に過ぎず此耕地面積の増加は従て收穫の増量に及ぼす事疑なし一千九百十年十月調査英領印度に於ける棉花耕作地既往三ケ年間の比較面積左の如し但し土人州耕地を含む

第十六表ノ一

州 及 省	一九〇七—一九〇八	一九〇八—一九〇九	一九〇九—一九一〇
ボムベー及バロダ	五、二七六、〇〇〇	四、五九五、〇〇〇	五、一九二、〇〇〇
セネラル、プロビンス	四、四二九、〇〇〇	四、一七六、〇〇〇	四、二二〇、〇〇〇
マドラス	六八四、〇〇〇	六九九、〇〇〇	七一七、〇〇〇
バンドジャブ	一、一五五、〇〇〇	一、三七四、〇〇〇	一、五六八、〇〇〇
連 合 州	一、一〇〇、〇〇〇	一、三四七、〇〇〇	一、四八五、〇〇〇

給 供 要 需 の 花 棉

シ	二一八、〇〇〇	二七五、〇〇〇	二四五、〇〇〇
ブ	一九八、〇〇〇	二〇七、〇〇〇	二〇二、〇〇〇
ベ	六五、〇〇〇	五九、〇〇〇	六二、〇〇〇
東部ベンガル及アッサム	五九、〇〇〇	九七、〇〇〇	九八、〇〇〇
北	四八、〇〇〇	四二、〇〇〇	四三、〇〇〇
西	三九、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四五、〇〇〇
アジメルー、メルソラー	二、九七一、〇〇〇	二、六五二、〇〇〇	三、三〇六、〇〇〇
ハイデラバッド	一、〇〇二、〇〇〇	九八四、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇
中	四二一、〇〇〇	四〇四、〇〇〇	四六〇、〇〇〇
央	四四、〇〇〇	三九、〇〇〇	六九、〇〇〇
印	一七、七一〇、〇〇〇	一六、九九〇、〇〇〇	一八、七二二、〇〇〇
度			
ラ			
ジ			
プ			
タ			
ナ			
ミ			
ツ			
ソ			
レ			
イ			
合			
計			

一〇二

一千九百八年に於ける平均「エーカー」の收穫は七十三封度にして總收穫は二百九十二萬三千四百俵なり而して前記商業通信に比するに左記政廳調査の面積俵數等を以てするときは各項調査の方法及び記載されたる時日等相異の點多しと雖も何れを正しきものとも斷言するを得ざるにより暫く此儘にて參考に供する

産 生 の 花 棉 編 三 第

ことゝし後日精到なる調査を待ちて訂正する時あるべし
第十六表の二

年 次	耕 地	積	工場消費棉の生産額(五百封度)	一「エーカー」の收穫
一八九七	一三、六八三、四八七	二、一二二、九六八	二、五二二、一〇四	七八
一八九八	一四、六〇二、八九二	一、六七四、八一七	二、一六二、九一八	七〇
一八九九	一四、二三一、一五〇	二、六四八、五八六	三、〇〇〇、四三九	九一
一九〇〇	一四、五〇六、二九五	二、八六三、七二四	三、〇六〇、八〇〇	七七
一九〇一	一六、五八一、〇四六	三、三八九、六〇〇	三、九二六、四〇〇	八八
一九〇二	一八、〇二五、〇〇〇	二、四九七、六〇〇	二、九五二、八〇〇	七三
一九〇三	一九、九一八、〇〇〇			
一九〇四	二〇、四〇一、〇〇〇			
一九〇五	二二、四八八、〇〇〇			
一九〇六	二二、六三〇、〇〇〇			
一九〇七	一九、九九九、〇〇〇			
一九〇八				

一〇三

平 均	一九〇九	二〇、二二七、〇〇〇	三、六〇一、六〇〇	一〇四	八九
		一一、五五二、一一一	二、八〇一、一〇三		八一

印度熱帯及び半熱帯地方に於ける生産棉花の種類は細別すれば數多に亘ると雖も之を大別すれば「ゴシビウム、ヘルバセウム」「ゴシビウム、ネグレクタム」「ゴシビウム、ロセウム」「ゴシビウム、オルボレウム」の四種とす然れども近年米埃兩棉種の移植せらるゝものがあるが故に印度に於て栽培する棉種は六大種と見れば大過なからん「ヘルバセウム」は普通「ブローチ」及び「クムプタ」と稱せられ「ロセウム」は「ヅアラデー」「ネグレクタム」は「ジャリー」と稱す其最良なるものは「ヘルバセウム」種にして織緯長且つ柔細糸紡績に適す然れども大體に於ては糸線太く四十番手以上の製糸は不可能なり繰り上げに際し棉花及棉實の割合は最良種にありても花二十五、實七十五の割合なりとす故に耕地灌漑費等を支拂ひ壹「ピカー」の繰上げ高三百五十封度以上を穫ざれば收支償はずと云ふ此收穫以下にある平均實收は總じて不作と稱す「パロダ」土人州「ナウザリー」郡は地味豊沃印度最良の「ブローチ」棉を産す其他の郡部亦多少の産あり其産出反別百二十四萬七百十九「ピカー」「ピカー」は一六〇〇平方碼とす原種印度棉花の市場に知らるゝものを産地及び取扱市場名に區分すれば

左の如し

棉花の名稱	産 地	市 場 の 名 稱
「ブローチ」又は「スラット」郡	「ブローチ」郡	「ミアガム」及び其以南七市場
「クム プ タ」	「ダルワール、フプリー」	「スラット」「ナウザリー」及十九市場
「ソーシンド、タルワール」	同	「ダルワール」「ガタフク」「フプリー」
「ウエスタルン」	孟買州「カルナタック」	同
	「ハイデラバード」州	「アンニゲリー」「バカルコット」「シヨラプー」「ベルガウム」「ビジャプール」「ミラージュ」其他三十市場
	「マトラス」州	「ライチヨール」及附近五市場
	「ベラリー」	「ベラリー」市及附近十二市場
	「ドレラ」	「クツチ」地方十市場
	北部「グラセツト」	北部「グラセツト」二十市場
	「カチャワール」半島	「ワドソン」「バーブナカール」「シユナガット」「ドレラ」外四十市場
	「ベラール」州	「ウムラワチー」外十市場
	中央州	「ナクポール」「ブルカオン」外十市場

織緯短

「ガンデツシユ」……………「シャルガオン」「ヅリア」外二十六市場
 中央印度……………「インドノル」外六市場
 中央州……………「ブルハンプール」「ハルダ」「カレトウ」
 「ウムララ」(ウラ本場)……………「アコラ」外二十市場
 「ベラル」……………「ヒンガングット」外二市場
 「ヒンガングット」……………「バルシ」外十市場
 「ナガール」……………「アメダナガール」外十市場
 「ラジュプタナ」……………「ケグウキ」外二十市場
 「ベンゴール州(ベンゴール本場)」……………「コミラー」
 合併州……………「カウンポール」外二十市場
 「シンド」「ブンヂャブ」……………「シンド州」「アンヂャブ州」兩州ノ内三十市場
 「コ、ナダ」……………「コ、ナダ」「ガンツール」
 「チエンネベリ」……………「マドラス州」……………「コインバトール」及十二市場

以上各種棉花中「ブローチ」棉は金巾製織原料に適し「ベンゴール」「カンデツシユ」は羊毛と混紡に適す「ブローチ」棉は良好の性質を具備すれども産額少なく其他固有棉

一〇六

花は價格低廉なれども收穫多く且比較的豊凶なし故に各耕作者は依然として品位の優劣を度外し疎大の棉花に甘んじて播種す又雨量の多寡、地方の気温及生熟の時期によりて播種の種類を異にするを以て地方によりて自然棉花の種類を異にする所以なり然して印度の棉花作付反別は曩に述べたるが如く近年世界の需要増進と共に著しく増加し他の穀物を栽培するより有利なりとの理由を以て耕作者非常に多く僅かの凶年に遭遇することありても屢穀類の不足を生じ其爲め穀類騰貴し飢餓に泣くもの頻出し其光景慘たるものありと云ふ

「ブローチ」及「スラット」地方は最優等の印度棉花を産出する地方にして耕地面積二千方哩餘の平野なり海拔約百五十呎の高地にして雨量は平年三四十吋の間を往來し六月中旬より七月初旬に終る播種の時期は六月下旬にして收穫は翌年二三月頃なり此地方の農夫は二年毎に作物を變更し地味の枯瘦を防ぎ萬事用意周到なり「ブローチ」地方中北部は地味瘦せ從て棉花劣等なり此棉花を良棉と混交するの弊風あり「ブローチ」「スラット」兩郡の平均收穫は一「ピカー」より平年實棉の三百五十封度即繰綿百四十封度平均を得然して六月下旬降雨過多なれば苗木腐朽し七月上旬早魃なれば幼苗枯死すと云ふ

一〇七

「バロダ」土人州の産棉は「ブローチ」に比し遙かに劣り「アモット」「ジャムプサール」兩産棉類似のものなり故に屢「ブローチ」に混し又は「ブローチ」と稱して輸出せらる此地方平作毎年十二萬俵なりと云ふ「アメーダバード」地方産棉は「ドレラ棉」と稱し「ブローチ」に劣るも可なり上物として取引せらる此地方は井水にて灌漑せざる可らざる耕地多く雨量甚少し「カチャワール」半島棉は「アメーダバード」地方棉に彷彿たり此地方大部は土人州にして地味肥沃なるが故に棉種子を撰擇せば産棉從て良好なるを得べし「シンド」地方は雨量極少一ヶ年五吋乃至七吋なり故に一般灌漑は「インデイス」河の運河による氣候地味概ね埃及産棉地帯に類似するを以て近年埃及種を移植し其産棉は歐州市場に於て好評を博せり此地方平作十二年十二萬五六千俵にして一噓の收穫高は原種棉三百七十七封度埃及種は四百二十七封度平均なりと云ふ「ブンヂャブ州」は平年三十萬捆の收穫ありて一般「ベンゴール」棉を以て販賣せられ織緯短大價格亦低廉なり合併州は平均五十萬捆の收穫あり「ベンゴール」地方は「ベンゴール」棉本場にして平均收穫一萬五千捆あり「ブンヂャブ州」棉と共に「ベンゴール」棉として取引す「マドラス州」は平年十四萬捆にして日本人の好む「チエンネペリー」棉の産出地方なり本州の收穫期は四五月頃なり「ハイデラバード」土人州

は平作四十二三萬俵にして「カンデツシユ」「ウオラヲチ」種棉花産地方なり其品質中等に位す中央州「ベラール」地方は孟買州に次ぐ大棉産地方なり其平年收穫は八十萬俵とす「ベラール」棉は尙ほ細別して「ヒンガングツト」「ナグポール」「エオトマル」「アコラ」「タマムガム」等の銘柄あり共に白色にして品質中等織緯短大なり日本人其顧客たり毎年十一月中旬降雨あれば棉花に赤斑を生じ損失を蒙ることあり孟買州は印度中大棉花産出地にして前述「スラツト」「ブローチ」「アメーダバード」「カチャワール」「シンド」等皆本州中の産地なり其外「デツカン」「カルナタツク」「サタラ」「コラプール」「ビジャプール」「ハリハール」「ダルワール」等の産地あり「デツカン」「カルナタツク」「サタラ」等の地方は六七月頃播種し十二月頃收穫あり然れども「ダルワール」地方は八九月頃播種し翌年四五月に收穫す「ダルワール」に於ては亞米利加「アツブランド」の變種を耕作し居れり此棉花は「ソーシンド」と稱す是繰上方法より名づけたるものなり又「クムプタ」種は「ヘルバセウム」種に屬し一見「ブローチ」樹に酷似す然れども「ブローチ」より織緯長く繰上げの割合有利なり亞米利加種は「ダルワール」郡に限り耕作せられ「クムプタ」種は「カルナタツク」「フプリー」「ダルワール」諸郡中に點作せられ「ウエスタル」「ル」種は「クムプタ」種と同一棉屬なれども孟買州「シヨラプール」「ベルガウム」及

び「マドラス州」ベラルリ等雨量少き地方に産出し品質稍劣等なり「バロダ」土人州「ナウザリ」郡は印度最良「ブローチ」種「ナウザリ」棉の産地なりとす本州中各郡多少の「ブローチ」棉を産す其作付反別は全州耕地の四分の一以上に亘り大約百二十四萬一千「ピカー」あり

第三節 印度内地の棉花商業

孟買州に集中する棉花は「ラジュプタナ」中央州「ベラール」ハイデラバードより來り合併州に於ては自州産棉花は地理上の便宜にて大部「カルカッタ」に輸送し然る後外國に輸出す其一部分は孟買にも輸送するものあり「スラット」郡産棉は地味豊沃なる地方なるを以て「ブローチ」棉と共に織緯細長價格他の棉花より貴し平均産出高一ヶ年五萬俵位にして多くは薄地物製織のため産地附近の紡織工場に買収せらる故に外國に輸出するもの少し「スラット」市には棉花出廻期即三四月頃外商の出張所を設け買入れに着手するもの多し「ブローチ」市は「ブローチ」郡の集散地にして人口凡そ四萬五千印度最良棉花の本場たり「ブローチ」棉花の市場は「ミヤガム」、「バレージュ」及「ブローチ」外四ヶ所にして「ブローチ」最大なり外商多く出張所を置き毎

年棉花期節に社員を派し市場にて實棉を購入し特約しある繰綿工場及び「プレス」工場を経て荷造し孟買に輸送せらる現物は牛車に積み各農夫或は仲買人自ら市場に搬出し來るものにして一々現品の検査をなしたる上購入の契約をなし其儘工場に送らしめ此處にて再検査をなし且つ秤量の上代金を交付する方法なり仲買人にして見本買買をなすに至り取引高を指定期日に引渡しを了することを得ば非常の進歩なりと雖も未だ其域に達せず然して買入れたる棉花は廣場に堆積せられ多數の婦女をして塵芥及び染み付棉花を撰出し砂塵を去り然る後繰綿工場に送りて脱實せしめ此處にて再び塵芥を去り「プレス」工場に移し四百封度宛の棉花を壓搾し麻布に包み鐵帶を施し各自の荷印番號及び量目等を捺す「バロタ」國の産棉は「ナウザリ」を除き他は本場「ブローチ」に劣れども其他の印度棉花よりは優等にして「グールド」、「ブローチ」として外國に輸出せらる「ナウザリ」棉は「スラット」及び「ブローチ」棉と共に高評にして印度棉中最良なり「バーナカール」市は毎年棉花季節二月より五月迄孟買商人の出張所を設け實棉を買収して製俵するもの多し其原料たる實棉は皆「バル」プナカール「コンダール」ジュナガット「ポールバンダー」鐵道により「ワドソン」市以南の棉花を集注す「アムリトサー」市は「ブンジャブ」州

の商業中心にして各地方より集合する棉花は「カラチ」港經由にて外國に輸出す「ガウンポール」地方亦棉花の耕作盛に行はれ「ガウンポール」市之が中央市場たり「パトナ」は鐵道開通前にありては「ガンガ」河舟により棉花を集中せり「ナグポール」棉花は「ナグポール」地方産にして本市には其市場あり此棉花は曩に述べたる如く毛足短く太きものなれども其色純白なるを以て米棉に混用するに便なるより本邦紡績會社は進んで購入し産額の大部分は日本の買収する所なり三井物産會社又此地に出張所を置き内地の需要を充たしつゝあり

「ハイデラバード」土人州亦豊饒にして北部及西北部は少量の棉花を産し佛領「ボンデゼリ」亦約百九十萬法の棉花を産す

第四節 埃及

埃及に於ける棉花耕作は埃及農業中主要なる事項なり埃及は大別して上部埃及下部埃及の二となす其耕地全面積六百四十二萬六千「フェダン」にして其中棉花栽培に供せらるゝ面積は大約百六十萬乃至百七十萬「フェダン」(「フェダン」は我四反二畝)に過ぎず土地の所有權は全部政府に屬し農民の永借地は其四分の三なり一

千九百年度以降の棉産額棉作面積等左の如し
第十七表

年 次	面 積	俵 數	「エーケル」の收
一九〇〇年	一、六〇〇、〇〇〇	一、〇七五、〇〇〇	三三六
一九〇一年	一、六五〇、〇〇〇	一、二六二、〇〇〇	三八二
一九〇二年	一、七〇〇、〇〇〇	一、二五七、〇〇〇	三四〇
一九〇三年	一、七五〇、〇〇〇	一、二八九、〇〇〇	三六八
一九〇四年	一、八五〇、〇〇〇	一、二五八、〇〇〇	三四〇
一九〇五年	一、九〇〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇	三二九
一九〇六年	一、八五〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	三七八
一九〇七年	一、九五〇、〇〇〇	一、二九六、〇〇〇	三三二
一九〇八年	一、九五〇、〇〇〇	一、二七五、〇〇〇	三二七
一九〇九年	一、七五七、〇〇〇	九一一、〇〇〇	三二七

埃及は一般棉花の生産に適す是れ其風土が天然に亞米利加と異なり棉花が寒氣を蒙るに至らざるに早くも忽然として再び温暖の時期循環し來り生長に充分な

る機会を與へ天工的に保護を加ふるにあり且つ收穫期に於て一般に暴風又は降雨のために妨碍さるゝとなきが故に大體に於て織緯の長さ、強力等生育に故障なきものは凡て一樣に發育す事實に於て埃及は雨量少なく農業は全く灌漑を頼むのみ農民一千萬人を超えず人口増殖の割合亦た僅少なるを以て目下の灌漑地以外に棉花を播種し力を耕作に致し面積を擴張すること能はざるが如し故に埃及に於ける棉花耕作の發達は頗る遅々たるものあり棉花耕作の開始せられて後三十年即紀元一千八百五十年に於てすら其總産額は僅かに八萬七千二百俵を穫たるに過ぎず夫れより九年にして漸く十萬八百俵に増加せるのみ然るに一千八百六十五年に至りては非常なる注意と熱心とを以てせられし嚴重なる耕作法行はれ産額忽ち四十三萬九千俵に激増し織緯の缺點も亦漸く補足し得らるゝ事となるに至れり而して埃及棉は毎年二三月頃耕作準備を開始し植付けは三四月遅きも五月十日頃迄には全部終了し採摘は九月に始まり十二月に亘りて結了す繰り上げは一般棉花商舖或は貿易棉集積場附近に於てせられ凡て七百五十封度に梱包せられ平年「エーケル」の收穫は三百四十封度にして織緯の長さ一吋より一吋二分の一に達す荷造りは「アレキサンドリア」蒸気壓縮場に於て行はれ積出しは

十月に始まり翌年五月に終る一千九百十年より一千九百十一年に亘る作付反別左表の如し

第十八表 (一九一〇年十月埃及商業月報掲載)

州名	全 面 積	棉 作 付 面 積
(埃及低地)	一、〇八七、〇〇一	二二二、七八六
ベヘーラ	一、五六三、二三一	四一〇、三七三
ダクアーリア	六二七、三三一	二五五、八七四
シヤールクイア	八一八、〇六五	二〇六、〇四五
メヌフイア	三七四、二二三	一一一、九五〇
クオリユーピア	二二〇、六一八	六二、七三四
ジザ	二四七、一八〇	三一、五八六
(埃及高地)	四一二、九八三	六七、六六〇
フアイム	二五二、四四〇	七六、六三二
ベニスエフ	四六三、五七九	一一七、七三七
ミニエフ	四七三、八六四	三六、三六六
アシウト		

ギ ル ガ ー	三五五、〇八〇	一一六	五 四 八
ク ウ エ ナ ー	四〇一、二九二		二、八七八
ア ス ウ ア ン	一四六、五二四		九七
合 計	七、四四三、九一一		一、六〇三、二六六

尙ほ各州に於ける各棉種に對する耕地面積左の如し

州 名	棉の種類及び各種類に對する耕地面積 (フエダ)				
	ザンノグ井ツチアブアスシー	ミット、アファイ	アシムニー	ヌウバリ	ザアリアウス
(埃及低地)	三、八二二	一九、五七四	—	—	七、三二一
ベヘーラ	四、九三三	—	—	—	—
ガールビア	二、九三〇	二五〇、九五四	六三	一、五	一九、七七
ダクアリア	九三、六八六	一五七、五三二	七	四〇、六八	一、八七
シャルルタイア	二、六七七	一九五、四一〇	七九八	一、六一四	五、七九
メヌファイア	三、三二二	六九、二四二	六〇〇	四〇、九七七	五、七三
クオリユーピア	七九四	五、四二五	一、六六〇	五、四二六	二、五六
ジ	一、〇六一	一九〇、八二	一〇、五二七	五、九七	二、〇三
(埃及高地)	—	—	—	—	—
フアイウム	—	—	—	—	—
合 計	二〇、九八八	九四三、八八九	三、四、〇〇一	九、六六四	三、五、二二三

第五節 露西亞

ベ ニ ス エ フ	四	—	五七	七、五五二	—	—	—	三六
ミ ニ ア	—	—	七〇三	一、六九四	—	—	—	—
ア ス シ ウ ト	—	—	六六	三、三〇〇	—	—	—	—
ギ ル ガ ー	—	三五	—	五三	—	—	—	—
ク ウ エ ナ ー	—	—	一六	二、八六〇	—	—	—	—
ア ス ウ ア ン	—	—	—	九六	—	—	—	—
合 計	二〇、九八八	一、六五七二	九四三、八八九	三、四、〇〇一	九、六六四	—	—	三、五、二二三

露西亞に於ける棉花産地の中指を屈すべきものは先づ「トルキスタン」及び「トランス、コーカシア」なりとす殊に「トルキスタン」に於ける大面積は棉花栽培のために使用せられ主として低地及平坦地等の最も豊饒にして肥料を含有する部分なり露國政府は此地方に於ける棉花生産の増大を圖るべく各種の方法手段を授け其獎勵に務めつゝあり而して莫大なる輸入棉花を駆逐するは總て耕作者の責任なりと稱して之を鞭撻し其繰り上げ工場の組織に改良を加へ其他凡ての事項につき

夫々諸種の補助をなしつゝあり而して近年亞米利加棉種及固有棉種の栽培をなすに至れり一千九百六年及び一千九百八年に於ける露西亞の耕作地方及び五百封度入俵の生産額左の如し

産 地	生 産 額	
	一九〇八年	一九〇六年
「フ エ ル グ ハ ナ」	四四八、四三二	三八五、二五四
「ボクハラ」、「ハイバ」其他	一四六、一四五	一二六、〇〇〇
「トランス、コーカシア」	五五、五二〇	五七、六〇〇
「サーゲリア」及「アムゲリア」	三六、五二八	四四、六四〇
「サ マ ル カ ン ド」	三六、八九八	二三、五六〇
「トランス、カスピヤ」	八二、八六九	一八、〇二三
總 額	八四六、三九二	六六五、〇三七

第六節 支那

清國は工業原料として外國綿の多額を輸入するに拘はらず自國內亦到る處に之

を産出す乍併其産出棉の織緯は近年に至り漸く紡績に適する迄の進歩をなすに至れるのみ且漸く國內の生産を以て民家の消費を充實して餘剰を生ずるに至れり其商品として市場に現はるゝ棉花は六十萬俵に上り自國內工場消費高三十七萬五千俵にして殘餘は輸出さるゝものなり然して生産棉花の總額は大約百二十萬俵と稱せらる之を細別せば通州産二十五萬俵上海浦東産三十二萬俵寧波産十五萬俵漢口附近産二十五萬俵天津青島其他二十四萬俵の割合なり此中市場に顯はれざる棉花は全部自國內に於て手繰原料其他の民家の需要に供せらるゝものと見て可なりとす

清國に於ては氣候の模様により五月中に全般の播種を終了す花は六月中旬以後に開き七月十日頃満開となり八月末頃絮を開く此際天候異變なければ九月上旬には新棉の走りが上海市場に出廻るものなり天候不良なれば出廻りは九月二十日を過ぐ要するに清國棉花に對しては八月中旬以後降雨全くなきを以て最上とす而して近來著しく棉産地の増加を來したる所以は左の理由に歸す即長江沿岸の農夫は洪水等の憂あるを以て三年に一回相當の農作物を得れば足れりとなし居る位なるを以て種子を蒔くときに當りては果して同年中に種子代の收入すら

判明せざるなり乃ち成るべく安價なる種子を撰擇する結果棉種子は胡麻、豆等に比し至つて安價なるが故に各處に之れを蒔き付けたるを以て著しく其産額を増加したるものとす此傾向は永遠に持續さるゝが如きも外國種棉花を移植して成効せざりし事實は屢反覆されし企業者の實歴あるを以て今後棉種に改良を加へんとするは至難と稱すべきなり

清國棉花中品質最も良好にして價格高値のものは通州棉花なりとす其産地は海門、崇明を合し通州附近六百里に亘る廣野なりとす而して其收穫高は統計の據るべきものなきを以て無論明瞭ならざるも二十五萬俵内外に止まるべし通州地方豊作の際は一畝につき實棉二、ピクルを得、平作に於て一、ピクル半を收穫す其作付は立夏に於てし八月中全部の採摘を了す其繰り上げに際する絮實の比は實棉百斤につき繰綿三十五斤乃至三十七八斤に止まるものありと雖も海門附近に至れば平年三十七斤を下らず豊年四十斤以上四十二三斤を得る事あり其一般平均收穫は平年三十六七斤豊年三十八九斤と知るべし而して一千九百九年に於ける棉況は第二編に記載したるが如し

第七節 南亞米利加

南米各國中棉花の産地として重なるりのは秘露、ブラジル、アルゼンチン、共和國とす「ブラジル」に於ける「リオグランデ、ドスル」、「サンパウロ」、「リオ、デ、ジャネーロ」、「ミナスゲラエス」、「エスピリトサント」、「セルギベ」、「アラゴアス」、「ベルナンブゴ」、「リオ、グランデ、ド、ノルデ」、「パラヒバ」、「セアラ」、「ピアウヒー」、「アランハオ」、「ゴヤズ」等の諸州は棉花栽培に好適し就中「サンフランシスコ」河の沿岸最佳なりとす特に「セアラ」州沿岸地方は其産棉優良にして織緯は絹に似たる光澤を有し一度び種子を放下したる儘何等の注意を加へずして異常の豊作を見る繰り上げは舊式の手繰機械によも製俵の標準量目は二百五十封度なりとす此國に於ける一千九百八年の生産は五百封度入俵に換算して四十二萬五千俵に上り其大部は國內に於て消費され輸出棉花として計上し得べき著しき殘額を見ず「アルゼンチン」共和國に於ては其耕地面積大約一萬九千餘方哩あるに係はらず棉花栽培のために使用さるゝは僅に四百方哩に過ぎず棉作の盛に行はるゝ地方は「チャコ」の半熱帶地方及び「ミシヨネス」地方にして其地味棉花栽培に好適せるが如し棉花の品質は良好にして世界各市場の認むる所なり恐らくは將來大なる發展を見るに至らん一千九百八年の生産棉花額は五百封度入約一百俵なりき

秘露は前二國に比し遙かに優秀なる棉花を産す而して其産棉の殆んど全部は海岸に近き原野に栽培せられ一千九百八年の收穫は五百封度入五萬七千俵なりとす之を一千八百八十五年の收穫一萬二千俵に比すれば二十九ヶ年間に漸く四七五倍の増加に過ぎずして其一ヶ年に於ける平均増加の割合は百分の八を超ゆるを得ざるが如き頗る遅々たる現象なりとす然れども北米合衆國に於ける紡績上羊毛と混用するに使用さるゝ高地棉の品位に匹敵する棉花の産出するありて一般に「ロー、ペリュビアン」と稱して知らるゝ所なり米國は屢此棉種を移植するに力めたりし事ありしと雖も未だ其成效を聞かず察するに此棉花は秘露に於ける獨占的良種なるが如し又英國の各羊毛工業家は多寡を論せずして毎年秘露棉花を輸入しつゝあり然れども其額稀少にして到底需要を充たす能はざる有様なるにより一般に本棉花代用品として使用され最適當なりと認められつゝあるは「テキサス産棉花なり」とす長さ強さに於ては比較的及ばざる所ありと雖も亦秘露棉の具備せざる他の性能を有し殆んど言辭に盡す能はざる微妙の特徴あるに基けり秘露國中棉花耕作業は糖業に亞げる重要な産業にして各種織物工場、油製造所、石鹼製造所等の發達は棉花栽培業者に多大の刺戟を與へたる結果近來埃及種の

移植盛に行はるゝに至れり然して秘露に於ける打綿業者は耕地栽培業者より當初枝付きの儘にて實棉を受取り之れを脱種壓迫し或は壓迫せずして荷造りし所有主に引渡すものとす「プール」及び「モデルート、ラフ」と稱する棉花は「ピウラ」州に産し歐米各市場に好評を博しつゝあるものにして其價格も亦逐年向上し聲價に伴はれつゝあり從來海外へ輸出する棉花は「ピウラ」の特産種及び内地産種にして移植したる埃及種は多く内地工業家によりて消費せらる其産額は一千八百餘噸にして各種棉花の總産額は約一萬噸なりとす之を五百封度入俵に換算すれば大約四十五萬四千俵に相當す

第八節 墨西哥

墨西哥に於ける生産棉花の百分の八十は「ラタナ」地方に於て收穫す此地方に於ける農業は全部「ナサス」河の灌漑によりて支配され一千九百七年僅かに七萬俵を産出するを得たりし棉花は翌一千九百八年に至り耕地の擴張殆んど二倍に増大せらるに連れ其産額も亦大約二倍強の發達をなせり此國棉花の織緯は相當の長さ強さ及び細さなくと雖も之を米國棉花に比するに一般に清淨ならざるのみならず

且つ少しも絹らしき外觀を有せず其棉樹は強健にして開棉期に際し穀象虫の蠶入すること多きも大抵は其災害に堪え得と云ふ然して墨西哥に於ては梱包に際し品質を統一するに規定あるが如くに計畫せられ従て棉花の撰擇には殊更注意を加へらるる壓搾は大仕掛けにして棉花三千封度乃至四千封度を一時に壓縮して製俵す又繰り上げ場より棉花を集めて行ふが如き中央壓縮工場はなくして各栽培家が繰り上げ及び壓縮等總ての作業を兼ねるものなりとす目下角俵として梱包せらるゝものは通常五百封度乃至五百五十封度と定められ其結繩は五ヶ所締めなり

第九節 土耳其

亞米利加に於ける文明戦争の結果は棉花の供給に多大の影響を及ぼし殊に土耳其に著しき刺戟を與へ就中棉花の栽培を激勵し幾多の經驗を積ましめ種々の變遷を経過し逐年增收の域に進み一千九百八年の收穫は八萬俵に達せり然れども是等の棉花は悉く家庭用の要求に充當せられたり耕地の面積は宏大なるものあれども織緯の價格は延いて生産に利益を與ふること覺束なきが如く棉種も亦米

棉種埃及棉種及固有棉種等ありと雖も何れも錯雜して一地方に一棉種と云ふ風に纏まりたる耕作をなすものなく全く綿さへ採り得れば満足すると云ふ栽培家而已なるか如し

第十節 其他の各國

前記以外の各國にして棉花の重なる産出國は概ね左の如し而して一俵の重量は全部五百封度入に換算せり

ベルシヤ	五〇、〇〇〇俵
ギリシヤ	二〇、〇〇〇俵
伊太利	一〇、〇〇〇俵
印度支那	一五、〇〇〇俵
埃及以外の亞非利加州	二〇、〇〇〇俵
ハイチ	一五、〇〇〇俵
蘭領東印度諸國	一二、四〇〇俵
日本(朝鮮を含ます)	六、〇〇〇俵

此外邦領朝鮮に於ける産出あり近來棉花會社の創設さるゝものありて向後其産額に増大を來すべきは勿論なれども未だ諸計畫中に屬するを以て漫りに臆測を逞ふするは妥當ならざるにより本書は劃然として殆んど動く所なき過去の狀態を詳かにし漸次補足して隔靴の感を償はんとす朝鮮に於ける棉花の主産地は全羅慶尙等南部の地とす從來衣料に供する綿織物は鮮人各自に耕作したる棉花を紡ぎ且つ製織して各自の需要に供する習慣なりしも日本より紡績糸の輸入せらるゝものありてより棉花の紡出漸く廢止の姿となり更に進んで直ちに日本より輸入する白木綿に移り全く紡織を廢したる結果棉花は國內の需要僅少なると同時に日本に輸出するの姿となり漸次好況に向ひたるにより明治三十九年政府の保護指導の下に米國高地棉種の栽培は木浦地方を中心として獎勵さるゝに至り同年は約五十町歩の試作をなしたるに四十年に至りては増加して七十六町歩の耕作を試み四十一年に及びては一層擴張して二百五十町歩に達したり是れ米棉の生産費は之を從來の朝鮮棉に比するに約二倍を要するも其の收穫亦從て在來種に二倍し剩へ品質優良價格上位にあるか故に耕作者の利益大なるに因るもの

にして各地共收穫の上は之を木浦所在棉花會社に賣渡し會社は逐次繰綿に製して輸出に供するなり然して四十一年には其收穫に際し地方に暴徒の出沒するあり爲めに幾分の不況を見るに至りしも四十二年には豊作なりき既に述べたるが如く去る四十一年米國棉花不作の爲め同國投機商の買占行はれ各國共棉價非常に騰貴し加之日本紡績業は内地向及清國向綿糸共大に好況なりしを以て各紡績會社も棉花の買入れに苦心せる折柄朝鮮にては豊作を見し而已ならず棉價の騰貴は例年地木綿の原料に供するものまでも放賣するの誘因となり又た光州榮山浦間道路開通の爲め從來木浦方面に出荷せざりし光州地方の物資迄も出荷するに至らしめ結局四十二年には朝鮮棉花の輸出を旺盛ならしめたるを以て生綿の輸出額は十四萬千三百十六圓となり之れを前年に比するに八倍弱の増大なりとす又繰綿の輸出額は十三萬千七百七十九圓にして約三倍に上り空前の盛況を呈したりしなり

第十一節 採收

棉花採收の事につきては産地の氣候風土の關係上千遍一率ならざる事は既に述

べたる所ありしも尙ほ世界の最大棉産國なる合衆國の採摘狀況を述べ其方法順序及經費等に關する問題を解決せんとす

合衆國に於ける實棉の採收は普通九月一日より年末迄の間に行はる然して棉作地の氣候により開花結實共に其期を異にするを以て實棉の採收も亦地方により時期を異にせり即ちテキサス州の南部地方にありては間々六月中に開蒔し之れが採取を始むることあれども同州中北部地方に至るときは七月末及び八月頃より採取を開始し棉作地帯中北部に位せる諸地方の如きは九月以後に至りて開始さるゝものとす而して其終期は普通十二月末なりと雖屢勞力不足等の事情により翌年二三月頃迄も遅延して漸く全部の終了をなすことあり尤も害虫蔓延せる地方にありては其驅除のため採取を早からしむる所あり此採取法は人力に依るものなるが故に勞力の供給良好なる地方にありては其期間に三四回乃至五六回の採取をなせども効力不充分なる方面にありては始んど全部の開蒔を待ちて一時に採取さるゝことあり但し此場合にありては早開のものは落ちて地上に在るが故に降雨等のため品質を損し外觀を傷ふこと夥しく従て收入減少の虞あり然して合衆國の如き勞銀不廉の國にありては實棉の採取に要する費用は實に巨額

なるものにして此採取の費用は棉花生産費の重要な部分なりとす通常採取に従事するものは黑人にして婦女子に至る迄皆之に従事し賃金は採取高を以て計算し實棉百封度に付五十仙を普通となし偶々一弗に達して支拂ひをなすことあり然して實棉の約三分の二は種子にして殘餘の三分の一が綿絮なるを以て實棉百封度につき五十仙の賃金を支拂ふものとすれば百封度の繰綿を得るには一弗五十仙の採取賃金を支拂はざる可らざる計算なり故に繰綿一封度十仙の價值あるものとすれば其一分五分は採取賃金にして近年の如き高價なる相場を持續する時期にありても殆んど一割位には相當すべし一日の採取量は通常百封度乃至百五十封度にして往々三百封度の採取をなすものあれども是甚稀に見る所なりとす然して一人の農夫にて作付をなし得る區域は採取期に至り一日平均百封度を採取するもの連日四人づゝを使用するを要すと言ふ

從來種々の採取器械發明せられたれども其多くは人力を節約せしめ得ること尠なく且つ器械の代價運轉の費用等を計算するときは寧ろ人力のみを使用するよりも多額の經費を要するの缺點ありて未だ完全の域に達せず従て今尙ほ大部の棉花は人力によりて採取し居れり蓋し器械應用の困難なる點は棉實は常に下部

給 供 要 需 の 花 棉

より成熟して上部に及ぼすものなるを以て棉樹不熟棉實並に棉蕾等を害せずして人力を省き成熟棉花を採取せんとすればなりとす斯くして採取したる實棉は其儘賣却せらるゝものあれども其量稀少なり故に大部は栽培者に於て之を繰綿所に送り以て繰綿となし包装するものとす今各國棉採期の普通なるものを列記すれば概ね左の如し

シ、アイランド	八月下旬より十二月上旬
埃及	九月より十二月
ブラジル	七月より翌年二月
ジョルジャ	八月中旬より十二月初旬
フロリダ	八月初旬より十二月初旬
ミシシッピ	八月初旬より十二月中旬
ルイジアナ	同
アラバマ	同
テキサス	同
アルカンサス	八月中旬より一月中旬

産 生 の 花 棉 編 三 第

タンネツシー	九月初旬より一月中旬
ベングル	十月より一月
オームラ	十一月より一月
ブローチ	一月より四月
ドレラ	二月より四月
クーンプタ	三月より五月
デラウア	同
チエンネベリー	二月より四月
マドラス	三月より六月
ヒンガンゲット	十一月より三月
支那	八月末より十月末
朝鮮	九月より十一月

第十二節 作柄率

合衆國中「テキサス」「オクラホマ」「ルイジアナ」「アルカンサス」「ミシシッピ」諸州は平年

にありては九月中旬棉樹の高さ二呎乃至三呎に達し一株に少くとも二三十個の結實及二三十個の蕾を有するものなり此地方に於て四十個の結實を同期節に見るときは豊作となす如上の作柄を公表せんため米國農務省は各地の農業者及農事技師をして毎月一回各州各郡の農作物作柄率を算定して報告せしめ之を聚集して各州及全國の平均作柄率を算出して公表となす棉花に關しては毎年六月初旬各州の作付反別を公示し而して五月より九月迄毎月二十五日に於ける各地の作柄率を翌月初旬に公表し以て其狀況を詳にするの用に供す是れが算出方法は百分率を用ひ播種をなしたるものゝ全部か良好に成育し満足なる收穫を得る狀況にあるものを百となし播種後各種の故障により發芽減少又は發芽不良なる場合に當り其割合に應じ作柄率を減じ尙は追々成育及收穫の際種々の障害に遭遇する都度其率を減少するものなれば多くの場合に於て漸次收穫時に近くに從ひ作柄率の減少を來すを常とす尤も發芽當時天候不良なるため成育不良なりとも其後の成育之に反し良好なる場合には作柄率を増し又非常なる豊作にありて播種をなしたるもの全部良好の成育をなし十二分の收穫を得たる場合には其割合に應じ作柄率は百以上に上れる事ありと假定せざる可らざるが如きも是一局部

一地區に止まれる豊作にして一州或は全國内が之れと同様なる場合を豫想し難く從て前記の如く作柄率は常に收穫期に近接するに從ひ減少するを例とせり左表は全國棉花作柄平均率を示したるものにして特に四十二年九月に於ける不況は棉界恐慌の原因たりしなり

第十九表 毎月二十五日棉花作柄平均率五ヶ年比較表

月 別	四十二年	四十一年	四十年	三十九年	三十八年	十ヶ年平均
五 月	八、一 ^割	七、九 ^割 七	七、〇 ^割 五	八、四 ^割 六	七、七 ^割 二	八、一 ^割 四
六 月	七、四 ^割 六	八、一 ^割 二	七、二 ^割 〇	八、三 ^割 三	七、七 ^割 〇	八、〇 ^割 八
七 月	七、一 ^割 九	八、三 ^割 〇	七、五 ^割 〇	八、二 ^割 九	七、四 ^割 九	八、〇 ^割 六
八 月	六、三 ^割 七	七、六 ^割 一	七、二 ^割 七	七、七 ^割 三	七、二 ^割 一	七、三 ^割 六
九 月	五、八 ^割 五	六、九 ^割 七	六、七 ^割 七	七、一 ^割 六	七、一 ^割 二	六、七 ^割 〇

埃及及び印度等に於ける作柄率の算出法も亦前同様にして唯其時期を異にする而已

第十三節 梱俵及荷印附締直し

物貨の梱包は輸送及取扱ひ上可及的容易なる體裁を希望するものなると共に内容品に外敵より受くる損傷を豫防するにあり棉花の荷造に在ては繩或は金屬線帶を施すものありと雖も是等は屢弛緩し且つ脱落するの恐あり尙ほ此種類を以て結束するときは結び目の節ク、レ、ダ、チ、甚しく爲めに互に損傷を蒙ること多し故に他俵と交互の軋轆により惹起する前記缺點を可及的補はんがため多くは鐵帶を施すこととなれり然れども未だ全般に行はれず殊に南米棉にありては鐵線を以て約せるを見る(附圖參照)鐵帶を施すものによりては其結び目に「フック」を用ゆると挿入式との二あり荷印は頗る重要な事にして然も其番號の最も世界的に調査の便を得んがため非常の注意を拂ひて墨書せらるるものとす此荷印によりて棉花の産地及一括されたる品質又は物品なることを知り得るを以て取引上の便宜殊に大なりとす然して耕主が繰上場にて附したる荷印と荷主又は顧客の希望により附する荷印と混同を免れんがため更に荷印を捺刷するか或は荷印を捺刷したる布片を貼附することあり是等各種の荷印及番號は凡て計算の基礎となるものにして取引上重要な事項なりとす

各國産棉俵装の大きさは産地個々に一定され居るものとす是鐵道に於ける荷車又

は運送船の荷役上最必要の事柄たるのみならず産地の何れなるかを一目瞭然たらしめ外觀一樣に美なるは以て顧客の快感を誘發するの利益あり米棉にありては既に述べたるが如く産地各所の繰上工場にて繰上げられ従て各地に於て荷造りせらる然して其最大部分は角俵式荷造りをなせり其繰綿所に於ける荷造の標準は長さ五十四吋幅二十七吋高さ三十六吋にして外装の粗布及六條の鐵帶を加へ總重量五百封度にして其密度は一立方呎に付十六封度半を有するを普通とす此外二百五十封度入丸俵あり其直徑二十吋にして長さ三十六吋なり此俵装のものには内地の需要に供せられ輸出品としては殆んど稀なり以上五百封度俵は標準となされつゝあれども繰綿所に於ては目分量にて程度を見計らひ荷造をなすものなるが故に各一俵の實量は相同じからず又地方によりて五百封度以上のものあり或は以下のものありて四十一年作にありては「テキサス」州の角俵は平均五百二十六封度三、「アルカンサス」州は五百十八封度半、「ジョルジャ」州は四百九十封度三、「アラバマ」州は五百封度、「オクラホマ」州は五百一十封度七、「カロリナ」州は四百七十封度二、「南カロリナ」州は四百八十三封度を有せり然して外國輸出向棉花は運搬或は揚卸しに際し當初の荷造りの儘にては容積多大にして運搬不便なるのみならず

荷物の損傷多く且つ運賃多額に上るの憂あるを以て之れが荷造り縮直しのために各重要棉花集散地及輸出港には壓縮所の設備あり其壓搾器械は鐵製上下二個の壓搾板よりなり上部は固定し下部の鐵板は平方吋に付約四百封度の水壓力により上方に壓迫する装置を有するものなり此水壓器により前記高さ三十六吋を有せる棉俵は大約二分の一に壓搾せらる然して六條の舊鐵帶は取去られ新に八條の鐵帶を施し之にて縮直しを了し次俵の縮直しに移るものなりとす此縮直し俵數は一分間僅かに四五俵に過ぎず其密度は三十封度を有す而して此壓搾所は棉花商共同にて設立せるものと棉花倉庫を兼ねて會社組織となせるものとあり其縮直し賃は一俵に付十仙を課するなり

斯の如く米國にありては縮直所を設立して縮直しをなせるにも拘はらず埃及棉或は印度棉に比し其縮方及包裝粗雜なるが故に輸送中は勿論輸送の前後に於ても亂俵となり棉花の露出減量を免かれず或は棉花を汚損すること多きを以て從來屢々荷造改良説唱導せられたりしも是綿線所に要求すべき事柄にあらずして寧ろ縮直し所に於て縮直しに際し麻布の包裝粗雜に基くものなるを以て此處にて注意を拂ふことを怠らざりせば必らず改善をなし得べきものなりと云ふ然し

て近來一部の線綿所に於ては直ちに輸出向荷造りをなすに至り其長さ五十四吋高幅共に二十吋にして密度は四十封度を有するものなれども未だ一般に行はるるに至らず但し特に重大なる器械の備付けをなすを要し線綿所の小なるものもありては爲し得べからざるを以てなり

シーアイランド棉は其俵裝地方によりて異り「サウス、カロ」ナにありては直径二呎二分の一長さ七呎二分の一の囊に充填せられ其の容量は三百五十封度なりとす充填の方法は「ハンド、スクリュ、プレス」に依るか或は單に手にて囊中に押込むなり故に體裁一様ならず「ジョルジャ」フロリダ産は角俵に作られ其重量は平均三百九十封度袋の重量十封度合計一俵四百封度を標準とせり然れども四十一年にありては「ジョルジャ」産は平均四百六封度七「フロリダ」産は三百八十二封度七「南、カロ」リナ産は三百五十一封度八にして頗る不同なりし製俵法は蒸氣壓搾器によりて壓搾し高地棉に使用する鐵帶の代りに粗布の上より強靱なる繩を以て慥かに縫着して固めらる尙以上兩種の俵裝共各整頓して一様ならざるが故に偶、異様の觀あれども棉花仲買人は俵裝の如何は更に顧みることなく直ちに内容棉花の織緯を検するの風習にして従て包裝に改善を加ふるの時機に達せざるものなるべし

埃及棉は「アレキサンドリア」蒸氣壓搾場に於て荷造せられ其重量は一俵七百五十封度と定めらる包装の長さは五十一吋幅二十二吋厚さ三十一吋二分の一にして密度は一立方呎に三十六封度二分の一とす俵裝整然梱包材料亦米棉に比し遙かに優等なり然して鐵帶は十一ヶ所に施さる

印度棉花の荷造りに付きては最も注意すべき事項あり元來印度人は商業道德を缺き動もすれば商品殊に棉花等の荷造り中に疎悪品又は前年産古品を混入するの癖あるにつき外國人は一般彼等印度人の壓搾場に於て荷造りしたるものを其儘買ひ入れて輸出するは甚危険なりとの感を懷き棉花出廻季節に當り各地に出張所を設け此處に壓搾所を設くるか或は既設の工場を借受け此工場にて荷造したる上各自の荷印を附し輸出港に送附するの常習あり其容積長さ四十八吋厚さ二十二吋幅十七吋にして密度は三十八封度二分の一重量四百封度を有す鐵帶の兩端は「フック」にて止むることなく長尺のものを其儘巻き付けて緊約し其兩端は挿挟むを例とせり然して埃及棉一俵は七百五十封度にして約二十五立方呎の場所を要し印度棉は四百封度にして約十立方呎の場所を要するに反し米國棉花は五百封度にして縮直し前にありては三十立方呎の場所を塞き縮直後にありても

は十七乃至二十立方呎の場所を要するを以て輸送取扱上は勿論貯藏上にありても其不便尠少なからず

清國棉花の荷造りに就きては一般清商より買入るときと三井物産内外棉日本棉花等の商館より買入るときとは大に注意を要する利害問題の伴ふものありて邦人の組織する商館よりするときは更に懸念なきも之を清商に仰ぐときは即ち左の如き結果を見ること多かるべしと信ず

元來清國棉花は當初中俵にて日本へ輸入しつゝありしも中途より漸次中俵は減じて堅俵となし輸入するに至れり此中俵は一俵百二十七斤を容るゝものにして其袋代五匁を要し棉花百斤に對する堅縮の荷造賃は四匁五分を要するなり今上海より日本迄の運賃は中俵は一俵につき五十錢なるも堅俵は其半額即二十五錢なるを以て運賃の上に於ては既に堅俵に二十五錢の利益あり尙袋代荷造賃等を控除するも堅俵に於て十錢近くの利益あるなり且つ堅俵の方は容積約四分の一の割合にして運搬自由亂俵稀にして散亂の憂なく倉敷料等に於ても中俵に比し利益あるが故に漸次中俵は其輸入を廢され堅俵の輸入を増加するに至れり然れども之れ机上の空論に過ぎずして實際に於ては中俵を輸入する方頗る利益なり

とす即中俵のまゝ輸入するときは粗悪なる棉花を混入すること難く假令品質不良の棉花を混入することあるも自由に手を挿入して其内容品を検するときは棉花商は其棉種品等を鑑別するを得る事容易なれども之を堅締となしたる後にては容易に手を挿入して棉花の品質を判定すること能はず故に此點を利用して粗悪棉を混入する清商は常に通州棉花中に三割乃至三割五分の南市棉花を混入して通州棉と稱し賣却しつゝありと言ふを聞き吾人をして一般清商よりは堅締棉花を買ふべからずと呼びしむるに至れり然れども之を日本人經營の商館に求むるは危険更になく利益は中俵に比し大なるものとす如上堅締一俵の重量は四百斤にして締繩には鐵帶を用ひ緊め法は印度同様とす
南米棉は粗布の上より鐵線にて約するは既述の如く墨西哥綿の結繩は五ヶ所なり其他南亞弗利加に於ては「フツク」止めとなす等漸々梱包の體裁を改善し進歩の域に到達しつゝあり

第二章 棉花の取引

第一節 取引上の産地分類

各國生産棉花が取引市場に顯はるゝものを單に其銘柄のみを以て産地と共に分類すれば左の如し



「シリアン」棉
西印度棉

「マイセオブラジリアン」

米國

オルレアンス米棉
テキサス米棉
アツプランド米棉
モビル米棉

此四種を細別すれば八種となり更に更に小別すれば五百餘種となる然れども是農學上の分類にして爰に必要なきを以て除く

亞非利加棉

棉 通州漢口雲夢安南等

朝鮮棉

「ヒンガンゲット」
「アローチ」
「チエンネベリー」
「ダルワール」
「オームラス」

印度棉「ドレラ」

「マドラス」

「クーンプタ」

「ベンガル」

「シンド」

其他

以上は取引上の標準となるものにあらざるを以て其優劣高下を明かにし取引を單純ならしむるため各市場に於ては格付表を調製し以て其品等を確定しあり

第二節 線綿の品等

棉花取引市場に於ける線綿の品等は毎年一定不變なるべきも作柄の出来不出来により各銘柄間に於ける價格の差異は偶一様ならざるものあり本邦に於ける大阪三品取引所の格付は棉花産地にあらざるを以て目下空文の姿に屬し従て賣買も亦た日々不出來なれども掲げて参考となせば左の如きものとす
明治四十年一月限より現行に亘る棉花の格付

本表に掲ぐる格付けは毎百斤に對し其價格を示せり
受渡品の種類及格付けの範圍は左の如くにして此以外の種類並に範圍外のもの
は受渡しに用ゆるを得ず

米國産棉花

格上げ二圓格下げ一圓を限度とし受渡供用品は左の四種とし俵装は角俵に限る
ものとす

「フリーリー、グード」

「グード、ミドリング」

「フリーリー、ミドリング」

「ミドリング」

印度産棉花

印度産棉花は第一類第二類とし第一類は格上げ一圓格下げ五十錢を限度とし第
二類は格上げ五十錢格下げ一圓四十錢を限度とし受渡し供用品は別項記載の第
一類は三種とし第二類に於ては九種とす各「フワイン」格より五十錢以下のものは
供用するを得ず「チエンネベリー」は「フリーリー、グード」格とす

清國棉花

格上げ一圓五十錢格下げ一圓を限度とし受渡供用品は左の三種とし俵装は鐵卷
に限るものとす

通州、南市、北市

格付表左の如し

米國産棉花

フリーリー、グード

グード、ミドリング

フリーリー、ミドリング

ミドリング

印度産棉花

第一類

シユラツト

ブローチ

チエンネベリー

格上げ二圓

格上げ一圓二十錢

標準品

格下げ一圓

格上げ一圓

標準品

格下げ五十錢

第二類

ヒンガンゲット	格上げ五十銭
ワーター	格上げ三十銭
ナグポール	格上げ二十五銭
ヨートマル	標準品
プルガム	格下げ二十銭
ダマル	格下げ三十銭
アコラ	格下げ一圓四十銭
カンガム	格下げ一圓四十銭
カラシヤ	格下げ一圓四十銭
清國産棉花	格上げ一圓五十銭
通州	標準品
北市	格下げ一圓
南市	格下げ一圓

以上の格付は決定當時の鑑定人又は囑托鑑定人たりし左記六社の同意を経たる

ものなり

- 大阪合同紡績株式会社
- 日本棉花株式会社
- 福島紡績株式会社
- 大阪紡績株式会社
- 三井物産合名会社大阪支店
- 内外棉花株式会社

米國に於ける綿花取引市場に使用さるゝ繰綿の品等につき述ぶるに當り之を上物より順次下等品に及ぼし列記すれば左の如し

- フエヤー
- ベアリー、フエヤー
- ストリクト、ミドリリング、フエヤー
- フリー、ミドリリング、フエヤー
- ミドリリング、フエヤー
- ベアリー、ミドリリング、フエヤー

ストリクト、グード、ミドリリング
 フーリー、グード、ミドリリング
 グード、ミドリリング
 ベアリー、グード、ミドリリング
 ストリクト、ミドリリング
 フーリー、ミドリリング
 ミドリリング(普通品等にして標準品なり)
 ベアリー、ミドリリング
 ストリクト、ロー、ミドリリング
 フーリー、ロー、ミドリリング
 ロー、ミドリリング
 ベアリー、ロー、ミドリリング
 ストリクト、グード、オルジーナリー
 フーリー、グード、オルジーナリー
 グード、オルジーナリー

右の内「ミドリリング」は普通品にして棉花取引市場の標準品なるが故に之を中心として其上下に全等、半等、四分の一等に區別せる各名稱あり前記品等表は最上品を以て始まり各行高を記したるは全等級品名にして「ストリクト」を冠したるものは半等級品名「ベアリー」或は「フーリー」を冠したるものは四分の一等級品名なるが此四分の一等級は稀に使用さるゝものなり而して取引所に於ける定期の取引相場も現物取引と同じく「ミドリリング」を以て標準とするものなれば受渡しの時期に到り現物につきて標準品に應じたる價格を増減せざる可らず蓋し品等の鑑定を誤るときは損失を蒙るべきを以て常に鑑識に長じたるものを使用せり
 一千九百八年九月九日及十一月十五日に於ける紐育棉花取引所の格付表左の如し

ベアリー、グード、オルジーナリー
 ストリクト、オルジーナリー
 オリジーナリー
 ロー、オルジーナリー
 インフェリオル

第二十表

種 類	前九月九日格	九月九日迄十一月十五日迄の格	増 減	十一月十五日後の格	増 減
フ エ ヤ ー	一、七五	一、七五	セ	一、五〇	〇、二五
ストリクト、ミドリリング、フエヤー	一、五〇	一、五〇	同	一、三〇	〇、二〇
ミドリリング、フエヤー	一、二五	一、二五	同	一、一〇	〇、一五
ストリクト、グード、ミドリリング	〇、七五	〇、七五	同	〇、六六	〇、〇九
グード、ミドリリング	〇、五〇	〇、五〇	同	〇、四四	〇、〇六
ストリクト、ミドリリング	〇、二五	〇、二五	同	〇、二二	〇、〇三
ミ ド リ ン グ	標準品	標準品	標準品	標準品	
ストリクト、ロー、ミドリリング	〇、三〇	〇、三〇	増	〇、三〇	
ロー、ミドリリング	一、〇〇	一、〇〇	増	一、〇〇	
ストリクト、グード、オールシナリー	一、五〇	一、六二	増	一、五〇	〇、一二
グード、オールシナリー	二、〇〇	二、五〇	増	二、五〇	
ストリクト、グード、ミドリリング、チンシト	〇、三五	〇、三五	標準品	〇、三五	
グード、ミドリリング、チンシト	標準品	標準品	標準品	標準品	

一五〇

以上の格付等差率は毎年九月及十一月に調査せる作柄状況により改正せらるゝは表示の如し

ストリクト、ミドリリング、チンシト	〇、二〇	〇、二〇		〇、二〇	
ミドリリング、チンシト	〇、三〇	〇、三〇		〇、三〇	
ストリクト、ロー、ミドリリング、チンシト	一、〇〇	一、〇〇		一、〇〇	
ロー、ミドリリング、チンシト	一、五〇	二、二五	減	二、二五	
ミドリリング、ステーションド	一、二五	一、〇〇	減	一、〇〇	

「ニユー、オルレアンス」其他南部市場にありては日々現物の相場を公示しつゝあり然して「ミドリリング」即標準品に比し「ストリクト、ミドリリング」は一仙の八分の一高く「グード、ミドリリング」は一仙の四分の一「ストリクト、グード、ミドリリング」は一仙の八分の二「ミドリリング、フエヤー」は一仙の二分の一乃至八分の五高きを常とせり「リバプール」棉花取引所に於ては紐育棉花取引所に比し二分の一格丈け下位にあり

「フエヤー」

印度棉の品等を米棉的に附したるもの左の如し

「フエヤー、グード」
 「フリーリー、グード、フエヤー」
 「グード」
 「グード、フエヤー」
 「スーベル、フワイン」
 埃及棉に就ては其品等左の如し
 「フエヤー」
 「フリーリー、グード、フエヤー」
 「グード」
 「グード、フエヤー」

以上述べたる品等は賣買双方の見識一致したる場合に於ては正確なれども買手は常に可成良質の棉花を受取らんことを欲し之に反して賣手は比較的劣等の棉花を渡さんとするの商略上より打算するときは常に失當の難解事たるに過ぎず「シー、アイランド」棉の織緯を検定したる結果之に附したる品等の差格及び呼稱左の如し

一時四分の三より二時に達するもの、
 一時八分の五より一時四分の三に達するもの、
 一時八分の五の織緯なるも外觀「フロリダ」に及ばざるもの、
 とす此等の各種は更に「ファンシー」「エキストラ」「チヨイズ」「エキストラ、フワイン」「フワイン」「ダツグス」に分たる一般織緯の長さは種子の撰擇によりて大體決定され種子の銘柄によりて産出すべき織緯の大様を豫測さるゝなり尙ほ氣候及肥料の如何によりて是に格段の差格を附するものにして一階級中一封度に付五仙乃至十仙位づゝ差格を有する棉花の混交さるゝは往々見る所にして是は此地方農民の注意を惹起せしむるの必要事項なりと雖も悉く此細密の撰棉を施すは目下の状態にては到底出来得可らざる事情あると共に此地方に於ける良質棉花の取引上甚遺憾なる事柄なりとす棉花の品等は上記の如く品種に依るものなれども天候其他作柄の状況により變動を生ず然して米國農務省統計局調査によれば過去七ヶ年間毎年の出来榮への各等級を平均したる品位は左の如き銘柄に該當すと云ふ

三十五年 ストリクト、ロー、ミドリリング
 三十六年 ストリクト、ミドリリング

三十七年 ストリクト、ミドリリング
 三十八年 フーリー、ミドリリング
 三十九年 ストリクト、ロー、ミドリリング
 四十年 ミドリリング
 四十一年 ストリクト、ミドリリング

繰綿の品等により紡績に際し屑落綿を生ずる割合に付て獨逸紡績業者の取調たる所によれば「ミドリリング、フェア」は八分「グード、ミドリリング」は一割「ミドリリング」は一割二分「フーリー、ロー、ミドリリング」は一割四分「ロー、ミドリリング」は一割六分「グード、オルデナリー」は二割四分の屑落綿を生ずと云ふ。

第三節 棉花相場

棉花の相場は米國の爲に最も世界的に支配せらるる近年各國共工業の發達著しく従て棉花需要の増加と共に産地に於ける生産力は充分なる供給を爲す事能はざるを以て其價格は常に上昇する傾あるのみならず天候の良否により生産品の實質に及ぼす被害は遂に不作と呼ぶるに至り價格の變動に及ぼす影響としては

比較的大なる原因とす其他蟲病害及避くべからざる天災地變は急劇に棉價に變動を與へつゝあり以上の事實は常に綜合せられて各國に於ける棉花取引所の投機材料に供せられつゝあるを以て依然として同一の相場を維持することは十日も難く殊に近時の印度棉にありては米埃兩國棉花の不作に連れ漸次騰貴して殆んど五七年前の米棉の價格に彷彿たるものあり就中日本向印度棉の清國棉花の豊凶によりて支配さるゝ事夥し然れども棉花の實質上より附せられたる價格の等差は殆んど動かす可らざる世界的標準なりとす

米國に於ける棉花相場は標準品即ち「ミドリリング」格の繰綿一封度に對する價格によるものにして各取引所に於ける相場高下の場合に用ひらるゝ「ポイント」とは百封度に對する一仙を意味し五十或は七十「ポイント」の騰貴又は下落とは即百封度に付五十仙或は七十仙の騰貴或は下落を意味す四十一年即一千九百八年の作柄は豊作なりしに反し翌四十二年即一千九百九年は少なからざる不良を呈し約三百萬俵の減收を示したりと傳へられ従て棉花相場は次第に上進するに至り一千九百八年末頃にありて「ニュー、オルレアンス」の現物相場八仙四分の三内外なりし者一千九百九年に至り九仙臺に上り四月には十仙臺に進み五月末より六月に

入りては十一仙臺に騰貴し剩へ農務省の統計は一千九百九年作付反別の減少を報じ六月末の作柄率は稍々不良を示すに至りしが七月初めには遂に十二仙臺に上進し七、八兩月に亘りては「テキサス」「オクラハマ」及「ミシシッピ」河以西の諸州は何れも早魃のため益不作の報を傳へたるにより是より彌々昂進の傾向を呈し九月に入りては愈收穫の不良なるを認定するに至れり然して一方に於ては買占のため紐育相場の向上に促され同月末には俄然十二仙臺に進み又十月初旬發表せられたる作柄率の不良と繰上げ減少のために同月下旬には十四仙臺に奔騰し十二月初旬に公表したる收穫豫想高は一般の豫想よりも減少の程度多かりしを以て遂に繰上數の減少したる事實と共に十五仙臺に入り同月末には十五仙四分の三を稱ふるに至れり

紐育相場も亦「ニュー、オルレアンス」相場と大同小異なりとす即千九百九年初にありては九仙三四厘の相場を示せしもの六月末には十一仙七厘に進み更に年末には十六仙一厘迄に騰貴したり蓋し相場の騰貴は不作の公表之か主因をなせしが如きも其機會を利用せる投機者の先物買占めは最も重大なる影響を及ぼしたるものにして比較的不作なりしとするも收穫に於ては三十六年或は三十八年と大

差なかりしなり

聞く所によれば千九百九年買占めをなせる投機者の主なるもの四名あり即小麦王と稱せられし市俄古の「ゼームス、エー、バツテン」及び「テキサス州の「イージー、スカレス」は紐育相場の先物買占をなし「ダブリュー、ビー、ブラウン」及「フランク、ビー、ハイネ」は「ニュー、オルレアンス」にありて買占をなし是等數名の買占によりて獲得したる利益は實に一千三百万弗に達すと傳へられたるを以て見れば前記の相場は單に不作に因るにあらずして買占により人為的に實價以上に押し上げられたるものと云ふべきなり今「ニュー、オルレアンス」及紐育に於ける毎週現物相場の二ヶ年比較を示せば左の如し

第二十一表 「ニュー、オルレアンス」及紐育に於ける現物二ヶ年比較表

一九〇九年		一九〇八年	
月 日	レニュー、オルレアンス	月 日	レニュー、オルレアンス
一月八日	八、 ^仙 _{五/六}	一月十日	一一、 ^仙 _{九/六}
十五日	九、 ^仙 _{三/八}	十七日	一一、 ^仙 _{一/〇}
二十二日	九、 ^仙 _{五/八}	廿四日	一一、 ^仙 _{一/八}
	紐 育		紐 育
	九、四〇		一一、四五
	九、六五		一一、二五
	一〇、〇〇		一一、七五

第三編 棉花の生産

八月			七月			六月								
二十日	十三日	六日	三十日	廿三日	十六日	九日	二日	廿五日	十八日	十一日	四日	廿八日	廿一日	十四日
一一、 三、六	一一、 五、六	一一、 一、四	一一、 三、六	一一、 七、八	一一、 三、六	一一、 三、六	一一、 〇	一一、 五、六	一一、 五、六	一一、 七、八	一一、 七、八	一一、 〇	一一、 七、八	一一、 五、六
一一、 六、五	一一、 八、〇	一一、 七、〇	一一、 二、八、五	一一、 二、三、五	一一、 二、五、〇	一一、 二、七、〇	一一、 二、六、〇	一一、 一、七、〇	一一、 一、四、〇	一一、 一、二、〇	一一、 一、五、〇	一一、 一、四、〇	一一、 一、七、五	一一、 一、三、五
八月			七月			六月								
廿一日	十四日	七日	卅一日	廿四日	十七日	十日	三日	廿六日	十九日	十二日	五日	廿九日	廿二日	十五日
一一、 九、三、四	一一、 〇、〇	一一、 三、八	一一、 三、八	一一、 一、三	一一、 七、八	一一、 〇	一一、 〇	一一、 七、八	一一、 七、八	一一、 一、三	一一、 一、三	一一、 一、三	一一、 三、六	一一、 〇
一一、 〇、〇	一一、 〇、六、〇	一一、 〇、八、五	一一、 〇、七、〇	一一、 〇、八、〇	一一、 一、〇、〇	一一、 一、二、〇	一一、 一、四、〇	一一、 一、六、〇	一一、 一、二、〇	一一、 一、四、〇	一一、 一、四、〇	一一、 一、四、〇	一一、 一、一、〇	一一、 一、〇、〇

一五九

棉花の需要供給

五月			四月			三月			二月	
七日	三十日	廿三日	十六日	九日	二日	廿六日	十九日	十二日	五日	二十九日
一一、 三、六	一一、 一、四	一一、 三、六	一一、 三、六	一一、 三、六	一一、 三、六	一一、 三、六	一一、 三、六	一一、 三、六	一一、 三、六	一一、 三、六
一一、 〇、九、〇	一一、 〇、九、〇	一一、 〇、四、五	一一、 〇、六、〇	一一、 〇、二、五	一一、 九、九、五	一一、 九、七、〇	一一、 九、七、〇	一一、 九、八、五	一一、 九、八、五	一一、 九、八、五
五月			四月			三月			二月	
八日	一日	廿四日	十七日	十日	三日	廿七日	二十日	十三日	六日	卅一日
一一、 三、八	一一、 九、三、五	一一、 一、六	一一、 一、六	一一、 一、六	一一、 一、六	一一、 一、六	一一、 一、六	一一、 一、六	一一、 一、六	一一、 一、六
一一、 〇、五、五	一一、 〇、二、〇	一一、 〇、一、〇	一一、 九、九、〇	一一、 〇、二、五	一一、 〇、五、〇	一一、 〇、四、〇	一一、 〇、六、五	一一、 一、二、〇	一一、 一、四、五	一一、 一、三、五

一五八

而して現物相場の最高點に達せしは紐育にありては四十二年十二月三十日ニユ
 ー、オルレアンスに於ては翌三十一日より一週間に於て紐育相場は十六仙一五ニ
 ユー、オルレアンス相場は十五仙四分の三に達したるも夫れより日々徐々に下落
 し一月中旬紐育にありては十四仙臺に下りしも二月八九日頃には再び十五仙臺
 に上るに至れり然れどもニユー、オルレアンスに於ては紐育の如く劇しき變動を
 見ざりき即一千九百九年十二月以後紐育及ニユー、オルレアンス取引所に於ける
 現物日々異動の状態を列記すれば左の如し

第二十二表 紐育、ニユー、オルレアンス現物相場變動表

日	ニユー、オルレアンス	紐育	育
一九〇九年十一月十九日	一四、二	一四、七	一四、七〇
一九一〇年十一月十九日	一四、一	一四、七	一四、七〇
一九一〇年十二月二日	一四、一	一四、七	一四、七〇
一九一〇年十二月十一日	一四、一	一四、七	一四、七〇
一九一〇年十二月十八日	一四、一	一四、七	一四、七〇
一九一〇年十二月廿三日	一四、一	一四、七	一四、七〇
一九一〇年十二月三十一日	一四、一	一四、七	一四、七〇

十月十日	一五、〇	一五、二〇	十一月十一日	八、 $\frac{3}{4}$	九、一〇
十月十七日	一五、 $\frac{1}{2}$	一五、一〇	十一月十八日	八、 $\frac{3}{4}$	九、一〇
十月廿四日	一五、 $\frac{1}{4}$	一六、一〇	十一月廿四日	八、 $\frac{3}{4}$	九、三〇
十一月一日	一五、 $\frac{3}{4}$	一六、一〇	十一月三十日	八、 $\frac{3}{4}$	九、三五

月	日	相場	月	日	相場
八月	廿七日	一二、 $\frac{3}{4}$	八月	廿八日	九、 $\frac{1}{4}$
九月	三日	一二、 $\frac{3}{4}$	九月	四日	九、 $\frac{3}{4}$
九月	十日	一二、 $\frac{3}{4}$	九月	十一日	九、 $\frac{3}{4}$
九月	十七日	一二、 $\frac{3}{4}$	九月	十八日	九、 $\frac{3}{4}$
九月	廿四日	一二、 $\frac{3}{4}$	九月	廿五日	九、 $\frac{3}{4}$
十月	一日	一三、 $\frac{3}{4}$	十月	二日	八、 $\frac{3}{4}$
十月	八日	一三、 $\frac{3}{4}$	十月	九日	八、 $\frac{3}{4}$
十月	十五日	一三、 $\frac{3}{4}$	十月	十六日	八、 $\frac{3}{4}$
十月	廿二日	一三、 $\frac{3}{4}$	十月	廿三日	八、 $\frac{3}{4}$
十月	廿九日	一四、 $\frac{3}{4}$	十月	三十日	八、 $\frac{3}{4}$
十一月	五日	一四、 $\frac{3}{4}$	十一月	六日	八、 $\frac{3}{4}$
十一月	十二日	一四、 $\frac{3}{4}$	十一月	十三日	八、 $\frac{3}{4}$
十一月	十九日	一四、 $\frac{3}{4}$	十一月	廿日	八、 $\frac{3}{4}$
十一月	廿六日	一四、 $\frac{3}{4}$	十一月	廿七日	八、 $\frac{3}{4}$
十二月	三日	一四、 $\frac{3}{4}$	十二月	四日	八、 $\frac{3}{4}$

第三編 棉花の生産

三二	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七
一五、 三/四	一五、 二/六	一五、 一/三	一五、 一/三					一五、 五/六	一五、 五/六	一五、 三/六	一五、 一/六		一五、 一/六	一五、 一/六
一四、 七/八		一四、 七/八	一四、 七/八	一五、 〇	一五、 〇	一五、 〇	一五、 〇	一五、 〇	一五、 〇	一五、 〇	一五、 〇	一五、 〇	一五、 〇	一五、 〇
			一四、 三/四		一四、 五/八	一四、 五/八	一四、 五/八	一四、 五/八				一四、 五/八	一四、 五/六	一四、 五/六
一六、 一〇	一六、 一五	一五、 九五	一五、 八五					一五、 七五	一五、 七五	一五、 四〇	一五、 二〇		一五、 一〇	一五、 一〇
一六、 四〇		一四、 五五	一四、 七五	一四、 七〇	一四、 五〇	一四、 三五	一四、 三五	一四、 七〇	一四、 四五	一四、 一五	一四、 四〇	一三、 八五	一四、 二〇	一四、 二〇
			一四、 九五		一四、 六五	一四、 四五	一四、 四〇	一四、 一〇				一四、 五〇	一四、 八〇	一四、 八〇

棉花の需要供給

一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二
一五、 一/六	一五、 〇	一五、 〇	一五、 〇		一五、 〇	一五、 〇	一四、 二/六	一四、 五/八	一四、 五/八	一四、 七/八		一四、 七/八	一四、 三/八	一四、 一/四
	一五、 〇	一五、 〇	一五、 一/四	一五、 一/四	一五、 一/三	一五、 一/三			一五、 三/四	一五、 三/四	一五、 三/四	一五、 三/四	一五、 三/四	一五、 三/四
一四、 五/六	一五、 一/六	一五、 一/六			一五、 一/六	一五、 一/六	一五、 〇		一四、 七/六		一四、 七/八	一四、 七/八	一四、 七/八	一四、 七/八
一五、 一五	一五、 一〇	一五、 二〇			一五、 二〇	一五、 二〇	一四、 九五	一四、 九五	一四、 八五	一四、 八五		一四、 八五	一四、 七五	一四、 七〇
	一四、 五五	一四、 四五	一四、 九五	一五、 〇〇	一五、 三〇	一五、 四五		一五、 八五	一五、 六〇	一五、 三〇	一五、 八〇	一五、 九〇	一六、 一〇	
一四、 八〇	一五、 〇〇	一五、 一五			一五、 一五	一五、 二〇	一五、 二〇	一五、 〇〇	一五、 二〇	一五、 二〇		一四、 九〇	一四、 七五	一四、 八〇

年 月	四月		五月		六月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一九〇八年 九月			八、九五	八、四五	八、五八	八、五八
一九〇八年 十月			八、八四	八、二六	八、五三	八、五二
右 一ヶ 年間	九、〇三	八、三七	八、九八	八、五四	八、九七	八、四六
一九〇九年 十二月	九、七六	八、八八	九、五八	九、四〇	九、七六	八、八六
一九〇九年 一月	九、三六	九、一〇	九、六三	九、二四	九、七二	九、三二
一九〇九年 二月	九、三三	八、九九			九、六三	九、二七
一九〇九年 三月	一〇、二七	九、一六			一〇、二五	九、二二
一九〇九年 四月	一〇、九六	一〇、〇八	一〇、一九	一〇、一九	一〇、九七	一〇、〇七
一九〇九年 五月	一一、二五	一〇、六二	一一、三三	一一、三三	一一、六四	一〇、六三
一九〇九年 六月	一二、八四	一一、五八	一二、三三	一二、二〇	一二、八六	一一、五五
一九〇九年 七月	一二、七〇	一一、七九			一二、七三	一一、八〇
一九〇九年 八月	一二、八四	八、三五	一二、三二	八、三三	一二、八六	八、二四

如上の相場によりて観察するに一千九百八年末に於て五百封度入線綿一俵の價格は四十五弗内外にて賣買せられたりしものが一千九百九年末には八十弗内外にあらざれば購入し能はざる有様となり殆んど二倍の相場に騰貴したりき而して定期相場も亦現物相場に連れ大差なきが如しと雖も前記騰貴の期節には先物の相場は受渡期の現物相場とは少なからざる差異を生じ従て數ヶ月以前に買入れをなしたるものは其鞘を利用する事莫大なりしなり今紐育市場に於て取引せられたる一千九百八年九月以降一千九百九年八月に亘れる定期取引相場の最高及び最低を示せば左の如し

第二十三表の 自一九〇八年九月紐育棉花取引所定期取引最高及最低表

年 月	一月		二月		三月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一九〇八年 九月	八、八七	八、二五	八、八〇	八、三三	八、八九	八、三三
一九〇八年 十月	八、九二	八、二五	八、六九	八、三五	八、八六	八、二四
一九〇八年 十一月	九、二五	八、七六	九、〇三	八、八五	九、一七	八、七二

第三編 棉花の生産

年	月	右											
		一九〇八年	一九〇九年	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
一九〇八年	九月	九、一五	九、一五	九、〇九	八、九七	九、六七	九、六〇	九、五五	一〇、五五	二、二六	二、五四	二、六四	二、六四
	十月	八、二八	八、三六	八、六二	八、五五	八、八五	九、一七	九、二二	九、三五	一〇、三三	一〇、六三	一一、五三	八、三〇
一九〇九年	十一月	八、八二	八、八二	九、〇〇	八、八七	九、五三	九、五〇	九、四八	一〇、四二	一一、〇七	一一、六〇	一二、七三	九、〇〇
	十二月	八、四一	八、四一	八、五三	八、七六	八、九一	九、一〇	九、三八	一〇、三三	一一、〇〇	一一、五七	一二、六六	八、五三

一六七

棉花の需要供給

年	月	右											
		一九〇八年	一九〇九年	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
一九〇八年	九月	八、八二	八、八二	九、一六	八、八八	九、六九	九、五二	九、五〇	一〇、五〇	二、二五	二、三五	二、三五	二、三五
	十月	八、三〇	八、三〇	八、五六	八、五五	八、九七	九、二五	九、一九	一〇、二三	一一、九四	一二、〇三	一二、〇三	八、五五
一九〇九年	十一月	八、六八	八、六八	九、一六	八、八七	九、七四	九、六五	九、六〇	一〇、六三	一二、五〇	一二、六七	一二、八九	九、一六
	十二月	八、三〇	八、三〇	八、七二	八、五五	八、八七	九、二二	九、一八	一〇、五〇	一二、六六	一二、五五	一二、五五	八、七二

一六六

第三編 棉花の生産

渡年	月	一九〇九年	一九一〇年	一九一〇年
一九〇九年	十月	、二四一、一五	、一四、三五一、三八	、一四、一五一、二〇
一九〇九年	十一月	、〇七一、〇九	、五八一、六〇	、一八一、一九
一九一〇年	十二月	、二八一、一九	、七八一、八〇	、三五一、三六
一九一〇年	一月	、二六一、一七	、八三一、八五	、四六一、四七
一九一〇年	二月	、二八一、二〇	、八九一、九一	、六三一、六四
一九一〇年	三月	、二四一、二五	、九四一、九六	、六六一、六八
一九一〇年	四月	、二五一、二七	、九三一、九五	、七九一、八〇
一九一〇年	五月	、二八一、二九	、九一五、〇〇	、六〇一、六五
一九一〇年	六月	、二四一、二五	、九二一、九二	
一九〇九年	十二月渡	、一五、七八一、八〇	、一四、二四一、二六	、一四、四五一、四八
一九一〇年	一月	、八〇一、八〇	、三〇一、三五	、四三一、四四
一九一〇年	二月	、九四一、九六	、三五一、三六	
一九一〇年	三月	、一六、二〇一、一二		

棉花の需要供給

前表以後の定期取引相場中毎月末の景況を列記すれば左の如し
第二十三表の二 自一九〇九年九月各月末定期相場表

渡年	月	一九〇九年	一九一〇年	一九一〇年
一九〇九年	九月末	、一三、一〇一、一二	、一九〇九年九月末	、一九〇九年九月末
一九〇九年	十月末		、一九〇九年十月末	、一九〇九年十月末
一九〇九年	十一月末		、一九〇九年十一月末	、一九〇九年十一月末
一九〇八年	十一月	八、七六	八、五三	八、九二
一九〇九年	十二月	八、七三	八、五二	八、七六
一九〇九年	一月	九、四七	八、七二	九、四〇
一九〇九年	二月	九、四三	八、七二	九、三〇
一九〇九年	三月	九、三九	九、一四	九、三六
一九〇九年	四月	一〇、三六	九、一〇	九、二二
一九〇九年	五月	一〇、九六	九、三三	九、〇二
一九〇九年	六月	一一、六二	一〇、二四	九、三三
一九〇九年	七月	一二、八五	一〇、九二	一〇、三三
一九〇九年	八月	一二、六七	一一、四九	一〇、三三
一九〇九年	九月	一二、八五	一一、五五	一〇、三三
一九〇九年	十月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	十一月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	十二月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	一月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	二月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	三月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	四月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	五月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	六月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	七月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	八月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	九月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	十月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	十一月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三
一九〇九年	十二月	一二、六二	一二、八七	一〇、三三

四月	、二三一、二四	、三五一、三七	、四〇一、四四
五月	、三七一、三八	、四一一、四二	、四七一、四八
六月	、三一、三三	、三六一、三八	、二〇一、二二
七月	、三八一、三九	、三五一、三六	、一七一、一八

一七〇

最近定期取引相場の最高を示せしは四十二年即千九百九十九年十二月末にして特に翌年七月渡相場に於て十六仙三八九に達せしものなりとす
上記は凡て高地棉花即ち米國に於ける主産棉花の相場なるも尙低地棉の相場につき其一端を記せば左の如し

銘 柄	ジョルジャー産		フロリダ産	
	一九一〇年二月	一九〇九年九月	一九一〇年二月	一九〇九年九月
フアンシー	三二、 ^地	二三、 ^地 、一二三、五	三二、 ^地	二三、 ^地 、五
エキストラ、チヨイス	二九、 ^地 、一三〇、	二二、	二九、 ^地 、一三〇、	二二、
チヨイス	二八、 ^地 、一二九、	一九、 ^地 、一二〇、〇	二八、 ^地 、一二九、	一九、 ^地 、一二〇、〇
エキストラ、フワイン	二七、 ^地 、一二八、	一七、	二七、 ^地 、一二八、	一七、〇

フワイ	二五、 ^地 、一二七、	一四、 ^地 、一五、〇	二五、 ^地 、一二六、	一四、 ^地 、〇一、一五、
コムモン	一二、 ^地 、一二四、	一二、 ^地 、一二三、〇	一二、 ^地 、一二四、	一二、 ^地 、〇一、一二三、

一九一〇年二月南、カロリナ産相場

- エキストラ、フワイン 三三、〇
- フリー、フワイン 三二、〇
- フワイン 三一、〇
- チンジト 二八、〇

尙ほ米國農業者組合にては棉花相場を維持せんがため種々の方策を講じ一千九百五年には棉花耕作地反別の二割五分を減ずるの決議をなし従て同年の作付反別は大に減少したりしも此決議は引續き實行せられず又相場低落の際に當り價格を保持せんがため各地方に倉庫の増設を奨励したる結果棉花倉庫數千五百有餘を算するに至りしも是亦相場の維持上著しき効力なかりし
千九百二年以降千九百九年に至る間米國高地棉の平均品位と平均價格及び低地棉、埃及棉の各年平均價格並に棉實の價格を掲ぐれば左の如し但し「ニュー、オルレアン」棉花取引所の平均値段なり

一七一

第二十四表 一九〇二—一九〇九 年 間 米 國 高 低 兩 地 棉 花 及 埃 及 棉 並 に 棉 實 平 均 價 格 表

年 次	平 均 銘 柄 (高地棉)	平 均 一 封 度 の 價 格 (セント)					埃 及 棉 噸 價	棉 實 一
		高 地 棉	低 地 棉		埃 及 棉	噸 價		
一九〇九	ストリクト、ミドリリング	一四、二九 ^{セント}	フロリダ	二七、一〇 ^{セント}	二七、一〇 ^{セント}	三、八五 ^{セント}	二〇、五〇 ^{セント}	二七、七〇 ^{セント}
一九〇八	同	九、二四	二七、九二	二七、九二	三、三九	二〇、二五	一五、六〇	
一九〇七	ミッド リンダ	二、四六	二四、二七	二四、二七	三、五九	二、〇〇	一七、六〇	
一九〇六	ストリクト、ロー、ミドリリング	一〇、〇一	二八、五五	二八、五五	三、七〇	二〇、〇〇	一三、八〇	
一九〇五	フリーリー、ミドリリング	一〇、九四	一七、五〇	一七、五〇	二、三八	一九、〇〇	一四、九〇	
一九〇四	ストリクト、ミッドリング	八、六六	一九、五〇	一九、五〇	二、七二	一五、〇〇	一四、二〇	
一九〇三	同	三、一六	二三、六〇	二三、六〇	二、八四	一七、七〇	一七、八〇	
一九〇二	ストリクト、ロー、ミドリリング	八、二〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	二、五〇	一五、五〇	一五、八〇	

尙埃及アレキサンドリア及び英國リバプールに於ける埃及棉の定期取引價格並にリバプールに於ける米棉の定期取引價格を掲ぐれば左の如し但し一千九百十

年 九 月 末 の 相 場 に して 埃 及 商 業 月 報 に よ り 摘 録 す 第 二 十 五 表 埃 及 棉 相 場 表 (リバプール取引所は弗相場なり)

年 次	埃 及 棉 「フリーリー、グード、フエヤ」 の 價 格		米 棉 「ミドリリング」 の 價 格	
	當 限	十 月 限	當 限	十 月 限
一九一〇年九月卅日	二二、 ^三 / _三	二二、 ^三 / _三	一、 ^四 / _六	七、 ^六 / _一
一九〇九年九月卅日	一九、 ^一 / _四	一七、 ^三 / _三	一、 ^〇 / _六	七、 ^三 / _六

尙一九一〇年九月三十日「アレキサンドリア」の埃及棉相場を銘柄毎に列記すれば左の如し

銘 柄	ブラウン	エジプト	アバツシー	サイツチ
フ エ ヤ	一六、 ^一 / _四			
フリーリーフエヤ	一八、 ^一 / _三			
グード、フエヤ	二〇、 ^一 / _四			
フリーリー、グード、フエヤ	二一、 ^一 / _三	一八、 ^五 / _八		
グ	二二、 ^一 / _四	一九、 ^一 / _四		

茲に米國低地棉花の價格につき附言せざる可らざることあり即ち低地棉の價格は高地棉の短纖維物のために壓迫を受くるが如き事はあらずと斷言するを憚らざるも高地棉中長纖維物即ち生産の部に述べたる「ロング、ステール、アップランド、コットン」の收穫の多寡は直ちに低地棉の最低格品に影響し爲めに不測の損害を蒙ることあり又埃及棉花は漸次改良を加へられ良品棉花を産出すると共に各地に其良種を移植せられ盛に栽培の方法につき研究されつゝあるを以て近き將來に於ける低地棉の勁敵として屬する可らざる頑強なる競争者たること疑を要せざるべし

清國內地の原棉相場は毎年新棉の出廻り初期三十日位は比較的安價なれども此期間を経過するときは漸々上向きの変となるが如し其基因する所單に農家の囊底にありとす即新棉の出鼻には各農家は殆んど囊中に現金を失ひ居るを以て幾許の現金を握らんがために値段の高低如何を論せず我れ勝ちに競ふて賣出づるがためにして一旦農民が多少の金錢を懐にし之にて或期間は生活に困難することなしと見込を附けたる上は忽ち強硬の態度と變じ容易に棉花の賣放ちをなさ

ずして買人の心理を偵察するものゝ如し此時に當り農家の言ふが如き値段にて買はざるときは已むを得ずして農家は泣寝入となり暫くありて賣出すを常とす然れども清國棉は元來人造含水の惡癖を實行しつゝあるを以て稍高値にて農家より買入るゝことあるも水分の法にて手加減するときは差支へなしとの考を有する地方の繰綿屋は農家の言値の儘にて買進むの惡習あり故を以て棉價は依然として昂騰の姿を持続するものなりとす

第四節 取引所

棉花取引所及取引所の取引に付ては各國に亘り逐一述ぶるの煩を避け世界最大棉産國に於ける状態につき其大要を掲げて参考に資せんとす即ち米國に於ける棉花の大集散地たる「ニュー、オルレアン」、「ガルヴェストン」、「ヒューストン」、「ダラス」、「メンフキス」、「サヴァナ」、「モビール」及紐育、聖路易等には何れも棉花取引所の設けあり紐育及「ニュー、オルレアン」の兩所は一八七〇年頃の設立に係り「ガルヴェストン」、「ヒューストン」、「サヴァナ」、「モビール」其他は何れも其以後の設立に係れり然して取引所は何れも會員組織にして紐育取引所は現今四百五十名、ニュー、オルレア

一七六

ンスは四百三名、サヴァナは百五十八名の會員を有せり取引は紐育及、ニューオル
レアンズ」の兩所にありては現物及定期の兩様ありと雖其他の取引所にありては
定期取引を許可せざる所多く従て主として現物取引に限れり定期取引にありて
は賣手は其限月の内何日頃にも三日前(紐育規定)に豫告を與へ倉庫より買手に
荷物の引渡しをなし得べく又「フェア」乃至「グッド、オルジナリー」の内何れの品等
にても引渡し得べき選擇權を有せり但し「ニュー、オルレアンズ」にありては五日前
に豫告を與へ壓搾所又は停車場より荷物の引渡しをなし得る規定を有せり取引
の様子は穀物取引と敢て差異なし各地の取引所にありては何れも數個の大なる
黑板を備へ英國「リヴァプール」、紐育及「ニュー、オルレアンズ」或は「ガルヴェストン」、メ
ソフィキス」其他主要市場の相場を入電毎に記入し又其地方に於ける着荷數賣上數
或は輸出數量等荷動きの情況を記入し以て一見其變動を知るの用に供し所内に
電信出張所を有し又「チッカー」其他の通信機を供ふ又氣象の圖を備へ以て栽培中
及收穫時に於ける天候の變動如何を知るの用に供せり「ガルヴェストン」其他數個
所の取引所に備ふる氣象圖は長さ約十呎高さ約七呎の合衆國地圖の上に硝子を
張り主要なる都市及其地名の場所の外は總て半透明の擦硝子となしあり此上に

一七七

日々氣象報告の通り氣壓、氣温、風力、風向、雨雪、晴曇等總て別色を附したる白墨を以
て記入し殊に暴風雨の襲來等には最も注意をなし警報の達するや直ちに之を記
入し其方向を知らしめ仲買人等の参照に供せり
而して相場の變動に付ては主として「リヴァプール」、紐育及「ニュー、オルレアンズ」の
相場並に荷動きの如何により變動を生ずるものなるが作柄不良の年に於て投機
者の買占顯はれし際にありては之れが爲め相場を左右せらるゝこと甚しく従て
棉花取引所に關し議論を生ずるに至れり
一九〇八年來取引所改良の爲め調査中なりし會社局委員「エチ、エン、スミス」氏の最
近に提出したる報告書に於て棉花取引所の先物賣買に關しては殆んど賭博に類
するもの多く之れが爲め法外なる相場の變動を來し棉作業者を迷はしめ又多
くの場合に於ては相場の下落を來し以て農家の損失を醸すこと少なからずと爲し
又紐育取引所に於ける引渡棉花品等の一定等差を攻撃し一ヶ年に二度の改正に
ては不充分なりとし時價等差に依るを正當と爲せり蓋し棉花の定期取引にあり
ては次節に述ぶるが如く豫め取引の際にありては「ミッドリング」品等を標準品と
爲せども實際荷物引渡しに際しては其年の作柄如何により「グッド、ミッドリング」

或は「ストリクト、ミッドリング」又は其他の品等に位するもの最も多量に産出し従て引渡棉花の品等は引渡當時に至らざれば確定せず然して優等品又は劣等品の引渡しを爲すに當りては取引所にて定むる標準に依り割増又は割引の上引取を爲すものなるが紐育取引所に於ては毎年九月及十一月の兩月に於て其年の作柄如何により品等等差率を査定し之に依りて受渡しを了することゝなし居れり然して一九〇八年五月同委員提出の第一報告書發表せられし以來紐育及「ニューオルレアンス」の兩取引所に於ては特に調査委員を設け取引所改良方法に關し取調を爲し「ニューオルレアンス」に於ては會社局委員の意見に従ひ改良を施し等差率も大部分時價等差に依ることゝなしたるも紐育に於ては諸種の事情あり又利害得失に關し議論多く従て未だ決定の運に至らず

又第六十一回の中央議會に於て農業者組合を代表し提出せる「スコット」案は賭博的取引禁止に關し又「パールソン」案は先物契約取締に關せるものなるが主として紐育棉花取引所に於ける投機的契約賣買に制裁を加へ賭博的取引を禁せんとするものなれども其實際にありては直接荷物の引渡を希望せる取引と投機的取引の識別は甚だ困難にして爲めに取引所側にありては到底實行し難きものなりと

の説多數を占め大に反對の態度を取り居れり蓋し紐育にありては一八八〇年以前迄は一大現物市場なりしと雖同年より直通積荷證書の發行せらるゝに至り紐育に於て賣買契約を爲したるものも生産地方より直接購買者の所在地迄輸送し引渡をなし得るに至りし以來紐育に於ける現物取引は大に減少を來し従て紐育取引所は主として定期取引即先物賣買をなすことゝなれり蓋し現物を紐育に留置くときは一俵に付平均一弗五十仙の冗費を要すと云ふ又農業者側の云ふ所に依れば取引所に於て投機的行爲の行はるゝ結果相場の變動甚しく往々不正の下落を來し従て損失を醸すこと少なからずと云ひ又た需要者側の或者の意見に依れば投機的行爲の爲め不正なる相場の騰貴を來し且つ先物を買得し愈々荷物の引取を爲すに當り現物相場騰貴の場合には其引渡を受くる荷物は多く劣等品にして或る場合には殆んど使用し難き現物の取引を受くるが如き不便ありと云へり蓋し相場騰貴の場合にありては需用者側たる紡績業者は不平を訴へ相場下落の場合には農業者は其聲を高くし取引所を責むる有様なるが事實に於て先物賣買を廢止するときは忽にして需要者側は不便を感ずるに至るべく又農業者側にありても賣行の見込を立つる困難を感ずるに至るべし従て先物契約の廢止は到

底行はれ難きも引渡荷物の品等を稍狭き範囲内に限ることは或は行ひ得べきが如し尤も前記法案は未だ調査中なるを以て其結果を知るを得ざるも取引所に於て行はるゝ賭博的行爲禁止の爲め改良を要求せるもの多きは事實なるが如し紐育取引所の取引高は世界第一にして「リバプール」及「ニュー・オルレアンス」兩取引所を合したるに等しき取引高を有し總取引高は當國棉花收穫高の約十分の八に達すと稱せらると雖其内最大部分を占むるものは定期の賣買高なり今紐育取引所の統計に依るに紐育に於ける棉花總集散高は四十一年度（自九月至翌年八月）百三十五萬俵にして内四十五萬俵は外國へ輸出し八十九萬俵は北部紡織所へ仕向けられたるものなるが其内紐育にて行はれたる取引高は現物取引二十四萬俵契約引渡五十萬俵に過ぎず前年度の取引高は之よりも少なかりしが前々年度の取引高は略々同様なり

第五節 一般の取引

世界の棉花相場は従來米國によりて支配され居ることは既に述べたるが如し然して其標準値段は刻々電報によりて通信せらるゝことも亦前節述ぶる所の如く

各地棉花貿易業者の取引基準となるものにして之れが標準棉花は「ミドリリング」アップランドなることも亦既に説明を了せり米國內に於ける棉花の取引は既往は左の順序によりて始めて貿易業者の手に入るゝ事を得たりし即ち

農家 → 農村土着の商人 → 州委託商人 → 海港商人 → 紐育貿易業者 → 「リバプール」貿易業者其他一般の商人及諸外國の仲買業者

如上の複雑なる手順を経て始めて需要者に供給するを得べし棉花は現今悉く取引所の相場により耕作場或は鐵道停車場に於て各生産者より持出し集積したる儘轉賣さるゝが如き頗る簡單なる方法となれり然して幾多の仲買人は日々彼等の得意先即ち各國に向け船積みし頻繁に輸送しつゝあり米國內に於ける棉花の取引は風袋量を除外せず是れ其取引方法が總量を以て取引をなすに據れり然るに歐洲に於ては包布量として百十二封度につき四封度づつ帶鐵十本につき十三封度宛を其他荷爲替料として一俵につき二封度づつを控除するを以て米國の送狀面は棉花百俵につき例へば五萬封度ありとも歐洲にては四萬七千封度内外に減却せらるゝなり是れ次に述ぶる第一法の計算なり「リバ

- プールに於ける取引法は左の三種あり
- 第一は日本に於ける先物賣買と寸毫異なることなく普通の先物賣買にして棉花到着すれば買方に引渡すものなり此場合に於ては豫め見本を提供して品質を確定し置き荷受に際し棉花の鑑定に容易ならしむ
- 前項の見本は通常締直し所に於て締直しの際俵の中部を小刀にて横に切り之を取出すものなるが毎俵必ず見本を取り以て其品等を定むるものなり
- 第二は波止場渡にして賣方は指定港に到着する迄の責任を有す故に本國より指定港に到着する迄の運賃保険料及び手数料は賣方の負擔に屬し其他到着港に於ける荷役費、入庫運搬費、倉敷料、税關手数料等は買方の負擔に歸す此約定法は第一法と同じく見本によりて品質を確定し置くものなれども此取引に於ける風袋の減量は第一法と異なり送狀記載面の百分の六と定めらる故に或は賣買相互間に利益の事あり不利益の事あり假令買方は百分の六以上の減量を要求せざる可らざる理由ありとも百分の七以上の減量を許さず此取引法を稱して C.I.F. & S. と云ふ即ち通稱「インボイス」取引是なり
- 第三法は實量取引なり然して殊に前二者と異なるは引渡期日の十日以前に荷受

人に通告を發するにあり然れども此通告ありし後買方は所要に應じ期日以前に引渡しを要求する事をなし得るの特典あり

印度棉にありては各代理商館は各地に出張所を設置し置くを以て紡績業者は之等出張所との間に取引をなし出張所は各本國へ電報にて注文の通告をなすを例とす然れども三井物産及日本棉花の如き日本人經營の貿易商館は產地附近に支舖を設け置くものなるを以て買付は内地本店より出張所へ向け通告するときは出張所に於ては其申込の承諾を受く斯くして約定決定すれば產地所在の外商又は内地人經營の出張所は棉花を船積みし輸送の手配をなす然して此際船荷證券及送狀を發し紡績業者の取引銀行宛にて荷爲替を取組むものなり

清國棉の取引は市場に於てなすものと農場直接になすものとの二様あり何れも現金取引にして先物賣買は斷じてなし漢口附近に於ける農家は其耕作したる實棉を地方の小綿屋に賣り小綿屋は線綿となし之を漢口より出張し來る棉花商人に賣渡すか或は小綿屋自身にて漢陽の市場に持ち行き賣捌くを通例とす然して現金賣買の際は買方に於て衡量して受取り時として三十日拂ひとなすときは棉花の賣方に於て衡量して引渡すものとす是れ清國の衡器は不精確なるに基く

商業上の慣例なりとす上記の現金支拂ひ取引にありても漢口地方にては眞の現金を支拂ふものにあらずして現金支拂といへば十五日拂ひと言ふことを意味するなり然して棉花の買入れ人は約束手形にもあらず又小切手にもあざる一種の書付けを賣人に渡し置き賣人は十五日の期日の來るを待ち右の書付けを指定銀行に持参し現金と引換へをなす

通州棉花の賣買方法は各生産地に於て小綿屋が實棉を買入れて手繰となし小車又は小舟にて通州に持ち行き棉花仲買人に賣却するなり棉花仲買人は其品質良好にして意に適すれば直ちに現金を支拂ひて買入るゝものなれども品質悪しき時は其價格の如何に拘はらず容易に買入れざるを以て小綿屋は時々投賣をなして歸ることありと云ふ其取引契約は多く茶館に於て行はれ恰も小取引所の觀をなす此處にて成立したる契約値段は其地方に於ける公定相場の觀あり

日本在住の清商は一定の店舗を有し常には清國商品を買賣し且つ日本商品を輸送するを以て本業とせり清國に於ける棉行中輸出商館の手を経ずして我國に輸入し來る棉花は此清商に委託販賣さるゝものなり然して其代金は日本商品の輸送により貸借を決済せらる此爲替用の商品は通常八掛以内にて債務の償却に充

てらるゝ由なり印度棉、米棉、埃及棉等も亦日本在住外商の手を経由するもの多く荷爲替の取組も從て外人商館によりてせらるゝもの多し

本邦各紡績會社の外國産棉花の輸入取引は現物又は某月積送の先物契約なり受渡しは本船或は波止場、倉庫渡等種々あり日本の輸入商は多く委託買付なるを以て現物到着すれば直に紡績會社に引渡すか或は會社の代理者として荷役、入庫等の手配をなす然れども不定期に輸入せらるゝを以て單に荷印毎に區分すること困難の場合多きが故に解船業者は本船より一時に多量の荷印混亂したる棉花を受取り倉庫會社又は委託商人自家經營の上家或は税關經營の上家内に荷印別として揚陸し荷主に通告す荷主は船荷證券によりて其引渡しを請求するものなれども容積重量共に偉大なる本品棉花の受渡しは困難名狀す可らざるにより會社が直様自營倉庫に引取るときは別として其他は全部倉庫會社に委託し倉入保管を取扱はしむるを例とせり倉庫會社は如上の棉花に對し賣買一口毎に倉荷證券を發行して荷主に交付す然して棉花の倉出し引取は證券の裏書移轉を以てす

如上の受渡結了迄に於ける複雑なる問題は時々賣買相互間に突發し委託商人を惱ます事屢々なり然れども荷受主として當然申出であるべき範圍内の事柄は利

害問題として是非協定せざるを得ず即品質の合否、損害の有無、入荷の遅速及び「インボイス取引に於ける量目の諾否等なりとす然して品質の合否にありては賣買兩者互に其主張する論點の一致を以て程度とすべく損害の有無に於ては亂俵、雨潮による浸潤、油其他外敵より受けたる腐敗或は實質の變化等に注意を要する」と多く量目の諾否も亦頗る難題なり是れ棉花は常に乾濕の影響夥しく空氣中の水分を吸収するの性質を有するを以て幾分空量目の取引あること誠に止むを得ざる事なりと雖も此賣買に際し乾燥に失すれば減量して取引者間に利害相伴ひ濕潤すれば即ち空棉の賣買となりて忽ち背徳の受渡となる可し故に賣買兩者立會の上正當に衡量して水氣の有無を協定し然る後送狀取引上の條件即ち送狀面記載の量目が實際衡量したる量目と對照して若し送狀記載面の量目が實際衡量したる量目を超過することが送狀記載面量目の百分の一以上なるや否やの問題なりとす此際其差額が百分の一以下にあるときは此不足額は買主の負擔となるものにして百分の一以上なりしときは百分の一丈けは買主の負擔となり百分の一を控除したる殘餘は賣主の負擔に歸す之を數字にて著はすときは左の如し但受渡の俵數は百俵とし「インボイス」面斤量は五萬封度と假定す

- インボイス斤量 試賣 インボイス斤量の1%
- (1) $50,000 - 49,500 = 500 = \frac{50,000}{100}$ 買人の負擔
- (2) $50,000 - 49,600 = 400 < \frac{50,000}{100}$ 買人の負擔
- (3) $50,000 - 49,400 = 600 - \frac{50,000}{100} = 100$ 買人の負擔

即ち第三の場合に於ける一百封度は賣人の負擔に歸するものにして此外契約所定の百分の六は風袋量として差引計算をなすべきものなり
以上各種の問題は場合により「サーベアー」の立會を要求し公平なる裁斷を下さしめ又は棉花同業者會委員の鑑定に委ぬること屢ありとす此他解俵後に發見したる不正の内容品即ち粗悪品の混入棉花以外の物品の挿入又は實質の變化損傷等其都度委託商人に向て提供する所の協定問題なりとす入荷の遅速亦需要者に取りて大關係を有し即入荷速きに失すれば其事實が明かに證明され首肯し得べき場合は別として一般受渡しを延期するを要す然らざれば金利倉敷に損あり之に反して入荷遅きに失すれば所要原料に不足を告ぐる場合なしとせず故に是も亦輕々視すべからざる事項なりとす而して米棉にありては直航五六十日歐洲廻り

七八十日にして日本に到着するを普通とす
 實量取引にありては米棉の風袋は二十五封度とし埃及棉は二十二封度印度棉は九封度二分の一なりとす是れ日本に於ける實量取引上の「チャー」にして米國に於ては米棉は二十二封度埃及棉は十八封度として取引さるゝが如し其他「アツプラ」ンド「九俵」に對しては三封度「シーアイランド」棉花の「チャー」は一俵分十封度として取引さるゝが如し

第六節 清國棉花人造含水の事

清國棉花の水氣問題は屢當業者をして懊惱せしむる事柄なるを以て特に一節となして之れを研究すると共に其含有する所以を明にし取引上の参考に資せんとす
 清國棉花の最大顧客は日本の各紡績會社にして不知不諱の間に棉花と共に運賃を支拂ひ清國の輸出税金を負担して大量の水を輸入しつゝあり然も棉花百斤につき十斤二十斤甚しきは二十四五斤の水分を含有せしめたるものありと聞く然して清國に於ては輸出棉花に對し海關兩三匁五分の税金を一擔毎に賦課するを

以て此海關兩を上海兩に換算するときは四匁となり繰綿百斤につき一割即十斤の水分ありと假定すれば日本の各紡績會社は清國棉百斤に對し悉く四錢宛の輸出税金之を言換ふれば十斤の濁水を原價四錢にて清國政府より買入れつゝあり之れを一千九百九年清國より日本へ輸入したる棉花總額六十一萬二千五十二擔に付き計算するときは其水稅實に二萬四千四百八十二圓八錢の高價に上り剩へ之に運賃を支拂ひつゝあるを見ては豈驚嘆の外なけんや實に愚の甚しきものなりとす其水量は六萬一千二百五擔餘に當る計算なるにより清國棉花の運賃より計算するときは普通日本へ輸送するには百斤五十錢なるを以て水量六萬一千二百五擔餘に對し三萬六百二十圓五十錢餘の運賃を支拂ひ船賃其他諸掛り百斤に付三錢づゝ即ち一千八百三十六圓十五錢は日本の紡績會社が清國に對して支拂ひ來りし所にして其總額金五萬六千九百二十圓七十三錢餘なりとす尙以上の水量を清國堅俵に換算すれば一萬五千三百一俵餘となり内地港灣到着後に於ても此俵數に對する運賃及諸掛りを空費したりしものと知るべし殊に此俵數に對し現物棉花同様に百數十萬圓の代金を支拂ひたるに於ては啞然たらざるを得ざる愚の極點なりとす

清國棉花に水分を含ましむるは一般棉花商人の行爲にはあらずして棉産地に於ける小綿屋即ち花行なるものなりとす其含水方法たるや繰綿を廣場一面に擴げ一様の厚さとし之に噴水器にて適度に彼等が欲する所の水を注ぎ其上更に棉花を擴げ又水を注ぐ斯くすること數疊にして一夜を経過す然るときは一體に水分を吸収して表面のみに水分を遊離することなし此含水棉花を荷造りし市場に持出すなり如上の手数を煩とせずして悉く施しつゝある理由として稍見るべきものあり即ち百斤の繰綿につき十斤の水を注ぐものとして棉價百斤二十兩とすれば水の價は二兩となり頗る高價の水懸け賃となるなり然れども棉花の買入は常に百斤に付二斤半即二分五厘を水量として差引くものなるにより結句七分五厘は繰綿屋の注水手間賃となり勞銀の低廉なる農家に於ては無盡の水を棉花同様に賣捌き得るを以て遂に悪習となり永久に打破し能はざる状態とはなりしなり此水分に對する代金は表面繰綿屋の收得するものゝ如きも其實繰綿屋は實棉百斤につき三十六斤の出目を計算して灌水量を豫め計算中に入れ競争して實棉を買入るゝものなるを以て見込みの水代は却て損害の原因となること屢あるのみならず此巨額の水代は全く無智文盲の農夫共の懷を肥やすに止まれり以上は繰

綿屋が含水せしむるものなれども之に清國の綿花商人が特に多量の含水を繰綿屋に注文することあり之れは棉花の見込賣りをなし置きたる場合に行はるゝ事柄にして棉花の引渡期に差迫り價格騰貴して損害を招くべき時に當り實量棉花の量目を減じて空量を増加し多少にても損害を填補せんと欲するより斯くは態々繰綿屋に注文して多量の含水をなさしむるなり然して日本の綿屋或は紡績業者は此多量の水分あることは大抵推知し居りながら該棉花は先きに買入れし安價のものなりとの概念より彼是苦情を持出すときは他に轉賣せられん事を恐るると共に不知不識に綿代と共に多量の水代を交付するものにして取引毎に陥穽に引入れられつゝあるものなりとす此の如き水氣の検査につき検査所の設置を希望し完全に水氣検査を行ひ水氣あるものは取引に上らしめざる方法として日本が支拂ひつゝある水分の代金丈けを夫れが經費に充當するときは誠に容易なる事件なりと雖も到底目下の問題として良好の解決を見ること能はざるべきは遺憾の極なりとす

第七節 棉花の鑑別

棉花の長短、強弱、醜美、不同の有無等を鑑別するは取引上最須要の事なり尙用途に應じての色合の適不適は勿論一見清潔なるや否や、枯葉の混採、種子、土砂其他の夾雑物の有無、汚染腐敗等許す可らざる遜色あるものあり然して織緯の最も卓越せるものは長く強く且所要の色澤を有し柔軟にして滑かに絹様の觸感あり然も不問なく塵芥なく佳麗なる外觀を有するものとす普通の棉花織緯は前記の如き醜美に於ける外觀及各國産棉種類銘柄毎に特有の長さにより良否を決せらるゝと雖も尙ほ其長さ強弱等各種につき最大限を知るの必要あり其鑑識及び檢定法に至りては諸種の方式ありと雖も米國農務局に於ける綿絮の檢定法は最も確實と認めらるゝ方法の一にして其檢定順序は左の如し

長•の•測•定•法、先づ實驗せんとする實棉の内十顆乃至二十顆を撰出し各房の中心に近き所にて綿絮の種子に附着したる儘の一粒を大切に引出し其種子を中央に置き羽根を廣げたる蝶のごとくに織緯を左右に分ち其の一方の絮房を可成核の近くより毫り採り黒天鷲絨の小布片の上に櫛にて梳き並べ且つ織緯の毛羽は各々直線の位置を保持せしむるため臺に小傾斜を與ふ然る後ち其絮の根の方を指頭に天鷲絨を冠らせて再び確か押し付け小櫛又は刷毛にてヌラリと櫛けす

りて放置す是れ織緯の全長を一直線ならしむるための準備にして長さ「ステープル」の棉花にありては殊に細心の注意を要すべきなり次に其の尾端附近に不整なる散在の棉絮は「ビンセット」を以て悉く摘去し同様の長さの織緯を可成揃へる事に苦心すべし爰に於て「ミリメートル、スケール」を以て長さを測定す此際各端末に至る長さを一本一本に試測し得らるれば幸なれども之れ全く出來得可らざる事柄なるが故に總體の平均したる長さを目分量にて出來るだけ確實に測るを必要なりとす然れども此測定は線綿の賣買上屢普通に行はるゝ試験の結果より短きものあり其因る所は普通取引上の手撰による測定法にありては短織緯は凡て撰出して放擲され再三反覆の後漸く此位ならばと言ふ程度にて決定さるゝにありて彼等が指先に残りし試験材料は一攫みの中の最長部分を撰り出さるゝ故なりとす

以上の器械測定は十顆或は二十顆の實棉につき悉く行はれ其平均の長さを以て其産地方の棉花織緯の長さとするものなりと言ふ

織緯の強弱の査定、棉花織緯強弱の査定は棉産期の氣候の状態を根本とし線上场にて實棉受領後の處理に際し各地方にて摘採の期節に當り規定として成る可